

THE MITSUBISHI FOUNDATION ANNUAL REPORT

2023

三菱財団年次報告書



公益財団法人 三菱財団

THE MITSUBISHI FOUNDATION





私たちは、学術研究、社会福祉、文化財等に関する  
事業等に援助を行なうことで  
日本の学術、教育、文化、福祉の向上に貢献しています。





# 第54回三菱財団年次報告書

## 目次

ご挨拶 ..... 3

未来につながる研究・事業助成 ..... 4

助成報告 ..... 15

**1** 自然科学研究助成先一覧 ..... 16

**2** 人文科学研究助成先一覧 ..... 37

**3** 社会福祉事業・研究助成先一覧 ..... 47

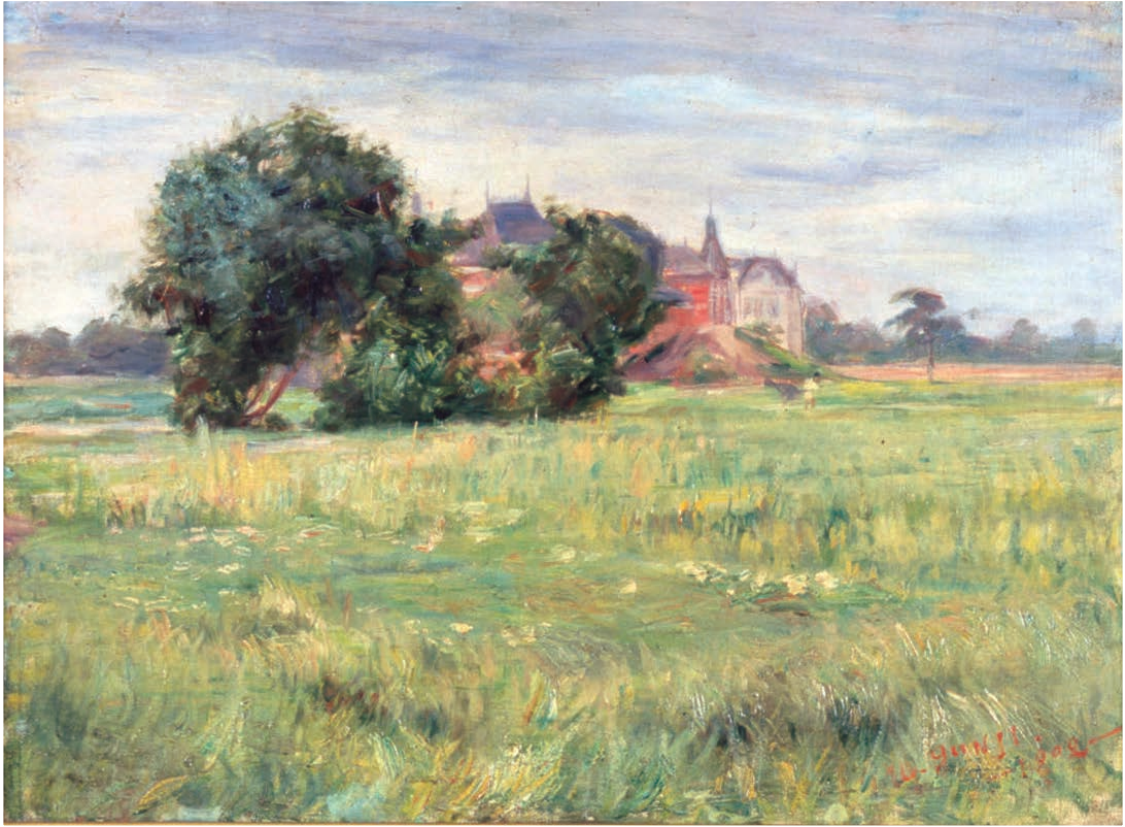
**4** 文化財保存修復事業助成先一覧 ..... 59

三菱財団社会福祉特別助成  
「外国にルーツがある人々への  
支援活動応援助成(第4回)」助成先一覧 ..... 63

三菱財団のあらまし ..... 67







明治32年頃の丸の内 通称「三菱ヶ原」

画像提供：三菱地所株式会社



## ご挨拶

2023年度年次報告書の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当財団は、三菱創業100周年を記念し、創業以来の社会貢献の精神を形とすべく1969年に設立されました。2010年に公益財団法人に移行し、2019年には設立50周年を迎え、今日まで一貫して研究助成、事業助成を続けてきました。今後も日本社会に貢献していくというその使命を、引き続きしっかり果たしていきたいと考えております。

2023年度は、自然科学（一般助成及び若手助成）、人文科学、社会福祉、文化財保存修復の各分野で通常助成を計画通り実施するとともに、社会福祉分野では、中央共同募金会との共同助成により特別助成（第4回）を実施しました。

2023年度助成実績としましては、通常助成において、自然科学研究助成、人文科学研究助成、社会福祉事業・研究助成、文化財保存修復事業助成合計で1,555件と非常に多数の応募を頂き、厳正かつ慎重な審査・選考の結果、139件・563.9百万円の助成を行いました。また、社会福祉分野の特別助成（中央共同募金会との共同助成）として、「赤い羽根 ポスト・コロナ（新型コロナウイルス）社会に向けた福祉活動応援キャンペーン“外国にルーツがある人々への支援活動応援助成 第4回”」を実施し、42件・40百万円（当財団拠出分）の助成を行いました。これらにその他諸事業費助成2件・2百万円を加え、2023年度助成実績は、183件・605.9百万円となりました。当財団設立以来の助成実績累計では、件数4,916件、助成金額20,951百万円となりました。これまで長年に亘り、多方面の皆様より賜りましたご支援、ご指導に対し、改めて心より厚く御礼申し上げます。

皆さまにおかれましては、引き続き幅広いご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げますとともに、財団の諸活動につきまして、忌憚ないご意見およびご指導を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人 三菱財団  
理事長

三毛 兼 承





# 未来につながる研究・事業助成

## 2023年度の助成について

2023年度は、自然科学（一般助成及び若手助成）、人文科学、社会福祉、文化財保存修復の各分野で通常助成を実施するとともに、社会福祉分野では、昨年度に続き、特別助成（第4回）を中央共同募金会との共同助成で実施しました。

内訳としましては、通常助成において、自然科学分野1,122件8,193百万円、人文科学分野254件720百万円、社会福祉分野155件629百万円、文化財保存修復分野24件62百万円の応募に対し、自然科学分野66件365百万円（うち若手助成15件60百万円）、人文科学分野29件68.9百万円、社会福祉分野33件100百万円、文化財保存修復分野11件30百万円、合計139件563.9百万円の助成を行いました。また、社会福祉分野の特別助成として、中央共同募金会との共同助成により、「赤い羽根ポスト・コロナ（新型コロナウイルス）社会に向けた福祉活動応援キャンペーン“外国にルーツがある人々への支援活動応援助成 第4回”」を実施し、63件130百万円の応募に対し42件40百万円（当財団拠出分。中央共同募金会拠出分を合わせた助成総額は80,340千円）の助成を行いました。これらにその他諸事業費助成2件2百万円を加え、2023年度の助成実績合計は、183件605.9百万円となりました。

## 助成金贈呈式

2023年9月11日、丸の内の東京會館で、助成金受領者と来賓、選考委員、財団役員合わせて約230名が出席し、2023年度助成金贈呈式が開催されました。今回の贈呈式は、コロナ禍の影響による開催見合わせを挟み、2019年9月以来4年振りの開催となりました。

贈呈式では、三毛理事長の挨拶、各分野の選考委員長からの審査報告の後、助成金受領者に贈呈書が贈られ、各分野の助成金受領者代表の方々が、謝辞とともに自らの研究・事業内容等を披露されました。







## 自然科学 審査報告

自然科学選考委員長  
十倉 好紀

2023年度の自然科学部門研究助成の選考結果をご報告申し上げます。

本年度の自然科学部門の研究助成の総額は3億6千5百万円となっております。これは、昨年実績と同額で、内訳は、一般助成3億5百万円、若手助成6千万円となっております。

本年度の応募総数は一般助成771件、若手助成351件、計1,122件、昨年と比べ72件の増加となりました。応募件数は、一般、若手とも昨年比増加となり、競争率は、一般は15.1倍、若手は23.4倍と引き続き高倍率となり、内容的にも高いクオリティを維持しております。

選考にあたっては、応募された研究計画のユニークさや既存概念にとらわれない研究かどうか、研究者のこれまでの研究実績などから当該研究の実現性等も考慮にいれ、また、若手については若手らしいチャレンジングな研究か等の観点も含めて見るように心がけました。

審査手続きにおいては、選考委員会は実開催とオンラインを組み合わせ、面接はオンラインを活用し、効率性を意識しつつも、活発な議論を行った上で、クオリティの高い助成先を選定いたしました。

その結果、助成件数は一般51件、若手15件、合計66件を採択候補と致しました。

次に選考された課題を一般助成で医学・生物系1件、理工系1件を、若手助成で医学・生物系1件を、ご紹介申し上げます。

まず初めは、一般助成の生物系から29番 東京大学大学院医学系研究科 竹田 誠（たけだ まこと）さんの、「重症ウイルス性肺炎発症の分子基盤の解明」です。

申請者らは、インフルエンザウイルスやコロナウイルスなど肺炎を起こす主要な呼吸器ウイルスの感染力が、宿主のプロテアーゼ（タンパク質分解酵素）TMPRSS2により増強されることを明らかにしてきました。本研究においては、TMPRSS2の生体利用効率という観点からウイルス性肺炎の重症化との関連を解析し、ウイルス感染をトリガーとした臓器間バリアの破綻メカニズムと二次性細菌性肺炎発症の分子基盤の解明を目指しています。ウイルス性肺炎重症化の

分子機構を包括的に理解することを最終目的としており、臨床的に、たいへん重要な研究と考えられます。

次に一般助成の理工系から21番 東京大学大学院理学系研究科 小林 研介（こばやし けんすけ）さんの、「色中心量子センサを用いた精密物性計測技術の基盤開発」です。

ダイヤモンド中の窒素空孔中心や窒化ホウ素中のホウ素欠陥は、内部に独特のエネルギー準位構造（色中心）を持ち、そのスピン状態をきわめて敏感に、光学的に読み出すことが可能であることが知られています。本研究は、このような色中心を量子センサとして用いた量子スピン顕微鏡を開発し、物質の磁気構造、たとえば超伝導体の磁束量子や単原子層磁性体の磁気ドメインのダイナミクスを、超高精度かつ広視野でイメージングする技術を確立することを目指すものである。磁性研究に新展開をもたらすことが期待される優れた研究提案です。

若手助成では、医学・生物系から7番 筑波大学医学医療系 高橋 徹（たかはし とおる）さんの、「冬眠状態を誘導するQニューロンの睡眠覚醒制御への関与」です。

代表研究者は大学院在学中に、神経ペプチドを産生するニューロン群のうち脳の視床下部視索前野に局在するニューロン群（Qニューロンと呼ばれます）を興奮させると、マウスが冬眠のような状態となり、活動および代謝の長期的な低下が生じることを明らかにし、人工冬眠の研究分野において高く評価されています。本応募は、人工冬眠の研究から進めて、Qニューロンが生理的には自律神経を介した睡眠制御に重要な役割を果たしていると考え、その生理学的機能解明を行おうとする挑戦的な提案です。

最後に、三菱財団の研究助成は、公募制を貫き、将来に向かって大きく羽ばたく可能性を秘めた研究者を選んできたことでもよく知られております。本年度もこの伝統にそった選考を行うべく努力いたしました。

今回は、一般、若手合せて総額3億6千5百万円の自然科学研究助成により、66件の研究を支援することとなりました。心からお礼申し上げます、ご報告を終らせて頂きます。





## 人文科学 審査報告

人文科学選考委員長  
岩波 敦子

人文科学部門の研究助成選考結果についてご報告申し上げます。

今年度は、助成総額を昨年と同額の7千万円として頂き、昨年度同様、大型連携研究助成（大型助成）を一般助成の枠内で実施しました。

応募は大型13件、一般241件と、昨年度に引き続き増加し、コロナによる厳しい研究環境の中でも、研究者が前向きに研究に取り組もうとしている姿勢を感じました。

審査にあたっては、選考委員会、面接共に実開催とし、大型は面接を経て1件、一般は29件を採択としました。そのうち女性が5人16.7%（前年比6人減、18.8%減）と減りましたが、平均年齢は46.1歳（前年比△2.7歳）とここ数年の48歳台から若返っております。

withコロナからpostコロナへ移行する中、ここ数年制約を受けていた海外調査を積極的に計画に盛り込み、現代社会が抱える今日的課題解決を目指す意欲的な着眼点を持つ研究課題が多く寄せられました。その結果、今年度も深い人間理解に資する人文科学と、現代的課題にも直接かかわる社会科学の双方から、多彩な研究をバランスよく採択できました。

ここで今回の助成先のなかで、代表的な研究をご紹介します。

まず大型助成案件の1番 新井亜弓（あらい あゆみ）さんの「携帯基地局データによる公的統計保管の実証研究：タンザニアとガンビアを事例として」です。

本研究課題は、社会政策を行う上での基本的な統計が未整備にもかかわらず携帯電話の普及が進んでいる発展途上国を研究対象として、携帯基地局のビッグデータを活用して公的な統計不足を補完し、途上国の交通システムや行政サービスの費用対効果の向上に向け、具体的な政策立案、計画立案を目指しております。

対象国タンザニアやガンビアとの事前の連携準備も進んでおり、インパクトや波及効果、国際的な広がり、社会的な貢献の指向性、通信と人間との関わりなど、様々な面からの可能性を予感させる、大型研究助成に相応しい研究課題です。

続いて一般助成案件の18番 西秋良宏（にしあき よしひろ）さんの「コーカサス地方における初期人類展開の考古学的研究－アゼルバイジャン、アザフ洞窟出土資料を中心に」です。

私たちホモ・サピエンス「新人」がそれ以前の人類とどう違うのかを理解する上で鍵となるのが、約80～60万年前のアフリカで誕生したハイデルベルク人とよばれる「原人」の様態です。本研究は、その化石人骨が石器や動物化石とともに重層的に発掘されたアジア唯一の遺跡であるアジフ洞窟（アゼルバイジャン）の資料を対象に、出土石器の技術形態学的分析、理化学的方法に基づく出土文化層の編年などを通じて、彼らの行動様式や生存年代を考古学的に解明するものです。私たちはどのようにして今日の姿に到達したのか、その遠い淵源を探る研究課題として高い評価を受けました。

最後に、選考委員会を代表して、感謝の言葉を申し上げます。日本の人文科学研究は、国際的発信も着実に増え、その実証性や緻密さにおいて国際的にも高い評価を得ている分野が少なくない一方で、競争的資金の獲得などにおいて不利な面があることは否定できません。その中で三菱財団は人文科学研究に対し多方面に渡る助成を長期的な視野に立って続けられており、そのご尽力に厚く御礼申し上げます。日本の人文科学研究がその潜在力をさらに発揮できますように、適切な選考に努力してゆきたいと存じます。今後もよろしくご支援のほどお願い申し上げます。次第です。





## 社会福祉 審査報告

社会福祉選考委員長  
鈴木 俊彦

社会福祉部門の事業及び研究助成選考結果についてご報告申し上げます。

今年度は助成総額を昨年に引き続き1億円とさせていただきます。

応募数については、昨年に引き続きオンラインでの応募説明会を開催した効果もあり、法人・団体からの応募が昨年並みの高水準となり、個人の応募も含め、応募総数は昨年から2件増の155件となりました。

申請内容につきましては、応募者の的確な問題意識の下、これまで必ずしも十分な取り組みがなされてこなかった様々な社会的課題に対する実践的な事業や開拓的な研究など、採択に値する良質な案件が数多くありました。

応募内容を分野別に見ますと、例年同様、地域・在宅支援、高齢者、児童・青少年、身体障害、精神障害が多く、採択も同様の傾向となっております。

審査に当たっては、今年は3年ぶりに選考委員会、面接ともにすべて実開催とし、予定どおりの審査を行いました。委員会で選定した48件の案件を6日間かけて個別に面接し、最終的に33件を採択することとしました。

昨年に引き続き法人・団体の申込みに良質かつ大口の案件が多く、昨年比4件増の20件が採択となり、個人の採択は昨年比1件減の13件、うち女性は4件に留まりました。

次に、助成案件のうちから、様々な困難に直面している若者や子どもたちに支援の手を差し伸べようとする取組を2件、ご紹介させていただきます。

まず、23番の「スライドリコーダーの製品化と障害のある児童への適応評価、有用性の実証と普及支援活動」です。我が国の義務教育課程の音楽では、小学校3年生から6年生までリコーダー演奏が課題として設定されていますが、通常のリコーダーは障害のある子どもは使用困難であり、このため音楽嫌いや学習困難などを惹起しているとの指摘がなされています。本調査研究は、障害のある子どもの演奏に適したスライドリコーダーが既に開発されていることを踏まえ、その普及と製品化に向けたプロトタイプ的设计と製造を行うとともに、体験会・講習会の開催を通じて、様々な障害児に対する有効性を実証しようとするものであり、障害のある子どもの成長発達への支援として効果が期待されます。

次に、24番の「精神疾患の親をもつ子どもへの長期的つながりを通したオンライン支援の構築」です。近年、いわゆるヤングケアラーの存在と支援の必要性が強調されるようになりましたが、未だ公的な支援が整備されているとは言い難い状況にあります。本事業は、ヤングケアラーの中でも特に困難な立場に置かれている「精神疾患の親をもつ子どもたち」が、当事者としてお互いにつながるとともにメンタルヘルス面の支援も受けられる場としてオンラインコミュニティーを構築・提供するものです。関係団体・事業者との連携やオフラインでの支援も視野に置かれており、地域を越えた事業展開・普及が期待されます。

最後に、本財団の助成は、社会福祉分野で先駆的、意欲的な取組を行っている事業者や研究者にとって大きな励みとなっており、我が国の社会福祉の発展に多大な寄与をしているものと考えます。三菱関連各社のご厚意に心から御礼申し上げます、社会福祉部門の事業・研究助成の審査結果の報告とさせていただきます。





## 文化財保存修復 審査報告

文化財保存修復選考委員長  
小松 大秀

文化財保存修復助成事業の助成選考結果についてご報告申し上げます。

審査にあたっては、各委員がそれぞれの専門性を活かして全案件を評価し、委員会では高得点のものから、各文化財の修復の意義、必要度等を慎重に審査した結果、採択は応募24件中11件（競争率2.2倍）、助成総額は昨年と同額の3千万円とさせて頂きました。採択案件の応募金額に対する査定率は98.8%と高くなりましたが、今年は昨年度同様、資金に余裕のないと思われる申請者が多く、負担を軽くするよう配慮致しました。都道府県別では18都府県から応募があり、8府県から採択しました。また、分野的にも絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、歴史資料等と幅広く採択することができたと考えます。

応募件数、金額ともに昨年度から減っておりますが、修復するに足る良質の採択先を選定できたものと考えております。引続き、全国の教育委員会や日本博物館協会などを通じて本事業の趣旨を広く紹介して、応募件数の確保につなげていきたいと考えております。

続いて今回の案件のなかで代表的なものを3件ご紹介させていただきます。

その1は、1番の「蒙古襲来絵詞（楽翁本）保存修理事業」です。

国宝の『蒙古襲来絵詞』は、文永・弘安2度の元寇のようすを活写した絵巻です。美術品としての価値はもとより、第一級の歴史史料としても注目されてきた作品ですが、破損や錯簡などによって改変された部分も少なくありません。現在、絵巻の模本は40種類ほど知られていますが、なかでも楽翁本は、松平定信が寛政年間に写させたもので、早期の模本として原型を知る上で重要な意義を持っています。しかしながら、経年劣化のため研究や閲覧するにも支障を来す状態になっており、早急に適切な保存修理を施し、研究や公

開に資することが望まれます。

その2は、8番の「木造十一面観音立像保存修理事業」です。

東妙寺は佐賀県吉野ヶ里町にある真言律宗の古刹で、重要文化財の釈迦如来坐像など、数多くの文化財を伝えていることで有名です。本像は未指定ですが、体内に墨書銘が確認され、正和4年（1315）に湛誉と湛真の二人の仏師によって制作されたことがわかります。湛誉と湛真は運慶の流れを汲む仏師と推定され、長期にわたって九州での活動が知られています。本像は、この時期の九州における基準的な作例として貴重ですが、像表面の剥落や朽損が著しく、矧ぎ目が緩むなど、保存状態が劣悪となっています。早急に修理をほどこすことによって、調査・研究が進み、一般にも公開することが可能になると考えます。

その3は、11番の「豊臣秀吉像桔梗桐菊花唐草蒔絵螺細厨子の保存修復」です。

桃山から江戸初期にかけて、日本の漆芸には画期的な様式が二つあらわれます。一つは高台寺蒔絵、一つは南蛮漆芸です。前者は建物内部や大量の調度などを安価に速やかに飾るのを目的としたもの、後者は欧州カトリック諸国を得意先とした輸出漆器です。従来、この二つはまったく別の様式と考えられていましたが、この厨子では両様式が混在しています。このような作例は他に知られておらず、漆芸の歴史を辿る上で貴重な資料となっています。しかしながら、現状では塗膜の劣化などが進んでおり、早急に修復の手を加える必要があります。

さて、開始以来5年を迎え、国や地方自治体の支援の及ばない部分に支援できる本助成は今後ますます重要になると思われ、三菱関連諸企業のご尽力に厚く御礼申し上げます。審査報告を終わらせて頂きます。





## 自然科学 受領者代表挨拶

東京大学大学院理学系研究科 教授  
小林 研介

この度は、三菱財団より、私ども自然科学研究課題一般助成51件、若手助成15件の計66件に対しまして助成金を交付していただきますことを、受領者を代表しまして厚く御礼申し上げます。さらに、先ほどより、三毛兼承理事長、十倉好紀選考委員長よりお祝いと激励の言葉を賜りまして、大変光栄に存じますとともに、身の引き締まる思いしております。多くの皆様の前で僣越ではございますが、一言お礼のご挨拶を申し上げます。

1969年の設立以来、半世紀以上にわたり、三菱財団は多くの研究者を支援してこられました。特に自然科学研究助成においては、「自然科学のすべての分野にかかわる独創的かつ先駆的研究を支援」と高らかに謳っておられます。未来への挑戦を促すこのような姿勢は、私たち研究者にとって大きな励ましを与えてくれるものです。今回ご支援いただく私ども受領者一同は、今日の喜びを胸に刻みながら、志をさらに高く持って世界をリードする研究を追求して参ります。

ここで、今回採択いただきました私の課題「色中心量子センサを用いた精密物性計測技術の基盤開発」について簡単にご紹介させていただければ幸いです。

色中心という言葉聞き慣れない方も多いと思いますが、実はとても身近なものです。例えば、宝石のルビーの赤色の原因も色中心です。その正体はアルミニウムの酸化物である透明な結晶の中に混ざっているクロム原子です。閉じ込められたクロム原子の周りに量

子力学的な状態が形成され、美しい赤色を示すようになるのです。ダイヤモンドにも様々な色中心が知られています。私たちは、中でも窒素原子の関わる色中心であるNV中心に注目しています。NV中心は特別な性質を持っています。緑色の光をダイヤモンドに照射した際に出てくる赤色の光の量を測定することで、NV中心の感じている磁場を精密に決めることができるのです。いわば原子サイズの超精密な方位磁針となります。私たちはこのことを利用して物質の性質を明らかにしていきます。このように量子力学の原理に基づいて物理量を計測することを量子センシングと呼びます。

私事となりますが、私は2019年に大阪大学から東京大学に異動しました。その際、この機会に新しい研究を始めたいと考え、量子センシングに取り組むことを決意しました。文字通りゼロからのスタートでしたが、少しずつ成果がでてきましたので今回応募をいたしました。幸いにも採択頂いたのは、挑戦する心を大切にしてくださる三菱財団のおかげです。これを励みに今後も一層研究に精進してまいります。

最後になりますが、三菱財団の皆様、選考委員の先生方、ご来賓の皆様、本助成のために大変貴重な資金をご提供くださいました三菱系各社に対して深く御礼を申し上げますとともに、皆様方の益々のご発展を祈念し、私からのご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。





## 人文科学 受領者代表挨拶

麗澤大学 未来工学研究センター 講師  
新井 亜弓

今年度、貴財団より助成いただく人文科学研究助成の受領者を代表いたしまして、誠に僭越ではございますが、御礼のご挨拶をさせていただきます。

貴財団におかれましては、長きにわたり、学術研究、福祉事業および文化財の保存修復に対する援助を通じて、学問の発展および社会福祉事業の促進に多大な貢献を果たしてこられました。このような素晴らしい継続的な支援活動に深く敬意を表すとともに、本年度も、新たに合計29件の人文科学研究課題に対する助成を賜りましたことを心より厚く御礼申し上げます。近年、技術の発展や価値観の多様化、グローバル化が急激に進む現代社会におきまして、人の創造性に共感しながら発展を続けてきた人文科学分野の果たす役割は益々重要となっております。本年度助成を賜りました研究課題を其々拝見しましても、社会の様々な側面における多面的な価値観の理解や分析的視点、それを基盤にした社会課題へのアプローチの重要性が示唆されるように思われました。貴財団からの長年にわたるご支援は、当分野の研究に対する期待と深いご理解によるものと感謝いたしております。

この場をお借りして、私どもの研究課題「携帯基地局データによる公的統計補完の実証研究：タンザニアとガンビアを事例として」について簡単にご紹介させていただきます。近年、SDGsの定量的な進捗評価の

必要性が高まる中、世界各国で人々の活動実態をより詳細に反映したデータが求められています。この研究では、その契約数が優に世界人口を超えているとされる携帯電話のデータを用いて、国勢調査や交通調査等の従来データを補完し、開発計画のエビデンスベースに活用します。この研究チームは、人口地理、データサイエンス、経済分野の研究者のみならず、各国の統計局や通信規制当局、バス公社、世界銀行等の実務家で構成されており、両者が協働して実際に計画立案を行います。さらに、この新しいデータがもたらす付加価値を定量的に評価し、世界の統計局や開発コミュニティに発信することで、他国での適用を促すことを目指しています。この取り組みは、未だ研究による実証が多くを占める分野であり、社会実装という面ではチャレンジングな点もございます。この度助成を賜りましたご縁を、本研究が社会にもたらし得る波及効果へのご期待と受け止め、研究に邁進する所存でございます。

最後になりましたが、貴財団のご支援により本研究を含む29課題の推進が可能となりましたこと、改めて御礼申し上げます。ご期待に応え、着実な成果を挙げることで、これからの持続可能な社会構築に貢献出来るよう、全力で研究を推進して参ります。誠にありがとうございました。





## 社会福祉 受領者代表挨拶

NPO法人CoCoTELI 理事長  
平井 登威

はじめまして。本日静岡県浜松市から参りました。NPO法人CoCoTELIの平井と申します。ご高名な先生方前にはなはだ僣越でございますが、社会福祉事業・研究助成の受領者を代表いたしまして御礼の挨拶をさせていただきます。この度は社会福祉事業・研究において、33件の研究助成のご採択をいただき厚く御礼申し上げます。

2020年の春。突如現れた新型コロナウイルスが日本でも猛威を奮い、私たちの生活に大きな影響を与えました。私もその影響を受けた1人です。高校の卒業式は開催できませんでした。大学の入学式はなくなり、春学期は全てオンライン。地元から離れ1人暮らしで不安ななか孤独感を感じながら過ごしていました。そんな困難の始まりとなった春から3年半。今日、当時想像もしていなかったこの場に立たせていただいているのは多くの方に支えていただいているからであると改めて感じています。

さて、ここで今回採択頂きました「精神疾患の親をもつ子ども・若者支援」についてご説明させていただきます。

わたしたちNPO法人CoCoTELIは、5月に学生団体からNPO法人となったばかりの団体です。

精神疾患の親をもつ子どもは他の子どもと比べ自身の罹患率が高いと言われております。しかし現在私たちが生きる社会は、精神疾患のある方・その家族に対する理解が不足しており、特に精神疾患の親をもつ子どもに対する支援はほとんどありません。

自身の置かれる状況を言語化したり、精神疾患に対する偏見や家族主義が強いこの社会でSOSを出すハードルが高かったりすることから、多くの当事者が見え

ない存在となっており、1人で悩みを抱え、精神面・生活面で不安定になりやすいという現状があります。そのため当事者の自覚や助けてという勇気を前提としない「社会側から」当事者の子ども・若者に気づき、サポートを行う仕組みづくりやそれを通した予防的な支援が必要となります。

そこでファーストステップとして、地域差関係なく安心・安全につながるができるオンラインの居場所・支援を行うこと、問題として社会発信に取り組むこととしました。今後の地域での社会側から当事者を発見する仕組みの構築・社会展開を見据え、地域で問題に取り組むことで住む地域によってこぼれ落ちてしまう子ども・若者を支えるオンラインでの居場所・支援の土台・セーフティネットを作ることを目指します。そんな精神疾患の親をもつ子ども・若者支援の土壌をつくるための活動は、精神疾患のある方が安心して子どもを望み・子育てのなかで気軽に頼れる先がある社会をつくることでもあります。

そんなお話をしてきた僕も当事者です。平井 登威の人生としての原体験は大切にしつつも、本事業に取り組むに当たって僕の原体験は全く関係ありません。地に足をつけつつも大胆に、当事者とともに進んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、三菱財団の皆様、選考委員の先生方、ご来賓の皆様、本助成のために大変貴重な基金をご提供くださいました三菱系各社に対し、心から御礼申し上げます。2023年度助成決定の33団体が、社会福祉事業・研究に益々の発展と貢献をもたらすことを祈りつつ、お礼の言葉に代えさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。





## 文化財保存修復 受領者代表挨拶

光明宗 法華寺 門主  
樋口 教香

2023年度、第5回三菱財団文化財修復事業助成受領者伝達式にご招待賜り誠に有り難うございます。

諸先生を前に誠に僭越ではございますが、11件の文化財修復事業受領者を代表いたしまして、厚く御礼申し上げます。

三菱グループにおかれましては、今日に至るまで数多くの学術研究並びに社会福祉に関する事業に対しご支援されましたことに深く敬意を表しますとともに心より御礼申し上げます。

私どもの十一面観音菩薩立像が採択されましたことを大変光栄に思っております。心より御礼申し上げます。

今回採択されました文化財修復事業は、いずれも地域に伝わる由緒ある貴重な文化財であります。これらの修復事業が遂行され、長く伝えられるものと信じております。

このたび助成を賜ることになりました十一面観音は等身大の像で、法華寺本堂に安置されています。左手に水瓶、右手に錫杖を執り、磐石上に立つ姿から、奈良・長谷寺の本尊を範としたいわゆる長谷寺式の十一面観音像であることがわかります。これまで広く紹介されたことはありませんが、頭部は室町時代頃の作、体部は鎌倉時代にさかのぼるとみられます。その出来栄の優秀さのみならず、像の表面に刀目を残して素

地仕上げとする点から、病気の平癒や故人の追善などを願って真言を唱えながら1日で造り上げる「一日造立仏」の可能性があるようです。一日造立仏のなかには、その旨を記した納入品を奉籠する事例が複数あり、本像も解体修理によって納入品が見出される可能性を秘めているなど、中世の奈良における多様な信仰について考えるうえでも見逃すことのできない作品とされています。

しかしながら、現状では木材の継ぎ目の緩みや虫食いによる損傷が各所に認められ、左足は外れており、全体に痛々しい姿を呈しております。さらに光背が不安定で後壁からテグスで引っ張って固定しているなど非常に危険な状態にあり、これ以上損傷が進行しないよう修理が急務となっていました。

法華寺は、長きに亘り、貴重な歴史的な文化資産の維持継承に努めてまいりましたが、コロナ禍による拝観者の激減により修復に要する多額の経費を負担することは難しい状況でありましたが、今回念願が叶いまして修復事業を実施できることとなり、その一端を果たせることとなりました。

三菱財団様のご支援により修復を推進できますことに、改めて感謝申し上げますとともに、これからも貴重な文化財を後世へ伝えていけるように精進することを誓いまして、お礼の言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。



# 研究成果報告会

2023年9月11日、丸の内の東京會館で、2023年度助成金贈呈式の開催に先立ち、助成金受領者と来賓、選考委員、財団役員合わせて約170名が出席し、2023年度研究成果報告会が開催されました。今回の研究成果報告会は、コロナ禍の影響による開催見合わせを挟み、2018年9月以来5年振りの開催となりました。

今回は、過去の助成先の中から、自然科学分野・文化財保存修復分野の2分野で成果報告をいただきました。

## 自然科学分野研究成果報告

自然科学分野では、コロナ禍に対応して急遽実施した「2020年度新型コロナ感染症関連特別助成」の助成先を代表して、大阪大学免疫学フロンティア研究センター拠点長の竹田潔氏から、助成対象となった「新型コロナウイルスによるヒト病態誘導メカニズム」の研究成果をもとにご報告いただきました。

ご報告の後、質疑応答が行われ、最後に自然科学分野十倉選考委員長の講評が行われました。



竹田 潔氏による成果報告の様子



竹田 潔氏



竹田 潔氏との質疑応答



十倉選考委員長講評



## 文化財保存修復分野成果報告

文化財保存修復分野では、同分野への第1回助成である2019年度の助成先を代表して、公益財団法人香雪美術館学芸員の郷司泰仁氏と株式会社岡墨光堂修復部の金省我氏から、助成対象となった「香雪美術館所蔵『帰来迎図』の修理事業」の成果をもとにご報告いただきました。

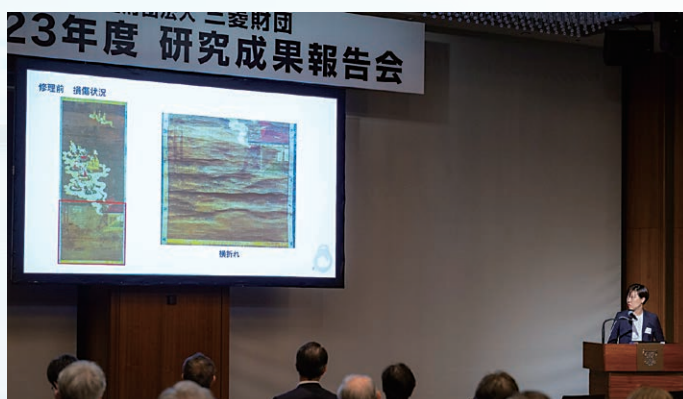
ご報告の後、質疑応答が行われ、最後に文化財保存修復分野小松選考委員長の講評が行われました。



郷司泰仁氏による成果報告の様子



郷司泰仁氏



金省我氏による成果報告の様子



金省我氏



郷司泰仁氏との質疑応答



小松選考委員長講評



# 2023

第54回(2023年度)の

## 助成報告

助成金受領者と助成概要





# 第54回（2023年度）三菱財団自然科学研究助成先一覧

## 【一般助成】

番号	所在地	名称	使 途	金 額
1	愛知県	基礎生物学研究所 教授 青木 一洋 あおき かずひろ	GPCRシグナル伝達系の動的符号化原理の解明	4,000,000円
2	福岡県	九州大学先端物質化学研究所 准教授 アルブレヒト 建 あはれい けん	蛍光とMRIの同時イメージングを可能にするラジカル発光材料の創製	7,000,000円
3	埼玉県	理化学研究所環境資源科学研究センター チームリーダー 淡川 孝義 あわかわ たかよし	補酵素生合成経路の活用による新規活性分子の創出	6,000,000円
4	大阪府	大阪大学産業科学研究所 教授 家 裕隆 いえ ゆたか	発電と農業を両立する波長選択型有機太陽電池の開発	5,000,000円
5	愛知県	名古屋大学大学院工学研究科 准教授 井改 知幸 い かい ともゆき	ラダー・ラセン・超分子の構造特性を併せ持つ新材料の創製と応用展開	4,500,000円
6	熊本県	熊本大学発生医学研究所 教授 石黒 啓一郎 いしぐろ けいいちろう	生殖細胞における減数分裂型細胞周期の制御機構	6,000,000円
7	兵庫県	神戸大学バイオシグナル総合研究センター 教授 伊藤 俊樹 いとう としき	浸潤性の細胞膜構造と細胞膜にかかる張力による細胞融合メカニズムの解明	9,500,000円
8	愛媛県	愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター 准教授 大内 智博 おおうち ともひろ	地球深部水の地震抑制効果に関する実験的研究：稍深地震の発生予測システムの構築を目指して	4,500,000円
9	岡山県	岡山大学学術研究院 教授 大塚 基之 おおつか もとゆき	加齢に伴う血中細胞外小胞の性状変化による加齢疾患発現機構の解明	6,000,000円
10	大阪府	大阪大学大学院歯学研究科 教授 大庭 伸介 おおば しんすけ	骨格形成における細胞運命決定機構の解明	5,400,000円
11	福岡県	九州大学生体防御医学研究所 教授 落合 博 おちあい ひろし	高次定量イメージングによる転写動態制御機構の解明	10,540,000円
12	熊本県	熊本大学発生医学研究所 教授 小野 悠介 おの ゆうすけ	骨格筋萎縮の分子メカニズムの解明	4,000,000円
13	東京都	公益財団法人がん研究会がん化学療法センター 部長 片山 量平 かたやま りょうへい	がん増殖シグナルの局在制御機構解明と新規治療標的の探索	6,600,000円
14	東京都	東京大学大学院農学生命科学研究科 教授 勝間 進 かつま すむ	ボルバキア逆遺伝学の創成	6,000,000円
15	京都府	同志社大学大学院脳科学研究科 教授 金子 奈穂子 かねこ なおこ	成体脳内を移動する新生ニューロンにおける群知能的挙動の解析	5,000,000円
16	神奈川県	東京工業大学生命理工学院 教授 川井 清彦 かわい きよひこ	光揺らぎ観測による点変異1分子診断	5,000,000円
17	広島県	広島大学宇宙科学センター 教授 川端 弘治 かわばた こうじ	広島大学かなた望遠鏡の可視近赤外3バンド同時偏光観測化と銀河磁場構造の研究	6,000,000円



番号	所在地	名称	使 途	金 額
18	神奈川県	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 准教授 かわはら はじめ 河原 創	太陽系外惑星の世界地図推定を 目指した多色同時測光システム の開発	6,500,000円
19	栃木県	自治医科大学大学院医学研究科 准教授 くちまる たかひろ 口丸 高弘	自由行動動物における生体分子 動態の非侵襲・定量的可視化 技術による代謝疾患研究	5,500,000円
20	神奈川県	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 准教授 こくぶん もとひで 国分 紀秀	気球高度とのレーザー周波数 比較による一般相対論の高精度 検証を目指した基礎実験	5,500,000円
21	東京都	東京大学大学院理学系研究科 教授 こばやし けんすけ 小林 研介	色中心量子センサを用いた精密 物性計測技術の基盤開発	10,540,000円
22	奈良県	奈良県立医科大学医学部 准教授 こばやし ひさと 小林 久人	種特異的なゲノム刷り込み遺伝 子座に寄与するレトロトランス ポゾン	5,850,000円
23	東京都	東京大学大学院理学系研究科 准教授 こまつ かずき 小松 一生	クライオ透過型電子顕微鏡を 用いた新たな氷高压相の構造決定	6,000,000円
24	東京都	東京大学医科学研究所 教授 さとう けい 佐藤 佳	新型コロナウイルス変異株の早期 捕捉と性状解析	5,000,000円
25	埼玉県	国立障害者リハビリテーションセンター 部長 さわだ やすひろ 澤田 泰宏	咀嚼障害により認知機能低下が 生じる機序の解明とそれに基づく オーラルフレイル新規治療法 開発の基盤構築	4,500,000円
26	福岡県	九州共立大学経済学部 教授 しまじり よしと 島尻 芳人	電波観測と機械学習による星形成 フィラメントの幅の普遍性の解明	4,000,000円
27	石川県	金沢大学がん進展制御研究所 教授 じょうむら よしかず 城村 由和	部分的リプログラミングによる 老化細胞の若返り機構の解明	8,000,000円
28	神奈川県	横浜市立大学大学院医学研究科 教授 たかはし ひでひさ 高橋 秀尚	メディエーター複合体の液滴に よる細胞の増殖から分化への 制御機構の解明	5,700,000円
29	東京都	東京大学大学院医学系研究科 教授 たけだ まこと 竹田 誠	重症ウイルス性肺炎発症の分子 基盤の解明	11,000,000円
30	奈良県	奈良県立医科大学医学部 講師 たなか たつひで 田中 達英	感覚センシングを制御する免疫 細胞の動作原理解明	8,000,000円
31	京都府	京都大学大学院工学研究科 教授 てらむら けん たろう 寺村 謙太郎	カーボンニュートラルに資する 人工光合成系による二酸化炭素 再資源化	5,500,000円
32	愛知県	京都大学ヒト行動進化研究センター 准教授 にしむら たけし 西村 剛	話しことばと嚙下の共進化 プロセスに関する実験的研究	4,000,000円
33	京都府	京都大学大学院医学研究科 准教授 のむら のりみち 野村 紀通	B型肝炎ウイルス細胞侵入複合体 の形成機序と分子構造に関する 研究	5,000,000円
34	岩手県	国立天文台水沢VLBI観測所 助教 はだ かずひろ 秦 和弘	国際ミリ波電波望遠鏡ネット ワークで挑む巨大ブラックホール ジェットの生成・加速メカニズム	6,500,000円



番号	所在地	名称	使 途	金 額
35	東京都	公益財団法人東京都医学総合研究所 視覚病態プロジェクト プロジェクトリーダー 原田 高幸	グリア細胞を活用した緑内障に 対する遺伝子治療研究	6,000,000円
36	東京都	日本女子大学理学部 教授 深町 昌司	水上観測による水棲動物の生態 調査	4,920,000円
37	東京都	東京大学大学院医学系研究科 教授 藤本 明洋	タンパク質の三次構造を考慮 した新規解析手法の開発と疾患 原因遺伝子の同定	6,000,000円
38	岡山県	岡山大学病院 研究准教授 藤原 英晃	空間マルチオミクス解析を用い た免疫細胞性組織障害における 新規細胞死に基づく免疫細胞 療法の開発	5,000,000円
39	宮城県	東北大学金属材料研究所 教授 古原 忠	サブラティスエンジニアリング に基づく高耐摩耗合金創製の 学理構築	5,000,000円
40	福岡県	九州大学大学院総合理工学研究院 准教授 北條 元	酸化物薄膜を用いたアプローチ による新しい触媒科学の発掘	6,000,000円
41	福岡県	九州大学生体防御医学研究所 教授 増田 隆博	中枢性疾患に関わる脳内マクロ ファージの統合的理解	11,000,000円
42	岡山県	岡山大学学術研究院 研究准教授 松本 佳則	アダプター蛋白に着目した炎症 性腸疾患発症機序の解明	5,600,000円
43	兵庫県	理化学研究所生命機能科学研究センター チームリーダー 宮道 和成	マウスにおいて父親の子育て 行動を制御する神経回路メカニズ ムの解明	4,500,000円
44	群馬県	群馬大学大学院医学系研究科 教授 三好 悟一	自閉スペクトラム症動物モデル における発症臨界期メカニズ ムの解明	5,850,000円
45	愛媛県	岡山理科大学獣医学部 講師 向田 昌司	血管伸展性消失の新規分子機構 の解明	4,000,000円
46	北海道	北海道大学遺伝子病制御研究所 教授 茂木 文夫	細胞極性の破綻を抑制する新規 遺伝学的機構の解明	5,000,000円
47	大阪府	国立循環器病研究センター 先端医療技術開発部 室長 山城 義人	細胞外マトリクスが駆動する 血管リモデリング機構の解明と 病態発症の原理究明	4,500,000円
48	愛知県	分子科学研究所 協奏分子システム研究センター 教授 山本 浩史	キラル超伝導体を用いたスピン トランジスタの開発	5,500,000円
49	奈良県	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 教授 吉田 聡子	寄生植物の細胞壁成分を介した 自己認識機構の解明	7,500,000円
50	北海道	北海道大学大学院工学研究院 教授 米澤 徹	放射線治療に用いる極低侵襲金 マーカの構築	5,000,000円
51	福岡県	九州大学大学院工学研究院 准教授 若林 里衣	膜透過性を示す超分子の構造 因子の解明	5,500,000円
合 計			51件	305,000,000円

(所属先・職名については2023年9月11日現在)



# 第54回（2023年度）三菱財団自然科学研究助成先一覧 【若手助成】

番号	所在地	名称	使 途	金 額
1	東京都	中央大学理工学部 准教授 岩崎 ありひろ いわさき ありひろ	天然記念物テングノムギメシに関する生物有機化学的研究	4,000,000円
2	広島県	広島大学大学院統合生命科学研究科 准教授 奥村 美紗子 おくむら みさこ	酸化ストレスに応答する表現型多型の制御機構	4,000,000円
3	東京都	東京医科歯科大学統合研究機構 テニュアトラック准教授 加藤 一希 かとう かずき	CRISPR-Cas酵素Cas9の分子進化を可視化する	4,000,000円
4	東京都	東京大学生産技術研究所 准教授 金澤 直也 かなざわ なおや	トポロジカル分極表面におけるスピン軌道結合状態の解明と制御	4,000,000円
5	東京都	国立がん研究センター研究所 研究員 小林 祥久 こばやし よしひさ	スプライシング制御因子の基盤研究	4,000,000円
6	兵庫県	関西学院大学理学部 准教授 佐藤 浩平 さとう こうへい	フッ素化ナノチャネルによる超高速水透過現象のメカニズム解明	4,000,000円
7	茨城県	筑波大学医学医療系 研究員 高橋 徹 たかはし とおる	冬眠様状態を誘導するQニューロンの睡眠覚醒制御への関与	4,000,000円
8	愛知県	名古屋大学大学院医学系研究科 特任助教 道家 智仁 どうけ ともひと	トランスクリプトームワイド関連解析（TWAS）による慢性腎臓病リスク遺伝子の同定	4,000,000円
9	東京都	早稲田大学高等研究所 講師 西田 奈央 にしだ なお	がん由来細胞外小胞を取り込む細胞の組織内分布の解析	4,000,000円
10	大阪府	近畿大学理工学部 講師 信川 久実子 のぶかわ くみこ	超小型衛星によるX線観測を用いた新手法で実現する低エネルギー銀河宇宙線の測定と起源解明	4,000,000円
11	東京都	お茶の水女子大学 ヒューマンライフサイエンス研究所 特任講師 橋本 恵 はしもと けい	脳機能を崩壊させるリピドーシス機構解明と認知症のリンキング	4,000,000円
12	東京都	東京農工大学大学院農学研究科 テニュアトラック准教授 宮本 潤基 みやもと じゅんき	加齢性疾患における腸内細菌の関与	4,000,000円
13	鳥取県	鳥取大学医学部附属病院 講師 山梨 豪彦 やまなし たけひこ	術後せん妄を理解し、検出し、予防する	4,000,000円
14	愛知県	名古屋大学大学院工学研究科 講師 横井 達矢 よこい たつや	Si系半導体における点欠陥と不純物の欠陥複合体・クラスターの学理深化	4,000,000円
15	群馬県	群馬大学未来先端研究機構 助教 六本木 麗子 ろっぽんぎ れいこ	放射線照射による脳機能への影響を最小限に抑えるAAVウイルスベクターの開発	4,000,000円
合 計			15件	60,000,000円

（所属先・職名については2023年9月11日現在）



自然科学

1

GPCRシグナル伝達系の動的  
符号化原理の解明

基礎生物学研究所

教授 青木 一洋

GPCRは光や神経伝達物質、ホルモンなどの多様な細胞外シグナルを認識する受容体で、創薬の分野においても重要な標的分子として注目されている。ヒトゲノムには約800種類のGPCR遺伝子がコードされている。一方、GPCRの下流では、おもに4種類のG $\alpha$ タンパク質を介して情報が細胞内に伝達される。細胞がどのようにして大多数のGPCRの情報をたった4種類のG $\alpha$ タンパク質で符号化するのかということは未解明である。本研究では、生細胞イメージングを用いて、G $\alpha$ タンパク質によって生じるシグナル伝達系の動的な変化にGPCRの情報が埋め込まれるという「動的符号化」の実証とその分子機構の解明を目指す。

自然科学

2

蛍光とMRIの同時イメージングを  
可能にするラジカル発光材料の  
創製

九州大学先端物質化学研究所

准教授 アルブレヒト 建

近年、新しい発光材料として有機エレクトロニクス分野を中心に基底二重項(ラジカル)材料が注目されている。発光ラジカル材料は一般に赤色-近赤外領域の発光を示すと同時に不対電子(スピン)を持っている。本研究ではラジカルを水分子の核スピン緩和にも展開することで、1分子で蛍光イメージングと核磁気共鳴イメージング(MRI)の両方に使用できる発光ラジカルを開発する。水溶性の発光ラジカルの報告はこれまでにないが、申請者のこれまで研究してきた発光性安定ラジカル分子を基盤にバイオイメージングに展開可能な水溶性・発光性・耐久性・緩和時間短縮能を併せ持つ分子構造を探索する。

自然科学

3

補酵素合成経路の活用による  
新規活性分子の創出

理化学研究所環境資源科学研究センター

チームリーダー 淡川 孝義

我々はNAD、SAMを基質として受け入れ、新規骨格アザインダンジヌクレオチドを生成する新規PLP酵素SbzPを同定した。その基質認識、触媒機構を明らかにすべく、SbzPホモログ酵素PsePをNAD存在下、クライオ電子顕微鏡構造解析し、解像度2.6Åで立体構造を取得した。基質結合部位の精査の結果、ホモダイマーのモノマー間にNADが保持され、アデニンがF457、R466に、ニリン酸がR466に、ニコチンアミドリボシドがY413、Y418とD462とLoop 6によって保持されることを明らかにした。現在、そのNAD、quinonoid中間体間の反応制御について解析を進めている。

自然科学

4

発電と農業を両立する波長  
選択型有機太陽電池の開発

大阪大学産業科学研究所

教授 家 裕隆

農作物の光合成を担うクロロフィルは青色光と赤色光を利用している。すなわち、光合成への寄与が少ない緑色域や近赤外域の光エネルギーを発電に用いることができれば、農作物の生育と発電の波長帯域を分離でき、効率的に太陽光エネルギーを利用することができる。有機太陽電池は、軽量、フレキシブル、プリンタブルな手法での大面積化が可能な特徴に加えて、吸収波長を自在に制御することができる。そこで本研究では、これらの特徴を活かして緑色光と近赤外光を発電に用いる『波長選択型の有機太陽電池』を開発し、農業用ハウスへの搭載に向けた新機軸のエネルギー源を創出する。そして、波長選択性が発電と農作物生育に及ぼす影響を検証する。

自然科学

5

### ラダー・ラセン・超分子の構造特性を併せ持つ新材料の創製と応用展開

名古屋大学大学院工学研究科

准教授 井改 知幸

100年程前に「高分子説」が提唱されて以来、高分子科学は加速度的に発展し、これまでに、様々な高分子材料が生み出され、私達の生活を豊かにしてきた。しかし、人工高分子の機能レベルは、生体高分子に比べ、遠く及ばないのが現状である。生体系に類似の高度な機能を実現するためには、人工ラセンを階層的に配列する方法論を確立する必要がある。本研究では、「ラダー・ラセン・超分子」の構造特性・強みを掛け合わせ、相乗効果を生み出すことで、ラセン軸方向の高い電荷輸送特性と自己修復能を併せ持つ高耐久有機太陽電池及び外部刺激に応答したラセン軸方向のバネ運動に連動して駆動する自己修復アクチュエータの創出を目指す。

自然科学

6

### 生殖細胞における減数分裂型細胞周期の制御機構

熊本大学発生医学研究所

教授 石黒 啓一郎

生殖細胞では精子・卵子を生み出す際、体細胞分裂型増殖から、染色体数を半減させる特殊な分裂様式である減数分裂への切り替えが行われる。我々は、減数分裂開始に決定的な役割を担う新規転写因子MEIOSINを発見し、減数分裂の進行に関与する遺伝子群の発現を一斉に活性化することを明らかにした。オスでは生涯にわたって減数分裂が継続される一方、メスの減数分裂は胎児期のごく狭い一時期に開始されるが、これをトリガーするメカニズムは全くわかっていない。本研究では、体細胞分裂型から減数分裂型の細胞周期の転換における癌抑制因子RBによる制御と減数分裂開始制御における雌雄性差の本質的な違いを明らかにする。

自然科学

7

### 浸潤性の細胞膜構造と細胞膜にかかる張力による細胞融合メカニズムの解明

神戸大学バイオシグナル総合研究センター

教授 伊藤 俊樹

細胞どうしが融合する現象（細胞融合）は、筋分化、骨代謝、受精、胎盤形成、ウイルス感染など、多様な生命現象に関与する。近年の研究から、細胞の融合面において「浸潤性の入り組んだ細胞膜構造」が発見されているものの、向かい合う細胞膜が融合にいたる詳細な分子メカニズムはほとんど分かっていない。私たちは、浸潤性膜構造の形成に関与する「膜変形タンパク質」を一貫して研究し、「細胞膜の変形」と「細胞膜にかかる張力」の拮抗作用を明らかにしてきた。本研究では、破骨細胞融合をモデルとして、細胞膜張力と細胞融合の相関、細胞膜張力センサータンパク質の同定、膜融合における分子動態解析を通じ、細胞融合の分子機構解明を目指す。

自然科学

8

### 地球深部水の地震抑制効果に関する実験的研究： 稍深発地震の発生子測システムの構築を目指して

愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター

准教授 大内 智博

日本列島をはじめとした沈み込み帯ではプレート同士が衝突し、その周辺では地震が多発する。浅部の低温低圧環境下で起きる地震は水によって誘発される一方で、地下30km以深の高温高圧環境下では水は超臨界状態の「地球深部水」へと変化し、これに富んだ領域では稍深発地震はあまり発生しないことが知られる。本研究では、稍深発地震発生場の温度圧力条件下において、プレート岩石の一軸圧縮試験と岩石から生じるミニ地震測定を行う。この試験を地球深部水が存在する環境下と水が全く存在しない環境下にて行うことで、「地球深部水は稍深発地震の発生を抑制する」ことを立証していくとともに、地震発生のリスク評価への応用を目指す。



自然科学

9

### 加齢に伴う血中細胞外小胞の 性状変化による加齢疾患発現機構 の解明

岡山大学学術研究院

教授 大塚 基之

以前から、血中を循環する物質に老化や若返りに関する因子が存在することが示唆されています。一方、癌患者さんの多くで悪液質という筋萎縮を主とした体重減少が起きますが、この担癌状態での筋萎縮と、老化に伴う筋萎縮との類似点に着目し、老化した間質細胞から放出される細胞外小胞が筋萎縮を引き起こすとの仮説を立てました。その際、老化細胞から放出される細胞外小胞に含有されるRNA編集酵素ADAR1に着目した結果、ADAR1の代表的標的であるポリアミン代謝関連酵素の異常が筋肉内で惹起されて筋萎縮が起きる可能性を見いだしています。本研究ではこのコンセプトの分子機構を明らかにすることで加齢に伴う病態の解明と制御に繋げていきたいと考えています。

自然科学

10

### 骨格形成における細胞運命決定 機構の解明

大阪大学大学院歯学研究所

教授 大庭 伸介

骨発生過程でみられる2つの骨化様式である膜内骨化と軟骨内骨化はいずれも骨格形成性間葉の凝集から始まる。膜内骨化では間葉系細胞から骨芽細胞への運命決定がなされる一方、軟骨内骨化では間葉系細胞から軟骨細胞と骨芽細胞へと運命が分かれる。凝集した骨格形成性間葉が膜内骨化あるいは軟骨内骨化を選択する機構は不明なままである。そこで本研究では、シングルセル解析(RNA-seqによる遺伝子発現プロファイリングとATAC-seqによるオープンクロマチンプロファイリング)を駆使し、エピジェネティックランドスケープの観点から「骨格形成性間葉の膜内骨化と軟骨内骨化への運命決定機構」の包括的理解を目指す。

自然科学

11

### 高次定量イメージングによる 転写動態制御機構の解明

九州大学生体防御医学研究所

教授 落合 博

遺伝子セットの発現制御は細胞の機能を左右する。本制御の中心は転写であり、これは遺伝子の発現量を決定する主要プロセスである。転写は単に連続して行われるのではない。mRNAの合成が行われる「ON」状態とそれが停止する「OFF」状態が確率的に交互に現れる。これを“転写バースト”と言い、ON/OFFの切り替わりや活動度によって、平均mRNA量が決まる。しかし、本プロセスの詳しい制御機構は未解明である。本研究では、先端のイメージング技術を活用して、RNAやゲノム、タンパク質、そして翻訳後の修飾など、転写制御に関連するさまざまな分子を詳しく観察し定量する。これを基に、遺伝子発現の制御機構の解明を試みる。

自然科学

12

### 骨格筋萎縮の分子メカニズムの 解明

熊本大学発生活医学研究所

教授 小野 悠介

80歳以上の2人に1人は罹患するといわれる加齢性の筋萎縮(サルコペニア)は要介護の最大のリスクファクターになるため高齢社会を迎えたわが国において深刻な問題となっている。近年、私たちは、不活動(運動不足)あるいは糖尿病の状態下では、血管内皮細胞からNotchリガンドであるDII4が可溶性で放出され、それが筋線維のNotch2受容体を活性化することで筋萎縮が誘導されることを明らかにした。したがって、「DII4 - Notch2軸」は筋萎縮に対して有望な予防治療標的になると考えられる。本研究では、血管内皮細胞はどのように筋萎縮刺激を感知し可溶性DII4を発現増加させるのか、また放出された可溶性DII4はいかにして筋線維のNotch2を活性化させるのか等を解明する。

自然科学

13

## がん増殖シグナルの局在制御機構解明と新規治療標的の探索

公益財団法人がん研究会がん化学療法センター

部長 片山 量平

がん細胞では、遺伝子変異などにより細胞増殖シグナルが異常活性化しており、これらシグナルに関与する分子群の機能解析は進んできたが、それらの分子群が細胞内の何処でどの様に働いているのかといった、時空間的制御機構は十分明らかになっていない。本研究では、近年急速に進歩してきた1分子レベルでのタンパク質局在の可視化技術などを駆使し、がん細胞でのシグナル伝達に必要な「場」を構成するタンパク質群の同定と、「場」の配置や制御機構の理解を目指している。細胞膜表面や細胞質内、核から発せられたシグナルが、どのように細胞内で時空間的に制御されているかを理解し、がん細胞が抗癌剤耐性獲得など形質を変化させる機構に迫る。

自然科学

14

## ボルバキア逆遺伝学の創成

東京大学大学院農学生命科学研究科

教授 勝間 進

共生細菌であるボルバキアは昆虫の60%以上に感染しており、その宿主制御の巧みさも相まって「最も成功した寄生者」と言われている。ボルバキアは、「オス殺し」などの性・生殖操作を行うが、実行因子とその分子機構が解明されているのは「細胞質不和合」だけであった。この主たる原因は、ボルバキアの遺伝子操作法がないためである。私たちは、独自に樹立したボルバキア感染培養細胞を用いて、オス殺し因子の同定と作用機序の解明に世界で初めて成功した。本研究では、私たちの技術とツールをベースに、これまで不可能であったボルバキアにおける逆遺伝学を確立し、他の共生細菌にも応用可能なフローチャートを構築することを目的とする。

自然科学

15

## 成体脳内を移動する新生ニューロンにおける群知能的挙動の解析

同志社大学大学院脳科学研究科

教授 金子 奈穂子

成体脳内で産生された新生ニューロンは、長距離を移動して神経回路の再生に寄与する。新生ニューロンは、細長い細胞塊を作り交互に足場となりながら、周囲の細胞にトンネルを作らせて移動しており、この独特の移動様式が傷害部までの長距離の移動に必須である。しかし、各細胞がこれらのタスクをどのように分担して集団としての移動の効率化に貢献しているかはわかっていない。本研究では、ライブイメージング法、数理モデル解析、単一細胞レベルの網羅的遺伝子発現解析を行い、多数の新生ニューロンが群として脳機能の修復に寄与する、群知能的な移動制御メカニズムを解明すると共に、新規の再生促進戦略の創発を目指す。

自然科学

16

## 光揺らぎ観測による点変異1分子診断

東京工業大学生命理工学院

教授 川井 清彦

1つ1つの分子から放たれる蛍光を検出可能となったが、不純物等の光散乱によるノイズとの区別が困難であるため、輝点の有無だけから1分子検出を達成することは難しい。申請者は最近、1分子から放たれる蛍光が分子の化学反応に伴い点滅して観測される現象 (blinking) を利用した、核酸点変異の1分子分析・診断法を開発した。しかし、核酸の酸化損傷分解のためシグナルが安定に得られず、適応可能な遺伝子配列にも制限があった。本研究では、blinking現象を制御する新しい仕組みを開発し、長時間安定にシグナルが得られ、かつ、種々の核酸配列に適応可能となる、1分子レベルでの高感度点変異診断法の開発に挑戦する。



自然科学

17

### 広島大学かなた望遠鏡の可視 近赤外3バンド同時偏光観測化と 銀河磁場構造の研究

広島大学宇宙科学センター

教授 川端 弘治

銀河内の物質進化や高エネルギー現象に深く関わる宇宙磁場は直接見ることはできない。我々は、磁場を可視化する稀少なプローブである星間偏光を利用し、北天銀河面中の磁場の3次元構造を描出することを目指して、広島大学の口径1.5mかなた望遠鏡に取り付けられている可視赤外線同時カメラHONIRにもう1バンド分のユニットを開発して装着する。これにより、過去に前例のない可視光・近赤外域3バンド同時の偏光観測が可能となる。そして、地球からの距離範囲毎の星間磁場パターンを導出し、銀河内磁場の盛衰や物質進化との関わりを導き出す。また、かなた望遠鏡の機動的な特徴を活かして時間変動する偏光天体への応用的観測も実施する。

自然科学

18

### 太陽系外惑星の世界地図推定を 目指した多色同時測光システム の開発

宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所

准教授 河原 創

太陽系外惑星は生命居住可能領域の地球型惑星を含めこれまで数千以上が確認されてきた。宇宙直接撮像を用いても系外惑星は点としてしか観測されないが、CTスキャンのように光度の時間変動から表面の二次元マップを再構築できる。NASAも次期計画で宇宙直接撮像のHWO計画を最優先としている。現状ではスペクトルの取得が主眼であり惑星の光度変動は単色でしか取得できない。しかし惑星マッピングには二色以上の光度変動情報が必要である。この課題を解決するため宇宙研の真空テストベッドを高精度化しPlanet Color Moduleという同時多色撮像装置の開発を行う。2040年代のHWO打ち上げに向けてその搭載を目指す。

自然科学

19

### 自由行動動物における生体分子 動態の非侵襲・定量的可視化技 術による代謝疾患研究

自治医科大学大学院医学研究科

准教授 口丸 高弘

非拘束下の自由に行動する実験動物の深部臓器で進行する細胞応答を、非侵襲的かつ定量的に可視化できれば、多くの生命科学研究に新たな可能性を拓くことが期待できる。申請者らは、天然のホタルの発光機構を人工的に改変して、生体透過性に優れる近赤外発光を高効率に生成するAkaLumine-Akaluc反応(AA反応)を開発してきた。本研究では、AA反応を基軸とした近赤外生物発光反応を組み込んだ発光分子センサの新規設計論を提案し、自由行動動物の全身組織における生体分子動態の可視化に資する新たなツールを開発する。

自然科学

20

### 気球高度とのレーザー周波数 比較による一般相対論の高精度 検証を目指した基礎実験

宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所

准教授 国分 紀秀

本研究の最終的な目標は、標準理論を超えた物理学の開拓を目指して、一般相対性論の精密検証に代表される基礎物理学実験を大気球を用いて実施することである。具体的には、極めて高精度に周波数安定化されたレーザーを大気球によって高度数10kmで飛翔させ、地上との高精度光周波数比較を実施して、一般相対性理論の検証精度を飛躍的に向上させる。衛星を用いた実験に比べると、相対速度差の少なさやコストメリットの点で高い優位性があるが、周波数比較システムの実装や光リンクを維持する技術の構築など、多くの技術的課題があることから段階的に進める必要があり、本研究ではその第一段階としての基礎実験を具体的な内容とする。

自然科学

21

### 色中心量子センサを用いた精密物性計測技術の基盤開発

東京大学大学院理学系研究科

教授 小林 研介

磁性や超伝導など物質の示す多彩な性質を理解し制御することは、物理学における中心テーマの一つである。本研究は、磁場感度・空間分解能・測定帯域という多方面において優れた潜在能力を持つ新技術として、量子センサを用いた量子スピン顕微鏡を開発することを目的とする。その特色は、色中心であるダイヤモンドの窒素空孔中心および六方晶窒化ホウ素のホウ素欠陥を量子センサとして用いることによって、広視野における超高精度な磁場イメージングを目指す点にある。本研究で開発する量子スピン顕微鏡によって、磁性研究、特にメゾスケールの磁気構造の研究に新展開をもたらしたい。

自然科学

22

### 種特異的なゲノム刷り込み遺伝子座に寄与するレトロトランスポゾン

奈良県立医科大学医学部

准教授 小林 久人

親の由来に応じて片方の対立遺伝子のみが発現するインプリント遺伝子は、哺乳動物の発生に関わる重要な機能を持つことが知られている。申請者は、新生児期の摂食行動を促進するインプリント遺伝子“ZDBF2”の制御に関わるノンコーディングRNAが、ゲノム散在型反復配列であるLTRレトロトランスポゾンにより誘導されていることに注目した。LTR挿入とZDBF2インプリント遺伝子成立の関連性を検証するため、様々な哺乳動物サンプルを用いてノンコーディングRNA転写およびZDBF2インプリント発現の種間比較解析を行い、インプリント遺伝子制御機構の保存性と多様性の解明を目指す。

自然科学

23

### クライオ透過型電子顕微鏡を用いた新たな氷高压相の構造決定

東京大学大学院理学系研究科

准教授 小松 一生

氷には、大気圧、0℃以下でできる通常の氷の他に、現在20種類以上もの異なる結晶構造を持つ多形が見つかった。申請者は、最近少なくとも新たに数種類の氷多形が存在しうることを発見した。しかし、これらの新たな氷多形は一つ一つの結晶粒が100nmオーダーと微小であるため、従来のX線・中性子回折法では構造解析が困難であった。本研究では、100nm以下の微小試料でも構造解析が可能なクライオ透過型電子顕微鏡を駆使し、新規合成した氷高压相を液体窒素温度下で観察し、電子回折像から結晶構造の決定を試みる。

自然科学

24

### 新型コロナウイルス変異株の早期捕捉と性状解析

東京大学医科学研究所

教授 佐藤 佳

リスクの高い新型コロナウイルス変異株は、これからも出現が続くことが想定される。特に今後は、ワクチンによって感染予防ができない株が出現する可能性が高まっており、再感染や後遺症のリスクが高まりつつある。新型コロナウイルス変異株の性状を迅速に理解し、科学に基づく知見をリアルタイムに社会に発信するためには、その伝播力の推定、病原性・免疫逃避力・感染力の評価、構造学的理解を、その変異株の流行拡大前に完遂することが必須である。代表研究者・佐藤が主宰する研究コンソーシアムG2P-Japanの活動によって、これらを実施することを主たる目的とする。



自然科学

25

### 咀嚼障害により認知機能低下が生じる機序の解明とそれに基づくオーラルフレイル新規治療法開発の基盤構築

国立障害者リハビリテーションセンター

部長 澤田 泰宏

口腔機能の低下に伴う総合的な身体機能低下、すなわちオーラルフレイルの一型として、咀嚼不全による認知機能低下が知られている。しかし、その背景となるメカニズムは不明である。我々は、速歩き～軽いジョギング程度の運動時に脳に加わる上下方向の力学的刺激が脳内の間質液流動を促進し、前頭皮質における神経細胞機能の恒常性維持 (iScience 2020) や、延髄におけるアストロサイトの炎症反応抑制を介して血圧改善 (Nat Biomed Eng 2023) に作用することを明らかにしてきた。本研究では、咀嚼時には上記の運動時と同程度の力学的刺激が頭部に加わることに着目し、咀嚼不全マウスモデルを用いて、咀嚼機能と認知機能との関係を、分子細胞生物学的手法も併せて解明に挑む。

自然科学

26

### 電波観測と機械学習による星形成フィラメントの幅の普遍性の解明

九州共立大学経済学部

教授 鳥尻 芳人

我々の生命を形成する元素は、恒星での核融合反応によって生成され、星の生まれ方の研究は物理世界を知る鍵である。2010年にハーシェル赤外線望遠鏡の観測で、星形成の母体としてのフィラメントが確認され、その幅が特徴的な0.1pcであることが明らかとなった。しかし、フィラメントの真の幅については議論が続いている。最近の研究では、フィラメントの幅の測定結果には、観測のバイアスが存在する可能性が指摘されている。そこで、新たな機械学習モデルを用いて、観測データから観測のバイアスを取り除き、フィラメントの幅やその普遍性を正確に調査することが本研究の目的である。

自然科学

27

### 部分的リプログラミングによる老化細胞の若返り機構の解明

金沢大学がん進展制御研究所

教授 城村 由和

不可逆的な細胞増殖停止・生理活性因子群の分泌等の特徴を示す老化細胞の除去が、様々な加齢性疾患の病態を改善することが明らかになりつつある。しかし、老化細胞可視化マウスを用いた最新の一細胞遺伝子発現解析から、再生が困難な非増殖性細胞種由来の老化細胞除去による長期的影響・副作用も懸念されている。本研究では、老化細胞特異的に山中因子を一過的に発現させることによって、老化細胞の正常細胞への若返りの可能性を検証するとともに、その背後にあるエピゲノム変化などの基本原理を明らかにすることで、山中因子を用いることなく老化細胞の若返りを可能にする効果的かつ安全な健康寿命延伸法の分子基盤を構築する。

自然科学

28

### メディエーター複合体の液滴による細胞の増殖から分化への制御機構の解明

横浜市立大学大学院医学研究科

教授 高橋 秀尚

遺伝子発現の新たな制御機構として、液-液相分離によって形成される液滴による転写制御機構が注目されている。遺伝子の転写活性化において重要な役割を果たすメディエーター複合体は液滴を形成することで、様々な遺伝子の転写を統合的に制御する。これまでの研究によって、メディエーター複合体のコンポーネントMED26は、細胞外からの刺激に応答して必要な遺伝子領域で液滴を形成し、それらの遺伝子の転写を統合的に活性化することが明らかとなってきた。本研究では、MED26液滴による転写制御機構を分子から細胞、組織レベルまで解明し、その生体機能における役割の全容解明を目指す。

自然科学

29

## 重症ウイルス性肺炎発症の分子基盤の解明

東京大学大学院医学系研究科

教授 竹田 誠

私たちはインフルエンザウイルスやコロナウイルスなどの主要な呼吸器ウイルスの感染力が、宿主プロテアーゼTMPRSS2により増強されることを明らかにしてきました。ヒトゲノムの一遺伝子多型解析からも、TMPRSS2の重要性が示されています。そこで、TMPRSS2利用能という観点からウイルス性肺炎の重症化との関連を解析します。また、ウイルス感染をトリガーとした臓器間バリアの破綻メカニズムと二次性細菌性肺炎発症の分子基盤や、加齢・環境要因・ストレス要因などの常在細菌叢ならびに免疫状態への影響を解析することで、ウイルス性肺炎重症化の分子機構を包括的に理解することを目指します。

自然科学

30

## 感覚センシングを制御する免疫細胞の動作原理解明

奈良県立医科大学医学部

講師 田中 達英

末梢組織の免疫細胞が痛覚制御にどのように関与しているのか不明な点が多い。近年のイメージング技術の進展により、マクロファージは神経、あるいは血管に相互作用する各サブタイプの存在が明らかになり、各々が異なる振る舞いを示す不均一性が示されている。マクロファージが神経に影響を及ぼし痛みを惹起することは示されているが、あくまで慢性期や炎症時の痛みである。私たちは、これまでの検討から皮膚の末梢神経近傍のマクロファージが痛覚を制御することを見出している。本研究では遺伝子改変マウス、遺伝子網羅解析を駆使することで神経と相互作用するマクロファージが如何なる分子機構によって痛覚の閾値を制御するかを検証する。

自然科学

31

## カーボンニュートラルに資する人工光合成系による二酸化炭素再資源化

京都大学大学院工学研究科

教授 寺村 謙太郎

植物は光合成システムを駆使して、地球に無限に降り注ぐ太陽光をエネルギー源として利用し、地球上に豊富にあるH<sub>2</sub>Oを電子源として、CO<sub>2</sub>を固定化している。植物の光合成を模倣した人工光合成技術は太陽光と海水を利用してCO<sub>2</sub>を有用なエネルギーや資源に変換可能であることから、人類が達成すべき技術として注目されている。我々はこれまでに不均一系光触媒への表面修飾によって高活性・高選択的なH<sub>2</sub>Oを電子源とするCO<sub>2</sub>光還元を達成してきた。しかし、これまで報告されている光触媒は可視光を多く含む太陽光を利用できなかった。本研究では、可視光応答型光触媒の開発を目指し、太陽光を利用したCO<sub>2</sub>再資源化を実現する。

自然科学

32

## 話しことばと嚙下の共進化プロセスに関する実験的研究

京都大学ヒト行動進化研究センター

准教授 西村 剛

言語は、生物としてのヒトが人間という文化的な存在たりうる最大の特性である。言語コミュニケーションの媒体である話しことば(speech)を支える音声器官の解剖学的進化は、誤嚥リスクの増大というデメリットをもたらしたが、言語の適応的価値がそれに大きく優って選択されたと考えられている。本研究は、この言語進化のトレードオフ仮説を反証し、新たな共進化仮説を提起する。そのために、サル類における嚙下運動とそれによる誤嚥防止機構を明らかにする実験的研究を行う。それにより、ヒトでは、嚙下運動は解剖学的制約により進化的変容を遂げたが、誤嚥防止の仕組みと機能はサル類と共有して、話しことばにも適応したことを示す。



自然科学

33

## B型肝炎ウイルス細胞侵入複合体の形成機序と分子構造に関する研究

京都大学大学院医学研究科

准教授 野村 紀通

C型肝炎がほぼ克服された一方、B型肝炎ウイルス(HBV)によるB型肝炎は依然として人類の脅威であり、新たな治療法の開発が急務である。HBVの病原体としての発見は半世紀以上に遡るが、感染の分子機構の理解は未だ十分ではない。私たちはこれまでに、HBV感染受容体であるNTCPのアポ体の立体構造解析に世界に先駆けて成功し、HBV感染初期過程の可視化に向けての基盤を築いた。本研究では、①NTCPを核としたHBV細胞侵入超分子複合体の全構成因子の同定と時系列動態の解明、②HBV侵入超分子複合体の試験管内再構成とクライオ電子顕微鏡を用いた精密立体構造解析を統合的に進め、HBV感染機構の全貌解明に挑む。

自然科学

34

## 国際ミリ波電波望遠鏡ネットワークで挑む巨大ブラックホールジェットの生成・加速メカニズム

国立天文台水沢VLBI観測所

助教 秦 和弘

銀河の中心に存在する超巨大ブラックホールを撮像し、その影を角度分解するという天文学の最先端電波観測の結果が近年発表された。一方巨大ブラックホールからは、ジェットと呼ばれる細く絞られたプラズマ流が放出されているが、その形成・加速機構はまだ確立していない。本研究では、日韓中で共同観測する東アジアVLBIネットワークを用いてM87のジェットを徹底的にモニター観測し、ジェット発生的一瞬间と加速領域の観測的解明を目指している。特に重要局である石垣島の冷却受信機を本助成金を活用して整備することで、ジェット形成機構の最有力理論との定量的比較を行い、その成否に決着をつけるのが本研究の目的である。

自然科学

35

## グリア細胞を活用した緑内障に対する遺伝子治療研究

公益財団法人東京都医学総合研究所視覚病態プロジェクト

プロジェクトリーダー 原田 高幸

我が国で最大の失明原因である緑内障では、点眼薬の使用や手術によって眼圧を低下させることが唯一の治療法であり、現代でも失った視力や視野を取り戻すことはできていない。緑内障の進行を抑制するには網膜神経節細胞の保護が必要だが、近年では周囲のアストロサイトやミクログリア等の機能異常が、病態の悪化に関与する可能性が指摘されている。我々は網膜神経節細胞を標的とした遺伝子治療の動物実験により、緑内障の進行抑制や視神経再生が可能であることを報告済みだが、一般的には神経細胞よりもグリア細胞の方が耐久性は高い。そこで本研究ではグリア細胞を標的とした遺伝子治療によって、視機能が回復する治療法の開発を目指す。

自然科学

36

## 水上観測による水棲動物の生態調査

日本女子大学理学部

教授 深町 昌司

陸棲動物とは異なり、水棲動物の調査には様々な技術的制約が伴うため、その生活史には不明な点が多い。日本人に身近なメダカですら、岸から「そーっと覗いて見た」程度の知見しか無く、学術的な報告も皆無である。本研究では、ラムサール条約登録湿地に棲息する野生メダカを対象として、ドローンによる俯瞰的調査と定点カメラを用いた経時的調査を組み合わせた水上観測システムを構築する。動画中のメダカはAIを用いて定量し、水温や照度との関連を調べ、最終的に「どの季節のどの時間帯にはどこで何をしているか?」を、年間を通じて完璧に把握する。これまで誰も知らなかったモデル生物の姿から、新規研究テーマの創出に繋げたい。

自然科学

37

### タンパク質の三次構造を考慮した新規解析手法の開発と疾患原因遺伝子の同定

東京大学大学院医学系研究科

教授 藤本 明洋

ヒトの遺伝的多様性は疾患のリスクに影響することが知られている。疾患のメカニズムやリスク予測を行うため、ゲノム全域を対象として遺伝的多様性（バリエーション）と疾患の関連を調査する解析が広く行われてきた。近年、シーケンス技術の発展に伴い、レアバリエーション（集団での頻度<1%）に注目した解析が行われている。レアバリエーションは頻度が低いため単一のバリエーションの解析では統計的な検出力が弱い。申請者は、タンパク質の立体構造を考慮してレアバリエーションと疾患の関連を発見する新たな手法を考案した。本研究では申請者らが開発した手法を用いて全タンパク質立体構造とヒトの遺伝的多様性を解析し新規疾患関連遺伝子を同定することを目指す。

自然科学

38

### 空間マルチオミクス解析を用いた免疫細胞性組織障害における新規細胞死に基づく免疫細胞療法の開発

岡山大学病院

研究准教授 藤原 英晃

近年、免疫チェックポイント阻害剤やキメラ抗原受容体T細胞療法に代表される、がん細胞に対する免疫応答を利用した、「がん免疫療法」の高い有効性が示され、大きな注目を集めています。しかし、こうした高い有効性の一方で、これらのがん免疫療法においては、免疫細胞ががん以外の正常組織を攻撃する自己免疫による組織障害やがん免疫自体によって惹起される生体応答によって、重篤な合併症が生ずる可能性があることも知られています。本研究は、がん免疫療法に伴って生ずる正常組織の障害のメカニズムを、マルチオミクス解析を用いて時間的・空間的に明らかにし、組織障害を深く理解し免疫細胞療法の安全性有効性の向上を目指す研究です。

自然科学

39

### サブラティスエンジニアリングに基づく高耐摩耗合金創製の学理構築

東北大学金属材料研究所

教授 古原 忠

結晶性合金の固溶体中の元素分布は、化学結合性や原子サイズの違いなどに起因して多様な周期性を持つが、その周期性・規則性の起源は不明なままである。本研究では、侵入型副格子中の元素の規則配置の設計を置換型副格子の元素配置と重畳させて行う新たな指針である「サブラティスエンジニアリング」の原理を活用し、実用材として非常に重要な高耐摩耗鉄合金の創製に挑戦する。特に侵入型元素としての窒素に着目し、鉄結晶中の窒素の周期構造におよぼす種々の置換型元素添加の影響を解明し、周期構造形成による表面硬化のハイスループットでのデータ収集による硬化原理の探索を行うことで、高耐摩耗性合金の新設計指針の確立を目指す。

自然科学

40

### 酸化物薄膜を用いたアプローチによる新しい触媒科学の発掘

九州大学大学院総合理工学研究院

准教授 北條 元

金属酸化物は種々の触媒特性を示し、希少かつ高価な貴金属を担持した担持金属触媒を代替できる可能性があることから、その触媒特性の高性能化は非常に重要な課題である。金属酸化物の触媒特性は、触媒表面の結晶表面や原子配列などの表面構造に大きな影響を受けるため、その高性能化のためには表面構造と触媒特性の相関を明らかにする必要がある。本研究ではエピタキシャル薄膜試料を対象として、触媒特性に大きな影響を与えることが期待されながらその制御が困難であった触媒表面の結晶面や終端面、さらには格子歪みの制御を行う。それらの表面構造と触媒特性との相関を明らかにすることにより、新しい触媒科学の発掘を行う。



自然科学

41

## 中枢性疾患に関わる脳内マクロファージの統合的理解

九州大学生体防御医学研究所

教授 増田 隆博

脳や脊髄といった中枢神経系組織における主要免疫細胞として知られるミクログリアは、組織の恒常性維持や中枢性疾患発症において重要な役割を果たす脳内マクロファージである。一方、髄膜や血管周囲スペース、脈絡叢といった中枢と末梢の境界領域には、脳境界マクロファージという第2の脳内マクロファージが存在するが、その機能や存在意義はほとんど明らかになっていない。本研究では、脳境界マクロファージの機能解明に焦点を絞り、ミクログリアも含めた脳内マクロファージの存在意義の統合的理解、および中枢神経系疾患発症の分子メカニズムの解明を通して、疾患制御に向けた新規治療ストラテジーの提供を目指す。

自然科学

42

## アダプター蛋白に着目した炎症性腸疾患発症機序の解明

岡山大学学術研究院

研究准教授 松本 佳則

炎症性腸疾患をはじめとする自己免疫性炎症性疾患は、腸内常在菌や自己または外来抗原に対する異常な免疫応答により活性化された炎症細胞から、サイトカインやケモカインが異常産生されることで生じる。近年、サイトカイン阻害薬が炎症性疾患の主な治療法の1つとなっているが、その効果は十分でなく、サイトカイン異常産生の機序も明らかになっていない。これらの機序を解明することは、治療ターゲットとなる新たな因子の発見に繋がり、疾病と遺伝的・環境的素因の関係を明らかにする上でも重要である。本研究では、我々が研究を進める炎症誘発蛋白に着目し、炎症性腸疾患の病態形成における同蛋白の機能及び新規治療標的を明らかにしたい。

自然科学

43

## マウスにおいて父親の子育て行動を制御する神経回路メカニズムの解明

理化学研究所生命機能科学研究センター

チームリーダー 宮道 和成

本研究では、マウスをモデルとして父性養育行動の神経基盤の解明を目指す。我々の先行研究により、視床下部室傍核から分泌されるオキシトシンが父性養育行動に重要な役割を果たすことが分かったが、その下流の神経回路メカニズムは不明である。本研究では、オキシトシン受容体に着目し、条件付きノックアウトマウスや薬理遺伝学を駆使することで、主に視索前野領域のシグナルが養育行動の促進に変換されるメカニズムを、分子レベル、神経回路レベルで解明することを目指す。これらの知見は、哺乳類において保存されている視索前野における養育中枢の制御機構の一端を明らかにし、将来的に、男性の子育ての脳内基盤の理解に資するものである。

自然科学

44

## 自閉スペクトラム症動物モデルにおける発症臨界期メカニズムの解明

群馬大学大学院医学系研究科

教授 三好 悟一

本研究では、自閉スペクトラム発症の臨界期において、発達を主導するニューロン群に着目することで発症を制御する回路・分子メカニズムを解明することを目指す。

申請者のグループでは独自に自閉スペクトラム症モデル群を樹立し、自閉症特性の悪化や治療を抑制回路への介入により実験的に再現することで、「発症の臨界期」という学術的独自性の高い概念を確立した。マウス生後1-2週に形成される発症の臨界期に着目することで、生後回路発達の基盤原理のみならず、自閉スペクトラム症の発症メカニズム解明および新たな医療シーズ提案にも繋がる創造性の高い画期的な研究を展開する。

自然科学

45

## 血管伸展性消失の新規分子機構の解明

岡山理科大学獣医学部

講師 向田 昌司

動脈硬化の病態機序として、血管内膜のアテローム形成やその破綻による血栓形成の病変が良く知られている。一方、近年の疫学的研究から、血管壁の伸展能が失われる動脈ステイフネスの状態が、動脈硬化症の重要なリスク因子であることが分かってきた。本研究は、血管収縮の制御ならびに動脈硬化性疾患の起点となるプロテインキナーゼCに着目し、動物モデルを用いて血管伸展性の消失の病態機序解明に取り組む。動脈ステイフネスは、高齢者高血圧患者によく観察され、これまで加齢による線維化を伴う不可逆的な変化として認識されてきたが、高血圧に共通する血管の収縮異常の観点から新たな病態メカニズムの概念とその治療標的を提示したい。

自然科学

46

## 細胞極性の破綻を抑制する新規遺伝学的機構の解明

北海道大学遺伝子病制御研究所

教授 茂木 文夫

細胞は内部の空間パターン「細胞極性」を整えることで、組織と器官の規則性を生み出す。この細胞極性が生体のライフコースに応じて形成・維持・破綻する恒常性の制御機構は十分に理解されていない。本研究は、細胞極性の破綻に対する生体レジリエンスを包括的に理解することを目的とし、細胞極性制御因子PAR複合体の欠損が引き起こす極性破綻を抑制できる「サプレッサー因子」を同定し、PAR複合体とサプレッサー因子の機能的連携を個体発生から老化に至る全ライフコースで解明する。本研究が細胞極性の恒常性を司る新規原理を見出すことで、哺乳動物でも起こる極性破綻に由来した疾患発症の理解に向けたパラダイムシフトを目指す。

自然科学

47

## 細胞外マトリクスが駆動する血管リモデリング機構の解明と病態発症の原理究明

国立循環器病研究センター先端医療技術開発部

室長 山城 義人

生体は、損傷やストレスに対して細胞や組織を適応（リモデリング）することで恒常性を維持する。この組織リモデリングの過程では、細胞に加えて細胞外マトリクス（ECM）の分子組成や物性もダイナミックに変化すると考えられるが、その実態や機能は殆ど不明である。近年、血管内皮細胞が間葉系細胞へと移行する可塑性の内皮間葉転換（EndMT）が循環器病態発症の起点となることが数多く報告されている。そこで本研究では、EndMT機構におけるECMの分泌・作用・分解のターンオーバー（ECMダイナミクス）とその細胞への作用機序を生体イメージング技術を用いて明らかにし、ECMが駆動する血管リモデリングの原理に迫る。

自然科学

48

## キラル超伝導体を用いたスピントランジスタの開発

分子科学研究所協奏分子システム研究センター

教授 山本 浩史

キラルとは、分子や結晶の構造が人間の右手・左手のように、鏡に映した時に元の形と重ならない性質のことを言う。近年注目されているCISS（Chirality-Induced Spin Selectivity）効果は、キラルな物質を通過した電子が無磁場において巨大なスピン偏極を生じるという現象である。本研究では、代表研究者がこれまで実現してきたキラル超伝導体におけるCISSスピン偏極と、超伝導トランジスタとを組み合わせ、ゲート電圧によるスピン偏極制御を行うものである。このような研究は、新たな超伝導スピントロニクスを切り拓くとともに、CISS効果のメカニズム解明にも寄与できると考えられる。



自然科学

49

### 寄生植物の細胞壁成分を介した自己認識機構の解明

奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科  
教授 吉田 聡子

寄生植物は他の植物に寄生して水や栄養を獲得して生育する。しかし、自分自身や近縁の寄生植物に対しては寄生しない。すなわち、寄生植物は自他認識機構を持っていると考えられる。申請者らは、ハマウツボ科寄生植物が、近縁寄生植物に対して寄生器官である吸器を形成しないことを見出した。吸器は、細胞壁由来成分である吸器誘導物質によって誘導されるため、寄生植物の自他認識は細胞壁成分の組成に由来すると考えられた。本研究では、自己寄生を起こすハマウツボ科寄生植物コシオガマの変異体を用いて吸器誘導物質の解析をおこなうことで、寄生植物の自他認識機構を明らかにすることを目指す。

自然科学

50

### 放射線治療に用いる極低侵襲金マーカの構築

北海道大学大学院工学研究院  
教授 米澤 徹

本研究は、画像誘導放射線治療に用いる極低侵襲位置決め金マーカーを設計・作製するものである。そのために、金ナノ粒子の高濃度分散状態の制御と評価を行う。一般に治療効果を高めるため、腫瘍近傍にX線吸収するマーカーを置き、このマーカーの移動に従って、腫瘍部位にのみ照射する画像誘導放射線治療法が用いられるが、従来のマーカーには直径2mm程度の金粒子を使っている。そのため、太いカテーテルで患部に導入する必要があり、非常に高侵襲である。本研究では液状の金マーカー分散液を用い、体内でゲル化して留置する極低侵襲な金マーカーを構築する。これが実現すれば、画像誘導放射線治療に関する新しい手法として発展することが期待できる。

自然科学

51

### 膜透過性を示す超分子の構造因子の解明

九州大学大学院工学研究院  
准教授 若林 里衣

生体内で細胞は様々な物質に接し、接着や取り込み、それに付随する細胞内応答を示す。中でも、細胞への物質の取り込みは、ドラッグデリバリーシステムにおいて重要な過程の一つである。私たちはこれまでに両親媒性ペプチドと蛍光基を共集合させ形成した超分子が、直接細胞膜を介して細胞に内在化し、細胞傷害性も示さないという性質を持つことを見出している。本研究では、この超分子を基に様々な構造改変を行うことで、膜透過性を示すために重要となる超分子の構造因子および内在化のメカニズムを明らかにする。細胞膜を標的としたドラッグデリバリーシステムの開拓につなげたい。

自然科学

1

## 天然記念物テングノムギメシに関する生物有機化学的研究

中央大学理工学部

准教授 岩崎 有紘

テングノムギメシは、長野県小諸地方で食べられる土として伝承されるゼリー状の微生物集団である。申請者は、文化庁の許可を得て東小諸に存在する天然記念物“テングノムギメシ産地”を調査し、40年ぶりにその生存を確認し、サンプルの入手に成功した。本研究課題では、独自に入手したテングノムギメシを題材に、以下ふたつの観点から生物有機化学的研究を進める。①テングノムギメシの構成微生物の組成解明：形態観察、メタゲノム解析、選択培地を用いた単菌化を通じ、構成微生物の組成を明らかにする。②テングノムギメシ由来の新規生物活性物質の探索：がん、熱帯病、ウイルス感染症の治療に有効な活性を示す新規生物活性物質を発見する。

自然科学

2

## 酸化ストレスに応答する表現型多型の制御機構

広島大学大学院統合生命科学研究所

准教授 奥村 美紗子

生物の表現型の決定には、ゲノム情報だけでなく、生物が育つ環境も重要であり、同じゲノム情報から複数の不連続的な表現型が生じる場合を表現型多型という。しかし、環境に依存して異なった表現型を生み出す分子メカニズムは解明されていない。本研究では、酸化ストレスによって線虫の口腔形態が変化するという独自の予備的研究に基づき、網羅的遺伝子発現解析などを用いて、環境により異なった形態が生じる分子機構を明らかにする。本研究で得られる基礎的な知見を、将来的に哺乳類などの他の動物種にも拡大することで、発生過程における適切な環境を見出し、健康・医療の質の向上に向けたシーズの創出につながると期待している。

自然科学

3

## CRISPR-Cas酵素Cas9の分子進化を可視化する

東京医科歯科大学統合研究機構

テニュアトラック准教授 加藤 一希

Cas9はバクテリアから単離されたRNA依存性DNA切断酵素であり、そのユニークな酵素活性は動植物のゲノム情報を書き換えるゲノム編集技術に応用されてきた。近年、Cas9の進化的祖先に相当する酵素としてIscBが同定された。本研究では、クライオ電子顕微鏡を用いて、さまざまなバクテリア由来のIscB、Cas9の立体構造を明らかにし、IscBからCas9への進化を原子レベルで可視化することを目指す。さらに構造に基づいたエンジニアリングを行うことによって、既存のCas9を超えるゲノム編集ツールの開発を目指す。

自然科学

4

## トポロジカル分極表面におけるスピン軌道結合状態の解明と制御

東京大学生産技術研究所

准教授 金澤 直也

近年、物性物理学においてトポロジーという幾何学の概念が導入され、新しい量子物質のカテゴリーが確立されてきた。さらにトポロジーの性質を巧みに活用することによって、省電力エレクトロニクスや量子情報技術への実装も期待されている。しかし従来のトポロジカル物質の多くは原子番号の大きな重元素を多量に含有しており、環境負荷や資源枯渇の観点から課題が残っている。そこで本研究では、系統的な物質パラメータ制御を用いて、ありふれた元素で構成された化合物のトポロジカルな側面を探究し、それらの物質固有の分極表面状態の起源を解明する。またこれらのスピン軌道結合物性を昇華させ、次世代デバイス応用への可能性を示す。



自然科学

5

## スプライシング制御因子の基盤研究

国立がん研究センター研究所

研究員 小林 祥久

RAS遺伝子の変異は最も頻度の高い発がん機構であり、RASを標的とした治療薬の開発が積極的に試みられてきたが、臨床応用に至ったのは一部の変異に限られている。申請者は、RAS遺伝子上のスプライシングに対する脆弱な領域及びがん細胞がこの脆弱性を回避する分子機構を発見し、それを応用した新規治療を提唱した。本研究では、この新規治療法を他の遺伝子にも応用することを目指す。どのようなゲノム配列とスプライス因子がスプライシング異常に役割を果たしているのかを実際の細胞実験で検証することで、大規模データ解析による膨大な候補の中から創薬標的を見出すための基盤を構築する。

自然科学

6

## フッ素化ナノチャネルによる超高速水透過現象のメカニズム解明

関西学院大学理学部

准教授 佐藤 浩平

申請者は最近、内部がフッ素原子で密に覆われた人工チャネルが、天然の水チャネルであるアクアポリンを上回るほどの超高速選択的水透過を実現できることを明らかにしている。一方で、その水透過メカニズムは未だ大きな謎に包まれている。そこで本研究では、フッ素原子数と配向が異なるフッ素化ペプチド型チャネルを系統的に化学合成するとともに、その結晶構造解析によってチャネル内部空間の水分子ネットワーク構造を明らかにし、チャネルが有する水透過能と関連づけることで、フッ素化人工チャネルの内部における水透過現象の全容を解明することを目指す。

自然科学

7

## 冬眠様状態を誘導するQニューロンの睡眠覚醒制御への関与

筑波大学医学医療系

研究員 高橋 徹

私たちはこれまでに、神経ペプチドQRFPを産生する視床下部のニューロン群のうち、視索前野に局在するニューロン群(Qニューロン)を興奮させると、マウスが冬眠のような休眠状態(QIH)となり、体温や代謝が長期的かつ著しく低下することを明らかにした。さらに、長期間かつ時間分解能の高い神経操作方法を開発し、より安全かつ再現性高くQIHを人工的に誘導することにも成功した。本研究では、休眠現象や人工冬眠ではなく、われわれヒトも日々体験する身近な行動である「睡眠」に着目する。Qニューロンが生理的に有する役割の解明を目的とした研究を行うことで、休眠誘導ニューロンによる睡眠覚醒制御メカニズムの解明に迫る。

自然科学

8

## トランスクリプトームワイド関連解析(TWAS)による慢性腎臓病リスク遺伝子の同定

名古屋大学大学院医学系研究科

特任助教 道家 智仁

GWAS解析により腎機能と有意に相関するリスクバリエントが次々と明らかにされているが、それらの生物学的意義は十分に解明されていない。私たちはこれまでにトランスクリプトーム解析(TWAS)により慢性腎臓病のリスク遺伝子を同定してきた。しかしながら、多くの遺伝子は慢性腎臓病の進展に対する分子基盤が不明であり、早急な機能解明が望まれている。疾患の発症には人種特異的な違いが報告されているが、これまでの腎TWASは欧米人が解析対象の主体であり、日本人における解釈には注意が必要である。本研究では、日本人の腎臓を対象にした腎eQTLデータベースの構築を目指し、腎TWAS解析を行うことを目的とする。

自然科学

9

## がん由来細胞外小胞を取り込む細胞の組織内分布の解析

早稲田大学高等研究所

講師 西田 奈央

エクソソームなどの細胞外小胞は、細胞間の情報伝達を担うナノサイズの粒子である。がん組織では、がん細胞は細胞外小胞を放出して、周囲の正常細胞をがん促進性の性質に改変していることが知られる。がん組織はがん細胞・正常細胞・細胞外マトリックスなど色々な要素が密に詰まった構造を持つが、がん組織内で細胞外小胞がどのように受け渡しされているのかの解析は十分になされていなかった。そこで本研究では、がん組織モデルを活用して、がん組織内でのがん細胞外小胞の分布、移動、それに伴う細胞の変化を調べることで、がんの増殖・転移に関わる細胞外小胞の役割を時空間的に理解することを目的としている。

自然科学

10

## 超小型衛星によるX線観測を用いた新手法で実現する低エネルギー銀河宇宙線の測定と起源解明

近畿大学理工学部

講師 信川 久実子

地球には宇宙から膨大な数の荷電粒子が飛来している。それらは宇宙線と呼ばれ、その起源は宇宙物理学における重要なテーマである。本研究は、比較的エネルギーの低い宇宙線の起源に注目した。これらの低エネルギー宇宙線は、天の川銀河内の超新星残骸で加速されているというのが定説だが、代表研究者らは、超新星残骸が存在しない場所にも低エネルギー宇宙線が多い場所が存在することを発見している。本研究の目的は、低エネルギー宇宙線が星間物質に衝突して放射する中性鉄原子からのX線を、超小型衛星を用いて観測し銀河面における低エネルギー宇宙線分布を明らかにする、独創的なプロジェクトの概念設計と検出装置試作を行うことである。

自然科学

11

## 脳機能を崩壊させるリピドーシス機構解明と認知症のリンク

お茶の水女子大学ヒューマンライフサイエンス研究所

特任講師 橋本 恵

老化による脳機能の崩壊はどのように起きるのか？近年、脳を守るとされてきた脳免疫細胞ミクログリアは、老化するとニューロンへの攻撃に積極的に関わるようになってきた。申請者は、認知症モデルマウスを用い、加齢に伴いミクログリアの不要物除去能と炎症物質産生が過剰活性し、自己免疫不全を示すことを明らかにしてきた。加えて、ミクログリアが補体だけでなく脂質を介してニューロンに攻撃することを見出している。しかし、どのような機構でミクログリアが脂質代謝不良により神経細胞死を誘発するのか、その答えは分かっていない。本研究は、ミクログリアの脂質代謝異常が認知症に及ぼす影響を示し、認知症予防、治療法開発に貢献する。

自然科学

12

## 加齢性疾患における腸内細菌の関与

東京農工大学大学院農学研究院

テニユアトラック准教授 宮本 潤基

近年の腸内細菌研究の発展に伴い、宿主の生体恒常性と密接に関与することが明らかにされている。特に、加齢期は低栄養、食欲の低下や基礎代謝の低下などが引き金となり腸内細菌の構成に及ぼす結果、慢性炎症を基盤病態とした加齢性炎症（inflammaging）の発症・増悪、そして加齢性疾患の病態に直接的に関与する可能性が示唆されている。しかしながら、加齢期における腸内細菌の変化がどのような分子機序で加齢性疾患の発症や増悪に関与するかは明らかにされていない。そこで、本研究では、加齢に伴う腸内細菌の変化が加齢性疾患の発症に及ぼす影響の解明、そして、inflammagingの制御を介した加齢性代謝異常の病態に及ぼす生理的意義の解明を目指す。



自然科学

13

術後せん妄を理解し、検出し、  
予防する

鳥取大学医学部附属病院

講師 山梨 豪彦

術後せん妄とは手術侵襲により発症する症候群で、術後経過に大きな影響があるだけでなく、予後にも重大な影響を与える。そのため、術後せん妄の早期発見および予防は重要な課題であり、超高齢化社会を迎えるにあたり、その重大性は益々大きくなる。本研究においては、術後せん妄の病態理解、検出法の発見、および予防法の開発を目標に、適切な評価系による動物モデルの確立、小型脳波デバイスによる術後せん妄の簡便な検出法の確立、血液DNAメチル化に注目したバイオマーカー研究、せん妄リスクを下げる薬剤に関する観察研究、薬物によらない術後せん妄予防のランダム化比較試験まで、幅広い観点から研究を行うものである。

自然科学

14

Si系半導体における点欠陥と  
不純物の欠陥複合体・クラスター  
の学理深化

名古屋大学大学院工学研究科

講師 横井 達矢

Si系半導体において、点欠陥や不純物の相互作用によるナノ・メゾスケールの欠陥複合体・クラスターは電子特性をはじめとする半導体特性を決定づけるため、その形成機構と原子・電子構造の根源的理解が必須である。本研究では人工知能技術、多体量子計算、実験検証の融合により、上記の課題に取り組む。まずSi中の点欠陥や不純物を対象に、第一原理計算データを学習させた深層学習原子間ポテンシャルを構築し、高精度・高速で欠陥の原子構造と安定性を予測する。そして3次元原子プローブにより、計算・実験の両面から欠陥分布を検証する。また量子モンテカルロ計算や混成汎関数計算により、電子・スピン分布やバンド構造を解明する。

自然科学

15

放射線照射による脳機能への  
影響を最小限に抑えるAAVウイルス  
ベクターの開発

群馬大学未来先端研究機構

助教 六本木 麗子

中枢神経に対する放射線照射は、原発性脳腫瘍やがんの脳転移の他、小児急性リンパ性白血病の中枢神経再発予防としても重要である。一方、中枢神経に対する放射線照射の副作用として認知機能障害（高次機能障害）を発症することが知られている。放射線誘発の認知機能障害での主な因子として神経炎症がある。神経炎症は、アルツハイマー型認知症やパーキンソン病などの神経変性疾患に関連する主要な要因であり、多くの認知疾患や老化に関与している。本研究では放射線照射後に炎症反応を示すミクログリア細胞を標的としたアデノ随伴ウイルスベクターを開発することにより、放射線誘発の認知機能障害を軽減する遺伝子治療の確立へとつながる。

# 第52回（2023年度）三菱財団人文科学研究助成先一覧

## 【大型連携研究助成】

番号	所在地	名称	使 途	金 額
1	千葉県	麗澤大学未来工学研究センター 講師 新井 重弓 <sup>あらい あゆみ</sup>	携帯基地局データによる公的統計補完の実証研究：タンザニアとガンビアを事例として	7,800,000円

## 【一般助成】

番号	所在地	名称	使 途	金 額
2	愛知県	名古屋大学大学院国際開発研究科 教授 石川 知子 <sup>いしかわ ともこ</sup>	低炭素水素生産事業に対する「社会的操業許可」の研究	3,200,000円
3	北海道	札幌学院大学人文学部 教授 臼杵 勲 <sup>うすき いさお</sup>	匈奴単于庭の考古学的検討	3,200,000円
4	愛知県	南山大学総合政策学部 准教授 太田 和彦 <sup>おおた かずひこ</sup>	地域レベルでのフードガバナンスを支援するフードスケープの活用	1,300,000円
5	香川県	香川大学経済学部 准教授 緒方 宏海 <sup>おがた ひろみ</sup>	過疎化する瀬戸内海離島で暮らす高齢者のコミュニティの再形成と観光地域づくりに関する文化人類学的研究	1,400,000円
6	神奈川県	慶應義塾大学理工学部 教授 小野 文 <sup>おの あや</sup>	物語論から読むエミール・バンヴェニストー再解釈の試み	2,600,000円
7	東京都	慶應義塾大学経済学部 教授 亀井 憲樹 <sup>かめい けんじゅ</sup>	企業組織における賃金格差と労働者のサボタージュ行動（人為的フィールド実験に基づく考察）	1,400,000円
8	宮城県	東北大学大学院国際文化研究科 准教授 KLAUTAU ORION <sup>くらうたう おりおん</sup>	近代思想史における日本型宗教改革としての鎌倉新仏教の研究	600,000円
9	東京都	東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授 阪井 裕太郎 <sup>さかい ゆうたろう</sup>	水産物の鮮度の価値の解明	3,050,000円
10	東京都	東京都立大学法学部 准教授 佐藤 信 <sup>さとう しん</sup>	日本における「国際政治（学）」の誕生－「神川彦松日記」の基礎的研究	3,800,000円
11	山形県	山形大学人文社会科学部 日本学術振興会特別研究員PD 莊司 一歩 <sup>しょうじ かずほ</sup>	先史アンデス海岸地域におけるジャガイモ利用－歯石DNAと安定同位体を用いた農耕・漁労複合の検証－	3,650,000円
12	広島県	広島大学大学院人間社会科学部 教授 杉木 恒彦 <sup>すぎき つねひこ</sup>	仏教アバランチャ語偶頌の基礎的研究	1,400,000円
13	東京都	東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科 教授 住友 文彦 <sup>すみとも ふみひこ</sup>	人口減少社会における産業と文化によるアフターマティブアクション	1,400,000円
14	北海道	北海道教育大学教育学部旭川校 准教授 津田 拓郎 <sup>つだ たくろう</sup>	7-10世紀アフロユーラシア諸地域における世界認識の研究：新しい世界史像の構築にむけて	2,000,000円
15	愛知県	金城学院大学人間科学部 教授 寺島 徹 <sup>てらしま とおる</sup>	蕉風復興運動における連句資料の調査と付合文芸の分析	1,150,000円



番号	所在地	名称	使 途	金 額
16	東京都	東京大学大学院法学政治学研究科 教授 <small>なかやま</small> 中山 <small>ようへい</small> 洋平	現代西欧諸国における政治的急進化の比較歴史分析：公共サービスの市場化とそのインパクト	1,600,000円
17	東京都	東京大学総合研究博物館 教授 <small>にしあき</small> 西秋 <small>よしひろ</small> 良宏	コーカサス地方における初期人類展開の考古学的研究—アゼルバイジャン、アジフ洞窟出土資料を中心に	3,900,000円
18	東京都	東京大学大学院教育学研究科 教授 <small>にへい</small> 仁平 <small>のりひろ</small> 典宏	社会サービス供給における地域への移行（不）可能性に関する社会学的研究	1,550,000円
19	東京都	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授 <small>ねぎし</small> 根岸 <small>よう</small> 洋	日本列島北部における土器出現イベントと火山災害適応史の解明	3,100,000円
20	青森県	弘前大学人文社会科学部 教授 <small>はすみ</small> 荷見 <small>もりよし</small> 守義	档案（文書）史料から読み解く明代中国の政策と法制との関係—特に明代後期の政策に及ぼした先例踏襲化の影響	1,400,000円
21	京都府	京都大学大学院文学研究科 准教授 <small>はにぶち</small> 埴淵 <small>ともや</small> 知哉	「手描き認知地図」のデータ基盤構築による世界・都市イメージの包括的理解に向けた研究	2,450,000円
22	京都府	立命館大学大学院法務研究科 教授 <small>ひらの</small> 平野 <small>てつろう</small> 哲郎	韓国における医療事故被害者救済と医療紛争解決の調査	1,300,000円
23	東京都	東京工業大学リベラルアーツ研究教育院 特別研究員 <small>ふじい</small> 藤井 <small>まお</small> 麻央	近代民衆宗教における教団を越境するサークル活動に関する研究	550,000円
24	東京都	東京薬科大学生命科学部 教授 <small>ほそみち</small> 細道 <small>かずよし</small> 一善	アマゾン先住民族ワオラニ族の遺伝的多様性と細菌叢から見る生活と文化	3,200,000円
25	奈良県	奈良大学文学部 教授 <small>みき</small> 三木 <small>まさふみ</small> 理史	戦後日本における国鉄線と沿線地域に関する研究	1,100,000円
26	東京都	東洋大学法学部 准教授 <small>みのわ</small> 箕輪 <small>まさとし</small> 允智	Q方法論を用いた公務員の公共倫理に関する探索的国際比較研究	3,500,000円
27	静岡県	静岡大学人文社会科学部 教授 <small>やまおか</small> 山岡 <small>たくや</small> 拓也	後期更新世における黒ボク土層の生成と人間活動との関わりについての基礎的研究	3,350,000円
28	東京都	東京大学大学院経済学研究科 准教授 <small>やまもと</small> 山本 <small>こうじ</small> 浩司	市場社会の新たな比較史にむけて：Public-Private Partnershipの歴史的経路依存性を手がかりに	2,550,000円
29	東京都	国立社会保障・人口問題研究所人口動向研究部 研究員 <small>よしだ</small> 吉田 <small>わたる</small> 航	両立支援策をめぐるパラドクス—雇ユーザー・企業レベルのパネルデータを用いた「マミートラック」の実証研究	1,400,000円
合 計				29件 68,900,000円

(所属先・職名については2023年9月11日現在)

人文科学

1

携帯基地局データによる公的統計補完の実証研究：タンザニアとガンビアを事例として

麗澤大学未来工学研究センター

講師 新井 亜弓

公的統計は、政策立案や民間の意思決定において必要不可欠なデータである。一方で、調査によるデータ更新には莫大な人的・財政的コストを伴い、エビデンスに基づいた政策・計画立案を行う上での課題となっている。

携帯電話を使うと、その位置と時間が携帯基地局データとして記録され、そこから人口分布や人々の移動状況を把握できることが明らかになりつつある。本研究では基地局データを用いて、調査データでは把握が難しい季節移動や通勤人口等の統計を作成する。この統計を公共サービスの配分や交通マネジメントにおけるエビデンスとして用いることで、途上国の行政サービスの費用対効果の向上に寄与し、さらにその効果を定量的に評価する。

人文科学

2

低炭素水素生産事業に対する「社会的操業許可」の研究

名古屋大学大学院国際開発研究科

教授 石川 知子

低炭素水素事業は、気候変動緩和対策及びエネルギー安全保障対策として急速に重要性を増している。他方、低炭素水素生産は、その行われる地域の環境及び社会に対する負荷とリスクを伴うものであり、事業の持続的な発展のためには、負荷を受ける地域から継続的に信頼を受け、受容されることが必要となる。

以上を背景とし、本研究では、環境・社会的負荷を伴う産業において、事業の正当性の指標として発展してきた「社会的操業許可(Social Licence to Operate, SLO)」という概念を低炭素水素生産事業に当てはめ、その有効性の拡充を図るとともに、SLO獲得・維持のための諸要素を法的観点から分析する試みである。

人文科学

3

匈奴単于庭の考古学的検討

札幌学院大学人文学部

教授 白杵 勲

本研究は、モンゴル帝国に代表される遊牧国家あるいは中央ユーラシア型国家の原型を形成した匈奴の国家経営モデルを考察するため、モンゴル国オルホン川流域を中心に近年発見が相次いでいる匈奴の囲壁施設(宮殿・居館・城塞等)を主たる対象とし、それらの規模・形状や出土遺物から類型化や機能の検討を行い、かつそれらの遺跡と直接関わる生産遺跡・集落・墳墓群との関係性を考古学的に検討し、匈奴の政治・軍事・経済を含む遊牧国家モデルを考察することを目的とする。新たな考古資料を最大限に活用し、史料・碑文等の文字記録では不足する部分を補いながら、新たな遊牧国家観の構築を目指すことを特色としている。

人文科学

4

地域レベルでのフードガバナンスを支援するフードスケープの活用

南山大学総合政策学部

准教授 太田 和彦

天然資源の減少や気候変動などの問題から、地域レベル～国際レベルのフードシステムの見直しが求められている。地域のフードシステムの改善にあたっては、民間、自治体、研究所などが連携して行動する「フードガバナンス」が重要となる。その際、注目されているのが「フードスケープ」である。フードスケープは地域の食習慣や社会への影響などを映す景観であり、地域の公衆衛生や公平性の改善のための連携支援に活用されている。しかし、日本ではその実践や事例分析は十分ではない。そこで本研究では、日本国内の都市で、地域レベルでのフードガバナンスの支援にフードスケープがどのように活用可能かを過去の事例と実践から明らかにする。



人文科学

5

## 過疎化する瀬戸内海離島で暮らす高齢者のコミュニティの再形成と観光地域づくりに関する文化人類学的研究

香川大学経済学部

准教授 緒方 宏海

現在、瀬戸内海の離島に共通する深刻な問題は、過疎化と高齢者が島の人口の大半を占めていることである。この傾向に変化がなければ瀬戸内海の島々が消滅する恐れも否定できない。本研究の目的は、人類学の視点から人口減少に直面する瀬戸内海の離島に居住する高齢者コミュニティの再形成や地域社会とのつながりの実態、及び島の観光地域づくりにかかわる地域的基盤を実証的に明らかにしようとするものである。本研究が解決すべき社会的課題は、過疎化に直面する離島在住の高齢者の地域づくりの自分事化の可能性を検証することである。加えて高齢者が、住み慣れた島で最期まで暮らし続けたいというニーズから求められる地域社会の役割を提示する。

人文科学

6

## 物語論から読むエミール・バンヴェニスト-再解釈の試み

慶應義塾大学理工学部

教授 小野 文

フランスの言語学者エミール・バンヴェニストが提示した人称論や時制論は、結果として欧米における物語論の二つの大きな流派を作り出し、とりわけ「語り手」の存在については今でも二つの考え方が対峙している。しかしながら出発点であるバンヴェニストの言語思想には、「人称」や「語り手」の問題に限ってみても、未だ汲み尽くされていないものがあると考えられる。本研究は、バンヴェニストの言語論を読み直し、日本語の文学理論も考慮することで、物語論に新たな展開を見出そうとするものである。またさらに、20世紀人文科学の内部でいかに諸概念が分野を超えて移動し、多様な解釈を受けていったかを辿り直す、概念史の試みともなるだろう。

人文科学

7

## 企業組織における賃金格差と労働者のサボタージュ行動(人為的フィールド実験に基づく考察)

慶應義塾大学経済学部

教授 亀井 憲樹

組織や企業における賃金格差は協力・協同環境や規範を悪化させ、労働者にモラル・ハザード行動や同僚・他の労働者への妨害行動(サボタージュ)を引き起こすと理論的に指摘されているが本当だろうか?この命題の妥当性は、現実企業のデータから労働者の非生産的行動を同定することが困難であることから、フィールドデータから答えることはできない。本研究は賃金格差と非生産的活動の関係をインドの農村における斬新な実験によって明らかにしようとするものである。実験で村民が作業する労働タスクを設計し、そのパフォーマンスによって報酬が決まるものとし、報酬格差がいかに労働者間のサボタージュなどの非生産的行動に影響するかを見極める。

人文科学

8

## 近代思想史における日本型宗教改革としての鎌倉新仏教の研究

東北大学大学院国際文化研究科

准教授 KLAUTAU ORION

近現代において、「宗教改革」という概念を使用しつつ、「日本仏教」の展開や特徴を描写しようとした一連の言説が思想界に大きな影響を与えた。日本の知識人は19世紀末から、マルティン・ルター(1483-1546)によるヨーロッパの「宗教改革」に、自国の事象を語る上で一つの有効なモデルを見出してきた。その日本型「宗教改革」は、1910年代には中世のいわゆる「鎌倉新仏教」の営為と同一視されるようになり、この姿勢は以降の歴史叙述に大きな影響を及ぼした。本研究は、「鎌倉新仏教」の表象を軸に、「日本仏教」の歴史的展開を語る上での言説装置としての「宗教改革」の諸相を描き、その思想史上の意義を考えるものである。

人文科学

9

## 水産物の鮮度の価値の解明

東京大学大学院農学生命科学研究科

准教授 阪井 裕太郎

本研究では、水産物の鮮度の価値を解明することを目的として、実際の支払いを伴う選択実験（リアル選択実験）を行う。選択実験とは、価格や品質が異なる複数の選択肢から最も望ましいものを選んでもらう実験である。ほとんどの選択実験では、参加者は仮想的に最も望ましいものを選ぶだけで、実際に選んだものを購入する必要はない。ところが仮想的な選択実験では、参加者が実際には買わないような高い商品を選ぶ傾向があることが知られている。このバイアスに対処するために本研究ではリアル選択実験を採用し、鮮度の表示方法に様々なバリエーションを作ることを通して、水産物の鮮度の価値について信頼性の高いエビデンスを得ることを目指す。

人文科学

10

## 日本における「国際政治(学)」の誕生－「神川彦松日記」の基礎的研究

東京都立大学法学部

准教授 佐藤 信

神川彦松は、戦前・戦中には東京帝国大学の外交史担当者として学界・官界に影響力を持ち、戦後には公職追放に遭ったものの日本国際政治学会初代理事長や日本国際問題研究所初代所長を務め、『日本外交文書』の編纂にも携わるなど、日本における「国際政治(学)」や「シンクタンク」の始祖として知られる。

これまで著作以外の史料がほとんど知られていなかった神川であったが、本研究課題は新たに発見された膨大な日記をデジタル・アーカイブ化し、日本の外交史(学)、国際政治(学)、シンクタンク、日本外交文書編纂などの歴史を刷新するための研究基盤を構築する。また、とりわけ日本の国際政治学の外交史的淵源の解明を目指す。

人文科学

11

## 先史アンデス海岸地域におけるジャガイモ利用－歯石DNAと安定同位体を用いた農耕・漁労複合の検証－

山形大学人文社会科学部 日本学術振興会特別研究員

PD 荘司 一歩

先史アンデスの古期（5000-3000BC）は、海産資源を基盤とする定住化が進んだ時代といわれ、農耕を基盤とした定住化と対比して特有の文明形成段階の一つとみなされてきた。一方で、研究代表者が調査を続けるクルス・ベルデ遺跡では、海岸地域で最古例となるジャガイモをはじめ多様な栽培植物も確認されており、従来の文明形成過程の再考に向け、農耕・漁労複合のような生業活動の実態解明が求められている。本研究では、埋葬人骨の歯石に含まれるDNAの解析と人骨の安定同位体分析を通じて、漁労定住に果たした植物利用の役割を明らかにするとともに、高地に起源があるとされてきたジャガイモの導入過程を遺伝学的に検討する。

人文科学

12

## 仏教アパブランシャ語偈頌の基礎的研究

広島大学大学院人間社会科学部

教授 杉木 恒彦

アパブランシャ語で記された偈頌は、南アジア仏教の思想・実践史の全体像を理解するうえで無視できない要素である。だが、その研究は十分に進んでいるとは言えない。従来の研究はサンスクリット語（とそのチベット語訳）で記された資料に偏っているのである。本研究は、初期中世期インド亜大陸東部における仏教アパブランシャ語偈頌の基礎的研究として、以下の3つを行う。すなわち、(1) 仏教文献からアパブランシャ語偈頌を研究期間中（1年間）で可能な限り多く収集し、(2) 類似した偈頌と単語の相互参照ができる資料集を作成し、(3) 未刊行のいくつかのアパブランシャ語偈頌（『アビダーノータラ・タントラ』と『ヴァジュラダーカ・タントラ』）の予備的な校訂テキストと訳注（ドラフト）を作成する。



人文科学

13

## 人口減少社会における産業と文化によるアフターマティブアクション

東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科

教授 住友 文彦

人口減少社会における食糧生産に着目し、それを文化的な営みとして捉え直す試みです。具体的には、和歌山県田辺市でアートプロジェクトなどの芸術実践を通してみかんを中心とした柑橘類が広まった歴史、宗教、民俗の文化的特徴を伝えます。そして生態系、労働、市場などをめぐる倫理的な問いかけを地域住民や食糧生産者と共有し、互いの意見を交わす場を作り出す予定です。参加者が社会のなかで自分がどういう役割をもつのかを自覚し、自分と他者の関係を理解する経験を通してアフターマティブアクション（不平等の是正行動）につながっていく過程を詳細に記録することで、芸術実践がどのような役割を担っているかを考察します。

人文科学

14

## 7-10世紀アフロ西ユーラシア諸地域における世界認識の研究：新しい世界史像の構築にむけて

北海道教育大学教育学部旭川校

准教授 津田 拓郎

本研究は、西欧史家とビザンツ史家、初期イスラーム史家による共同研究により、7-10世紀アフロ西ユーラシア世界に関する従来の世界史像に新たな一石を投じることを目的とするものである。本研究が分析対象とする時代・地域については、グローバル・ヒストリー研究が手薄な状況が続いており、唯一活発に行われてきた流通経済史の描き出す「さまざまなネットワークで結びついた世界」というイメージは、むしろ旧来型の西欧中心主義の歴史像に結びついてしまっていたように思われる。そこで本研究では、当時のアフロ西ユーラシア世界各地における同時代人の主観的世界認識の分析を通じて、これまでとは大きく異なる世界史像の獲得を目指したい。

人文科学

15

## 蕉風復興運動における連句資料の調査と付合文芸の分析

金城学院大学人間科学部

教授 寺島 徹

本研究では、江戸中期から後期の蕉風復興運動に尽力した蕪村とその周辺俳人の資料収集・調査をもとに、おもに未紹介資料の翻刻ならびに本文校訂を行い、連句分野における芭蕉受容史の解明と連句メカニズムの効用について分析する。暁台、月溪、士朗などの蕪村、一茶をとりまく地方系蕉門俳人たちの連句の関係資料の収集・整理をもとに、とくに、暁台の東北行脚における相互連携的な作品創造の有り様を解明し、蕉風復興運動の特性の一面を明らかにする。基礎的な調査研究で得られる俳人たちの連携・対話の知見を門弟指導法の視座でも問い直すことで、文学教育で求められる「対話的」な学びの重要性についても論究する。

人文科学

16

## 現代西欧諸国における政治的急進化の比較歴史分析：公共サービスの市場化とそのインパクト

東京大学大学院法学政治学研究科

教授 中山 洋平

グローバル化によって市場原理が浸透し格差が拡大する中、西欧諸国では反移民の急進右翼政党に民衆階層の支持が集まるなど、急進化が顕著に見られる。従来の研究はこれを、低学歴の労働者層など「近代化の敗者」が「ポピュリズム」の台頭を支えた、などと説明しようとしたが、実証面で説得力を欠いていた。先行研究の問題は、急進化のうち反移民の「右翼ポピュリズム」だけに注目するなど、分析の対象が限定されていた点にあると考え、本研究は、①政治的急進化の原動力として、グローバル化の一環をなす公共サービスの市場化が齎す格差にも着目し、②急進左翼や反格差の社会運動も含めて政治的急進化の全体像を捉えることで、研究の隘路を突破しようとする。

人文科学

17

### コーカサス地方における初期人類展開の考古学的研究—アゼルバイジャン、アジフ洞窟出土資料を中心に

東京大学総合研究博物館

教授 西秋 良宏

我々ホモ・サピエンス（新人）の直接の祖先である初期現生人類は、20数万年前のアフリカで誕生した。ここ10年来の急速な遺伝学的研究の進展によれば、新人は、ネアンデルタール人ら旧人ときわめて近い存在であって交雑（混血）しあう間柄であったことが明らかになっている。すなわち、私たち新人のよってきたところの本質を理解するうえで、新人と旧人の共通祖先であったハイデルベルグ人（Homo heidelbergensis）とよばれる「原人」の理解がカギとなる。

本研究では、その化石人骨が石器や動物化石とともに重層的に発掘されたアゼルバイジャン、アジフ洞窟の資料を現地で解析し、彼らの行動様式の特徴やその年代的変遷を考古学的に再検討する。

人文科学

18

### 社会サービス供給における地域への移行(不)可能性に関する社会学的研究

東京大学大学院教育学研究科

教授 仁平 典宏

財政的制約により行政サービスを地域活動に委ねていく動きがあるが、それを可能とする担い手が各地域にどの程度いるかは明らかにされていない。本研究は、市区町村レベルのボランティアセンターや市民活動センターへの質問紙調査によるデータを人口動態・高齢化率・財政力指数・労働力率などの地域データとマッチングさせて、ボランティアセクターの脆弱性を地域要因から分析することを目的とする。行政の手の届きにくい分野にNPOなどが参加して、それを補完していくことが期待される一方、行政から地域への丸投げによる切り捨ても懸念されている状況で、地域の脆弱性の分布と要因を可視化させることで、リアルな政策論に資することを目指していきたい。

人文科学

19

### 日本列島北部における土器出現イベントと火山災害適応史の解明

東京大学大学院人文社会系研究科

准教授 根岸 洋

縄文時代は一般に、気候が温暖化した時代に1万年以上続き、「縄文土器」が生まれ定住化が進んだ時代として描かれることが多い。しかし日本列島最古の無文土器は、寒冷気候が続く更新世末期に東北北部で出現したことが判明しており、なぜ約1万6千年前に縄文を持たない土器が東北北部に出現したのか、それが後の「縄文土器」へと断絶なく続くのかどうかは未解明である。

そこで本研究では約1万5千年前の十和田火山噴火に着目し、厚い火山噴出物に覆われた青森県長久保遺跡を調査対象とする。土器出現期前後にどのような環境変動や文化変化があったのかを、低湿地遺跡でのボーリング調査や、火山灰・出土遺物の分析を通じて明らかにする。

人文科学

20

### 档案(文書)史料から読み解く明代中国の政策と法制との関係—特に明代後期の政策に及ぼした先例踏襲化の影響

弘前大学人文社会科学部

教授 荷見 守義

14世紀、ポストモンゴル国家群の一翼を占めた明朝における政策方針は、いかなる判断に依拠して形成されたのだろうか。従来から、明朝の律令や大誥など国家の基本をなす法典類の貧弱さと、それに代わる逐次的な条例蓄積の重要さが指摘されつつ、必ずしも法典及び条例と政策形成との関連性に関する研究は進展して来なかった。本研究では、明朝档案(文書類)と『皇明條法事類纂』所収の記録とを比較しつつ政策形成過程に解析を加えることで、法制史研究と政治制度史研究とをドッキングさせて、政策形成過程における条例蓄積による先例踏襲の実相について究明したい。このことで、今後の明朝政治史研究における新手法の確立を目指す。



人文科学

21

## 「手描き認知地図」のデータ基盤構築による世界・都市イメージの包括的理解に向けた研究

京都大学大学院文学研究科

准教授 埴淵 知哉

人々が世界や都市に対して抱く空間的イメージを認知地図という。認知地図は客観的な地図と一致しない。また人によって大きく異なる。それはなぜか、またどのようにズレているのか。こういった問いに答えるため、被験者に手描きの地図を作成してもらうことで、間接的に世界や都市のイメージを探る方法がとられる。しかし、限られた人口集団(例えば学生)ではなく、一般人口集団に対する包括的な実証研究は少ない。本研究では、インターネット社会調査を通じて多様な属性の個人から手描き地図を収集する。そして、そのデータ分析を通じて認知地図の規定要因を明らかにし、現代市民が抱く世界・都市イメージの包括的な理解を目指す。

人文科学

22

## 韓国における医療事故被害者救済と医療紛争解決の調査

立命館大学大学院法務研究科

教授 平野 哲郎

日本では医療事故の調査と医療紛争の解決を連携させるシステムは構築されていないが、韓国では政府機関である医療紛争調停仲裁院が医療紛争になった事案の調査と解決を担っており、医療安全と紛争解決の連携がなされている。韓国の制度の特徴は、事故の調査を行う「鑑定」と、鑑定の結果を受けた「調停」が一つの機関で行われることで、医師と法律家が協同するユニークなものとなっている。日本の医療事故調査において外部の法律家が入ることもあるし、また裁判外紛争解決において医師と法律家が協同して行うタイプのものもある。韓国の制度は日本にも親和的であり、両国の制度的・文化的・社会的背景を踏まえつつ、提言に結びつくような成果を得たい。

人文科学

23

## 近代民衆宗教における教団を越境するサークル活動に関する研究

東京工業大学リベラルアーツ研究教育院

特別研究員 藤井 麻央

本研究は、幕末維新期に生じた民衆宗教における教団を越境するサークル活動を明らかにし、民衆宗教の歴史的意味を再考することを目的とする。事例とするのは、大正期から昭和前期における「生の会」というサークルであり、金光教の高橋正雄を中心に、僧侶、キリスト者、一燈園の関係者等、多様な背景を持つ者が集い、雑誌刊行や集会の活動を行っていた。「生の会」における教団の枠を越えたネットワークの生起と展開の状況、および、集った者が相互に共感し合う思想的基盤等を史資料に基づき実証的に明らかにする。そして、民衆宗教という概念に含意されてきた自主性と創造性について、社会文化的文脈との交渉という視点から分析する。

人文科学

24

## アマゾン先住民族ワオラニ族の遺伝的多様性と細菌叢から見る生活と文化

東京薬科大学生命科学部

教授 細道 一善

エクアドルは豊かな人種の多様性と文化を持つ国であり、この多様性は複数の先住民族に加え、ヨーロッパやアフリカからの移民によって形成されてきた。このうち、アマゾンで生活する先住民族集団の一つであるワオラニ族については、これまでの文化と言語による研究からでは集団の先祖起源が明らかになっていない集団である。今もお原始的な生活を営むワオラニ族は現代のヒトを理解する上でも極めて貴重であり、人類の宝とも言える彼らの記録を後世に残していく必要がある。本研究ではワオラニ族のDNA情報による遺伝的多様性、口腔内および腸内細菌叢のマイクロバイオーーム解析から彼らの生活、文化、先祖起源を明らかにすることを旨とする。

人文科学

25

### 戦後日本における国鉄線と沿線地域に関する研究

奈良大学文学部

教授 三木 理史

本研究の課題は、近年全国的に注目の高まっている地域鉄道の存否について、その問題の発生した国鉄時代へ遡及し、第二次世界大戦後の国鉄と沿線地域の関係を、地方自治体の公文書活用から明らかにすることにある。鉄道と沿線地域の研究は、明らかに民鉄偏重で進行し、その主たる資料は旧運輸省を中心に編さんされた政府の公文書であった。しかし、政府直営に近い国鉄の永久保存文書の多くは国鉄改革期の混乱で行方不明となり、それらに期待することは難しい。そこで本研究では公文書管理制度の進展によって利用に供されるようになった都道府県庁を中心とした地方自治体文書を活用することで、特に戦後の国鉄と沿線地域の関係を解明する。

人文科学

26

### Q方法論を用いた公務員の公共倫理に関する探索的国際比較研究

東洋大学法学部

准教授 箕輪 允智

集合行為問題の解決行動をはじめ、人間の公共的行動は利害のみで説明することは難しく、個々人の公共倫理 (Public Ethics) を行動パターンの根幹として説明する研究は少なくない。しかしながら、それは本来個々人の内面に存在する非常に主観的なものであり、人間の主観性という視点からどのような公共倫理を捉えようとする研究かは日本では行われていない。本研究は「日本の公務員の公共倫理はどのようなものがあるのか」を問いとしてその実態に迫る。そのため本研究は心理学由来の手法で人間の主観性を総体的に明らかにすることを目的とするQ方法論を各種アクターの公共倫理観の実態を発見する方法として用い、問に迫るものである。

人文科学

27

### 後期更新世における黒ボク土層の生成と人間活動との関わりについての基礎的研究

静岡大学人文社会科学部

教授 山岡 拓也

近年、5万年前以降に地球上の様々な環境に進出したホモ・サピエンスの柔軟な適応能力に注目が集まり、自らの手で有利な環境を構築し得た可能性も提示されている。その実態の解明は、世界拡散初期のサピエンス研究の新たな課題となっている。本研究は、静岡県東部愛鷹山麓の後期旧石器時代前半期を対象として、考古学と土壌学を中心とする学際的な研究を展開することで、その課題に挑戦する。一般的にサピエンスは農耕の開始以降、大きく自然環境を改変するようになったと考えられているが、本研究では、世界への拡散初期 (4 ~ 3万年前) に、サピエンスがすでに自然環境を改変する能力を持っていたという手がかりを得ようとしている。

人文科学

28

### 市場社会の新たな比較史にむけて：Public-Private Partnershipの歴史的経路依存性を手がかりに

東京大学大学院経済学研究科

准教授 山本 浩司

市場経済の便益を最大化する公私両セクターの最適な協働関係の構築は、経済発展のための重要な課題である。本研究は、近代英国国内産業におけるこの協働関係が、メディア産業や市民社会の介入などによって最適化され、やがて産業革命につながる経済成長を可能にしたという先行研究を踏まえつつ、公私協働関係の経路依存性を比較史的に分析しようとする。政府と経済界の協働の地域差と時代差、公私両セクターの協働関係の介入に関わるステークホルダーとそのプライオリティ、ステークホルダー間の権力関係と関連する社会資本、ステークホルダー間に生ずる信頼と不信の諸契機などを総合的に考察する本研究は、経済発展の動的要因を内在的に比較するための、有効な視座を提供するものとなるだろう。



人文科学

29

両立支援策をめぐるパラドクス  
-雇用者・企業レベルのパネルデータを用いた「マミートラック」の実証研究

国立社会保障・人口問題研究所人口動向研究部

研究員 吉田 航

多くの日本企業が、仕事と子育ての両立を支援する施策の整備を進め、子どもをもつ女性の就業継続に一定の役割を果たしてきた。その一方で、両立支援策を利用することで、昇進に必要な訓練や業務を経験できなくなり、管理職への昇進から排除される、いわゆる「マミートラック」の問題が指摘されている。この問題は、日本社会に特徴的な現象だと考えられるが、既存研究の多くが定性的な検討にとどまっていた。本研究は、被雇用者および企業レベルのパネルデータを利用して、両立支援策の利用がマミートラックへの移動を促しているか、支援策の整備がいかなるメカニズムでマミートラックの制度化を促しているかを、管理職への昇進機会に着目して分析する。

# 第54回（2023年度）三菱財団社会福祉事業・研究助成先一覧

番号	所在地	名称	使 途	金 額
1	佐賀県	認定特定非営利活動法人 日本IDDMネットワーク 理事長 井上 龍夫	1型糖尿病の高齢患者を “サポート”～独居の高齢糖尿病患者健康支 援サービス～	4,200,000円
2	長野県	一般社団法人生活互助支援の会 代表理事 美齊津 康弘	地域の助け合い創出と高齢者の生活 課題解決を目指すマッチングシス テム「えんじよるの」のシステム改修 事業	5,600,000円
3	京都府	公益社団法人京都市身体障害者団体連合会 会長 伊吹 文明	2023ほほえみ広場“つなごう” ～過去から未来、人と人、社会と障害者～	1,100,000円
4	東京都	東京大学大学院情報理工学系研究科 教授 入江 英嗣	センサ処理と音響・触覚通知による 視覚障害者屋内ナビゲーションシス テムのスマートグラス実装と社会実験	3,800,000円
5	東京都	国立病院機構村山医療センター臨床研究部 部長 植村 修	jSCIM-SRを用いた、脊髄損傷者の 自宅退院後の日常生活動作能力の評価	1,250,000円
6	徳島県	徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准教授 榎本 崇宏	嚥下障害者のリハビリテーションの ための嚥下音に基づく低コスト・モ バイル・バイオフィードバックシス テムの開発	2,600,000円
7	愛知県	日本福祉大学社会福祉学部 教授 大谷 京子	精神障害者に対する専門職による マイクロアグレッション防止：当事者団 体との共同研究	1,200,000円
8	東京都	特定非営利活動法人チャイボラ 代表理事 大山 遥	社会的養護施設の求人プラット フォーム（チャボナビ）大規模改修 による施設職員の確保促進	3,900,000円
9	東京都	特定非営利活動法人境を越えて 理事長 岡部 宏生	重度訪問介護資格を活用した学生 介助者の育成と継続の仕組み作り	2,500,000円
10	東京都	日本障害者虐待防止学会 理事長 小山 聡子	障害者福祉施設従事者等による障害 者虐待が起きた際の対応及び救済措 置等に関する調査研究	1,300,000円
11	神奈川県	特定非営利活動法人ステラポラリス 理事長 壁田 英一	アディクション当事者が回復支援施 設を自ら立ち上げ運営するためのシ ステム構築に向けた調査研究事業	2,500,000円
12	東京都	一般社団法人発達障害専門センター 代表理事 神尾 陽子	自閉スペクトラム症児の早期療育の 効果を親はどう捉えているか： ニューロダイバーシティの観点から の再考	2,200,000円
13	兵庫県	芸術文化観光専門職大学 短期間嘱託（特任研究員） 久保 雅義	旅行困難者が本当に海や山に旅行で きるの？を実現するユニバーサル ツーリズム支援機器・システムの研 究開発	4,000,000円
14	岩手県	岩手県立大学総合政策学部 教授 倉原 宗孝	在宅看取りの増加に備え地域ケア システムを補完する『終末期ケアと看 取りの生協』モデルの構築	2,100,000円
15	東京都	一般財団法人在宅がん療養財団 代表理事 児玉 龍彦	在宅でのがん療養に寄り添うFAQ 情報サイト「在宅がんウィット」の 開発・運営・普及	4,300,000円



番号	所在地	名称	使 途	金 額
16	岩手県	一般社団法人トナリノ 代表理事 佐々木 信秋	「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化」を実現する住民参加型のスマートフォン出張講座	2,800,000円
17	北海道	札幌溪仁会リハビリテーション病院 リハビリテーション部 部長 佐藤 義文	車いす自走（片手駆動）用キャスト補助デバイス「ストレッチバンド」の効果検証	600,000円
18	東京都	特定非営利活動法人glolab 代表理事 柴山 智帆	COLORFUL～外国にルーツを持つ高校生のための未来を創造する進路支援プログラム～	1,700,000円
19	東京都	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 室長 関口 敦	良画で悪画を駆逐する～摂食障害の正しい知識の啓発および予防・支援に資する動画の作成・普及活動～	5,000,000円
20	東京都	大妻女子大学人間関係学部 共生社会文化研究所 特別研究員 多賀 努	認知症当事者の実存的不安を共感的に理解するための疑似体験プログラムの開発	2,900,000円
21	東京都	公益財団法人日本ダウン症協会 代表理事 玉井 浩	第4回日本ダウン症会議の開催	1,900,000円
22	佐賀県	一般社団法人 ヘルスサポーターズイノベーション 代表理事 寺野 幸子	多職種連携で多様な悩みをカバーする「ポケット保健室」～学生向けブレコンセプションケアプラットフォーム開発	2,300,000円
23	東京都	一般社団法人ハビリスジャパン 理事長 長野 洋	スライドリコーダーの製品化と障害のある児童への適応評価、有用性の実証と普及支援活動	5,700,000円
24	大阪府	NPO法人CoCoTELI 理事長 平井 登威	精神疾患の親をもつ子どもへの長期的つながりを通じたオンライン支援の構築	2,700,000円
25	千葉県	ネット心理教育ピアサポート 理事長 藤田 剛	インターネットを用いた双極性障害を対象とした集団心理教育の実践と研究	750,000円
26	千葉県	特定非営利活動法人 ちば救命・AED普及研究会 理事長 本間 洋輔	障害者（身体・視覚・聴覚）への一次救命処置教育支援プロジェクト	2,500,000円
27	北海道	社会福祉法人浦河べてるの家 理事長 向谷地 生良	フリーストライを活用した農業・福祉連携モデル構築事業	7,200,000円
28	千葉県	川村学園女子大学文学部 専任講師 森島 遼	COVID-19感染拡大下における思春期の援助希求行動の長期変化と促進/抑制因子の検証	3,600,000円
29	東京都	一般社団法人精神障害当事者会ポルケ 代表理事 山田 悠平	精神障害のある者の個別避難計画作成を補完する支援ツールの開発	3,800,000円
30	兵庫県	神戸大学大学院医学研究科 助教 山野 希	生涯遮光が必須な色素性乾皮症患者の自立と共生を支えるウェアラブル高精度紫外線分光光度計の開発	1,300,000円
31	千葉県	千葉大学大学院工学研究院 助教 湯浅 かさね	ポストコロナ時代における高齢者施設の都市型農園を介した多主体交流創出に関する研究	1,100,000円

番号	所在地	名称	使 途	金 額
32	東京都	一般社団法人日本難病・疾病団体協議会 代表理事 吉川 祐一 よしかわ ゆういち	JPA（日本難病・疾病団体協議会） 新規サイトの構築 ①JPAみんなの まち（仮称）②希少疾患交流情報サ イト	5,200,000円
33	茨城県	筑波大学医学医療系 准教授 浦水 理恵 わきみず りえ	障害児者をケアする家族のエンパワ メントを促進するリモートケアシス テムの構築と検証	6,400,000円
合 計			33件	100,000,000円

(所属先・職名については2023年9月11日現在)



社会福祉

1

### 1 型糖尿病の高齢患者を“サポーター”～独居の高齢糖尿病患者健康支援サービス～

認定特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク  
理事長 井上 龍夫

1型糖尿病は不治の病であり、患者は毎日4回以上、注射等でのインスリン補充による血糖コントロールが必要不可欠である。

全国に約12万人いる患者は、治療法の進歩等により高齢化が進む中で、孤立、治療への不安、訪問看護頻度の不足、施設入居拒否、筋力低下などの課題に直面している。

この課題解決のため、研修を受けたスタッフ（主として1型糖尿病患者・家族）を「いちがたサポーター」として養成し、患者の家族からの依頼等により高齢患者の自宅を定期的に訪問またはオンラインにて面談し、何気ない話や体操、散歩等のサポートを行い、健康寿命を延ばすことを目指す。

当事者自らが課題解決を図る「共助」社会の構築である。

社会福祉

2

### 地域の助け合い創出と高齢者の生活課題解決を目指すマッチングシステム「えんじょの」のシステム改修事業

一般社団法人生活互助支援の会  
代表理事 美齊津 康弘

超高齢化社会の日本において、高齢者の生活を支えるための社会保障費は膨らみ続けるとともに、地域の人同士のつながりは益々希薄になってきている。本事業では、この問題を解決するために、「高齢者の生活課題の解決」と「地域の助け合いの創出」と「社会保障費の抑制」の3つの課題を同時に解決できる弊社独自のシステム「買い物ボランティアマッチングサービスえんじょの」に8つのメニューを加えて多機能化するシステム改修を行う。そして改修したシステムを全国の社会福祉協議会に広げることで、超高齢化社会を乗り切るために必要な、地域包括ケアシステムの土台となる「助け合いによる生活支援体制」を全国各地に築くことを目指す。

社会福祉

3

### 2023ほほえみ広場“つなごう”～過去から未来、人と人、社会と障害者～

公益社団法人京都市身体障害者団体連合会  
会長 伊吹 文明

障害のある方と障害のない方との交流や障害者相互の交流を行い、障害に対する理解、或いは自分とは違う障害への理解を深め、互いを尊重し、障害者の社会参加を推進することにより誰もが安心して地域で共に暮らせる社会（共生社会）の実現に向け、「2023ほほえみ広場」を開催する。

障害者スポーツや手話・点字体験、障害者グループ等によるパフォーマンス、障害者施設等による授産製品の販売やバザーを実施し、来場者とのコミュニケーションを通じて、障害を身近に感じてもらい「障害者のことを知らないから関わりを持たない」を「少し知っている」に変えることが初めの一歩となり、これを継続していくことにより共生社会の実現を目指す。

社会福祉

4

### センサ処理と音響・触覚通知による視覚障害者屋内ナビゲーションシステムのスマートグラス実装と社会実験

東京大学大学院情報理工学系研究科  
教授 入江 英嗣

本研究では、高性能ウェアラブルコンピュータ、最新の画像解析アルゴリズム、そして柔軟なUI技術の融合による、視覚障害者の歩行支援システムを開発する。これまで開発してきた、VSLAM（カメラ情報を用いて自己位置推定と環境地図作成を同時に行う技術）と直観的な触覚提示を用いる屋内ナビゲーション技術を基盤とし、これを社会に還元する。具体的には、実際の宿泊施設との連携による社会実験を実施し、スマートグラス上での実装を通じて装着感の向上を目指す。既存の大学サイト、当事者、支援者との連携体制を維持しつつ、受け入れやすい技術の実用化を追求する。

社会福祉

5

## jSCIM-SRを用いた、脊髄損傷者の 自宅退院後の日常生活動作能力の評価

国立病院機構村山医療センター臨床研究部

部長 植村 修

多くの場合、脊髄損傷（脊損）では麻痺などの後遺症が生涯にわたり残存する。しかし、麻痺がありながらも新しい生活様式を獲得し、日常生活を送ることは可能である。

脊損の日常生活動作（ADL）はSCIMで評価するが、SCIMは医療者の観察により採点するため、自宅退院後のADLを評価することは困難であった。そこで、申請者らは自己評価式のSCIMであるjSCIM-SRを開発した。これにより在宅脊損者のADLを客観的に評価できるようになった。

今回の研究では、自宅退院した脊損者のADLを入院中のそれと比較することで、退院後に変化するADL項目を明らかにし、在宅で必要となるリハビリテーションを明らかにする予定である。

社会福祉

6

## 嚥下障害者のリハビリテーションの ための嚥下音に基づく低コスト・ モバイル・バイオフィードバックシ ステムの開発

徳島大学大学院社会産業理工学研究部

准教授 榎本 崇宏

社会の高齢化に伴い、今後も摂食嚥下障害患者が増加していくことが予想されている。近年、摂食嚥下リハビリテーションの手法として、表面筋電図データを視覚バイオフィードバックとして用いる療法の注目されているが、実用性に欠け、十分に普及していない。そこで本研究では、嚥下音に基づく、新たな低コスト・モバイル・バイオフィードバックシステムの開発を行うことを目的とする。この目的のために、医歯工連携を通じて嚥下時の筋活動に関する情報を強く反映した嚥下音の音響特徴について調査を行う。本システムの開発により、皮膚処理などの前処理を必要としないシングルセンサを利用することができ、実用性の向上が期待される。

社会福祉

7

## 精神障害者に対する専門職による マイクロアグレッション防止：当事者 団体との共同研究

日本福祉大学社会福祉学部

教授 大谷 京子

精神障害当事者団体と研究者の共同創造に基づき、精神障害者に対するマイクロアグレッション（明白な差別や虐待行為といえない程度の些細な、日常にある特定の人や集団に対する軽視、侮辱的な表現で、明白な差別より大きな悪影響を与えるとされる）を防止するために2つのアプローチを試みる。

①精神障害者に関わる専門職を対象にした、マイクロアグレッションを防止する実践ガイドライン作成。そのために、当事者同士の相互作用によって想起を促すワークショップを活用する。

②スーパーバイザーが活用する手引き作成。現任ソーシャルワーカーの実践能力向上に欠かせないスーパービジョンに、マイクロアグレッションの視点を導入する。

社会福祉

8

## 社会的養護施設の求人プラット フォーム(チャボナビ)大規模改修 による施設職員の確保促進

特定非営利活動法人チャイボラ

代表理事 大山 遼

当団体は、社会的養護の職員不足という課題に注目し、施設職員の確保と定着を支援する日本で唯一の団体である。「子どもたち一人ひとりが大切に育てられる世の中」を目指して、効果的な採用・定着ができる仕組みを日本で構築する。社会的養護の全ての子どもが温かい環境で育ち、身近な大人と愛着関係を結び自己肯定感や他者への愛情を持つとともに、経済的自立・精神的自立に向けた適切で十分な支援を受けて安心して巣立つことができる社会を実現する。今回の事業では、基幹事業である採用プラットフォームのシステム改修により、特にシステム管理・運用面での機能改善を行うことで、より本質的な取組みに注力できるようにしたい。



社会福祉

9

### 重度訪問介護資格を活用した学生 介助者の育成と継続の仕組み作り

特定非営利活動法人境を越えて

理事長 岡部 宏生

重度障害当事者にとって介助者不足は、生きることに直結する課題である。国は障害当事者の地域移行、それを支える制度（重度訪問介護）を作ったが担い手は十分とはいえない。本事業は、学生時代に重度訪問介護資格を取得し、アルバイトとして当事者を支える学生介助者の育成と継続の仕組みづくりを目指す。現役の学生介助者（元学生介助者ら含む）と学生を活用している当事者らが共に考え学生介助者育成の課題とその解決策を立案する。学生介助者自ら学生介助者を増やしフォローできるしくみづくり、学生介助者を活用している当事者、活用したいと思っている当事者のエンパワーメント向上、重度訪問介護資格の社会的認知度の向上が期待できる。

社会福祉

10

### 障害者福祉施設従事者等による 障害者虐待が起きた際の対応及び救済 措置等に関する調査研究

日本障害者虐待防止学会

理事長 小山 聡子

障害者福祉施設従事者等による障害者虐待において、被虐待者がどのように救済され、事業所等がどのように再発防止に取り組み、組織的な立て直しを行なったのかという情報は、ほとんど公表されていない。本調査研究では、報道された障害者福祉施設従事者等による障害者虐待について、被虐待者に対する救済や、施設や事業所がどのように虐待に対する責任を果たし、その後の再発防止に取り組み、組織的な立て直しを行なったのかを調査し、評価できる点や不足する点について検討し、報告書に取りまとめる。また成果物を障害当事者や家族、事業所等に情報提供することを通じて、虐待が起きた後のあるべき対応について普及啓発することを目的とする。

社会福祉

11

### アディクション当事者が回復支援施設 を自ら立ち上げ運営するための システム構築に向けた調査研究事業

特定非営利活動法人ステラボラリス

理事長 壁田 英一

アディクションが社会的な課題として認識されるようになってきたが、現状ではまだまだ理解が進んでいない。3大依存症であるアルコール・薬物・ギャンブルの回復支援施設数は、横浜市の調査によると全国でわずか60施設程度である。本調査研究では、全国の回復支援施設や関係機関に対して調査を行い、アディクション支援の実態を明らかにする。さらに、アディクション当事者が自らの手で回復支援施設を立ち上げ、運営するためのシステムの構築を目指す。フォーラムを開催し、全国の回復支援施設のネットワークを構築し、当事者自らが回復の場を創り出すセルフヘルプの取り組みを全国レベルで進めていきたい。

社会福祉

12

### 自閉スペクトラム症児の早期療育の 効果を親はどう捉えているか： ニューロダイバーシティの観点から の再考

一般社団法人発達障害専門センター

代表理事 神尾 陽子

自閉スペクトラム症（ASD）は、生涯を通して社会生活に影響を及ぼす発達障害であるが、未だ病因は解明されておらず、早期診断とそれに続く療育が唯一のエビデンスのある治療である。ASDの症状や経過には個人差が大きく、一括りに療育と言っても何をターゲットとしてどこをゴールとするかは人それぞれである。多様性を尊重したASD療育の実施には、多様なニーズを反映しうるアウトカム指標の開発が求められている。本研究は、ASD児の親や専門家へのグループインタビュー、そして成人ASD当事者のインタビューを通して、親や当事者の視点を取り入れたアウトカム指標の開発を目指すものである。ASD児者のウェルビーイングの実現につなげることを目指す。

社会福祉

13

### 旅行困難者が本当に海や山に旅行できるの?を実現するユニバーサルツーリズム支援機器・システムの研究開発

芸術文化観光専門職大学

短期間嘱託(特任研究員) 久保 雅義

旅行困難者が本当に海や山に旅行できるの?を実現するユニバーサルツーリズム(UT)支援機器とシステムを研究開発する。多様な症例を抱えた障害者・高齢者に寄り添って、海遊びやトレッキングなど日本の地勢に相応しい観光に対応する支援機器を開発研究する。理学療法・作業療法、リハビリテーション工学の専門家、UT/NPOのコンシェルジュなどの“知”を統合し、フィールド検証を重ね、廉価で多様な利用者を想定した展開のある機器・システムをデザイン思考のプロセスを通して推進する。今回は、UT車椅子をテーマとして取り上げ日本海海岸、但馬地区高原にての使用に耐えられる性能を検証する。

社会福祉

14

### 在宅看取りの増加に備え地域ケアシステムを補完する『終末期ケアと看取りの生協』モデルの構築

岩手県立大学総合政策学部

教授 倉原 宗孝

多死社会にある今日「死に場所や看取り」を考える時、市民ニーズに添うために(自分たちのために)市民参加によって(自分たちの手で)できるサービスへの期待がある。また貨幣のみでは手に入らない新しい豊かさともいべき「自らの死の環境」を「自らの意思と労力で確保・維持する努力」が必要ではないか。その為にここでは現在活用できる制度として「消費生活組合(生協)」に着目する。本事業・研究では、哲学カフェワークショップ等各調査、豊かさとしての死の環境づくりの議論・活動を促すメディア活用、「多摩ニュータウンでの看取りハウス設置・運営」などを通して、市民参加型介護・看取りモデルとしての「看取り生協」設立を目指す。

社会福祉

15

### 在宅でのがん療養に寄り添うFAQ情報サイト「在宅がんウィット」の開発・運営・普及

一般財団法人在宅がん療養財団

代表理事 児玉 龍彦

高齢化とともにがんを患う人、がんで亡くなる人の数は増え、自宅療養する方が増えている。一方、ウェブ上のがんの情報は多々あるが、宣伝のようなものも多く何を信じてよいかわからない。がんと診断された時、再発や転移と言われた時、治療の手がないと言われた時、などさまざまな難しい場面に、寄り添って役立つ情報を提供するサービス「在宅がんウィット」を始めた。よくある質問に各分野の専門家が信頼できる回答をウェブにQA形式で掲載し、毎日千名以上のアクセスを得るようになった。項目数を増やし、2年ごとに改訂し、さらに発展させたいと願っている。

社会福祉

16

### 「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化」を実現する住民参加型のスマートフォン出張講座

一般社団法人トナリノ

代表理事 佐々木 信秋

当該事業は「高齢者のデジタルリテラシーの向上」を通じた「過疎地域のデジタル化による多様な問題解決」に寄与することを目的とした(1)スマートフォン出張講座の開催(2)支援員の募集～育成～派遣、の2つの取り組みを行う。(1)は高齢者向けのスマートフォン出張講座を各地域と連携をしながら企画及び実施をする。(2)は前述の講座に派遣される支援員について募集～育成～派遣を行うが、支援員の想定対象者を「生活上の困難を抱えるひと(障がい、やひきこもり等)」も重点的な対象とする。これらについて既にモデル地域で行っている内容を、展開地域(岩手県宮古市、岩泉町、田野畑村、山田町)へと展開する実証事業として扱う。



社会福祉

17

車いす自走(片手駆動)用  
キャスター補助デバイス  
「ストレッチバンド」の効果検証

札幌漢仁会リハビリテーション病院リハビリテーション部

部長 佐藤 義文

車いすは介助用、自走用、自力駆動や電動アシスト、電動など、様々な種類がある。障がい児、認知症など、電動は使えないが一般車いすはうまく漕げない事例などへの新たな車いす駆動の選択肢として「ストレッチバンド」を考案した。このデバイスは既存の車いすに後付け出来、介護保険下でレンタル利用している車いすにも使用可能である。「ストレッチバンド」がどのような事例で使えるのか、多数事例を通して検証する。また、障がいがあってもQuality Of Lifeの維持向上の一方法となる事を実証したい。

より有用な「ストレッチバンド」の使用法やガイドラインが作成でき、専門職でなくても簡便に使用可能になる事も期待される。

社会福祉

18

COLORFUL～外国にルーツを持つ高校生  
のための未来を創造する進路支援  
プログラム～

特定非営利活動法人gloLab

代表理事 柴山 智帆

近年、外国にルーツを持つ児童生徒は増加傾向にあるが、高校中退率や高卒後の非正規就労率の高さなど高校卒業後の進路の課題が明るみになっている。一方で、高校入学後の進路支援については、これまでほとんど実施されてこなかった。本プログラムでは、キャリア開発の視点から、外国にルーツを持つ高校生が、主体的に進路選択ができるよう3つのキャリアプログラム(①自己理解②仕事理解③未来プランニング)を開発し、高等学校や支援団体と連携のもと実施する。またプログラムには企業にも参加してもらい、外国にルーツを持つ若者の潜在能力の理解を促すことで、彼ら彼女らが活躍できる機会を増やすことも目指していく。

社会福祉

19

良画で悪画を駆逐する～摂食障害の  
正しい知識の啓発および予防・支援  
に資する動画の作成・普及活動～

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所

室長 関口 敦

摂食障害は若年女性に多く、SNS上の動画には症状の発症や増悪につながる「悪画」と、疾患の予防・支援を目的とした「良画」が存在します。「悪画」は摂食障害の症状を悪化させる可能性があり、発症のきっかけになるものとして警戒が必要です。対照的に「良画」は、本プロジェクトを通じて我々が制作するもので、正しい摂食障害の知識を啓発し、予防・支援を促進する内容となっています。我々のチームは、「悪画」を特定し、プラットフォーム業者と協力して削除する取り組みを推進します。一方で、「良画」を制作・普及させ、その効果の検証も実施します。この活動を通じて、摂食障害に関する正確な知識と予防・支援の重要性を伝えていきます。

社会福祉

20

認知症当事者の実存的不安を共感的  
に理解するための疑似体験  
プログラムの開発

大妻女子大学人間関係学部  
共生社会文化研究所

特別研究員 多賀 努

本研究の目的は、認知症の家族介護者・専門職・一般の人々が、認知症当事者が日常生活場面で経験する不安を疑似体験し、その状況を脅威と感じる認知症当事者の不安を共感的に理解するプログラム(案)をつくって、認知症当事者の行動・心理症状(BPSD)の理解を、知識主体(他人事としての理解)から共感主体(自分事としての理解)へ変革することにある。認知症当事者の体験する根源的な不安の理解を促進し、援助者が認知症当事者の安心・安全を脅かさない存在になることによって、認知症当事者の行動・心理症状および孤立感を低減し、もってパターンリズムに陥らないDementia Friendly Community(認知症にやさしい地域)の実現を目指す。

社会福祉

21

## 第4回日本ダウン症会議の開催

公益財団法人日本ダウン症協会

代表理事 玉井 浩

第4回日本ダウン症会議を第5回日本ダウン症学会学術集会との合同集会として、関西で初めて開催する。医療、療育、教育、福祉関係者、家族・当事者、研究者に参加を呼びかけ、医療面からの講演、就労支援につながる教育関係者による講演、就労に関する講演、知的障害者の性教育関連の講演、さらにダウン症のある本人の発表、市民公開講座など、家族会と当事者、そして専門家による新しい形の学術集会を開催する。

テーマを「く街に出よう ～人・社会との絆を求めて～」とした。この会議の成果を通じて、分断された教育や社会構造に変革をもたらす、様々な絆が生まれ、理解し合えるインクルージョン社会の実現を目指す。

社会福祉

22

## 多職種連携で多様な悩みをカバーする「ポケット保健室」-学生向けプレコンセプションケアプラットフォーム開発

一般社団法人ヘルスサポーターズイノベーション

代表理事 寺野 幸子

若い世代への性や健康の教育（プレコンセプションケア）には、自らが思い描く人生をイキイキと歩いていける力を育む視点が重要であり、そのためには性、生殖、健康、ライフデザイン等の多領域が連携して取り組むことが効果的であると考えます。

そこで、本事業では当事者である若者を巻き込み、多角的な視点で制作したeラーニング教材と、専門家にチャットで相談できるサービスを実装したプラットフォームを開発する。これを、これからの時代に求められるプレコンセプションケアの一つのモデルとして検証し、将来的に健康的な妊娠・出産、社会資源や医療の適切な活用、ひいては健康寿命の延伸につながるサービスの実現を目指す。

社会福祉

23

## スライドリコーダーの製品化と障害のある児童への適応評価、有用性の実証と普及支援活動

一般社団法人ハビリスジャパン

理事長 長野 洋

日本の義務教育課程の音楽では、小学校3年生から6年生までリコーダー演奏が組まれている。通常のリコーダーは運指が非常に複雑で高い巧緻性と理解能力を求める。このため手指になんらかの障害のある子どもは使用困難があるために、音楽嫌いや学習困難を生じていることがある。こうした障害児に適したスライドリコーダーがすでに開発されているが、1本ずつ手作りであり普及に至っていない。

本事業では、障害のある子どもが演奏しやすいスライドリコーダーの普及を目指して、その製品化を行い、さらに体験会・講習会の開催を通じて、スライドリコーダーの有効性を示すと同時に、対象となる障害児が利用できる環境の実現を目指すものである。

社会福祉

24

## 精神疾患の親をもつ子どもへの長期的つながりを通じたオンライン支援の構築

NPO法人CoCoTELI

理事長 平井 登威

子ども全体の15～23%いると言われている、精神疾患の親をもつ子どもたち。他の子どもと比べ自身の罹患率が2.5倍高いというデータがあるようにメンタルヘルスへの影響は大きい。しかし、彼ら・彼女らを支える社会資源が脆弱であるため、社会から「見えない存在」となり、結果として貧困や虐待、ヤングケアラーなどの二次的な困難に繋がっている。

狭間とも言えない空白の領域である現状を打破すべく、私たちは精神疾患の親をもつ子ども・若者支援の土壌をつくる1stステップとして、地域を超えたオンラインの居場所・支援のプラットフォームを構築し、精神疾患のある本人もその家族も生きやすい社会の実現を目指す。



社会福祉

25

インターネットを用いた双極性障害を対象とした集団心理教育の実践と研究

ネット心理教育ピアサポート

理事長 藤田 剛

双極症の経過では、激しい気分の高まりである躁状態や、生きているのが辛いほどの気分の落ち込みであるうつ状態を生涯に渡って繰り返す。

双極症の治療では従来薬物療法が主体であったが、近年これに加えて心理教育の有効性が明らかになってきた。

しかし医療機関が心理教育を行う負担は大きく、心理教育を実施している医療機関は現在のところ少ないのが現状である。また心理教育で用いる良質なコンテンツも未だ確立していない。

我々は、上記課題を解決する一つの手段としてインターネットの活用があると考え、実証研究に取り組む。本研究は、インターネットで行われる心理教育プログラムを短縮化した場合の効果を明らかにするものである。

社会福祉

26

障害者(身体・視覚・聴覚)への一次救命処置教育支援プロジェクト

特定非営利活動法人ちば救命・AED普及研究会

理事長 本間 洋輔

日本での病院外で市民が目撃した心原性心肺機能停止傷病者数は26,500人にのぼる。第一発見者による一次救命処置は救命率を約4倍に向上させる。身体、視覚、聴覚等に障害がある方々にとっても、第一発見者となり一次救命処置を実施する可能性は否定できない。しかし、障害を理由に一次救命処置教育を受講できない現状も少なからず存在する。

そこで、障害者の一次救命処置教育に関する現状調査と障害に合わせた一次救命処置普及のための動画、VR教材、リーフレットの開発と普及と講習会開催を目指す。それにより、病院外での救命率向上、障害者の自己肯定感向上への一助となり、インクルーシブな社会実現につながることを期待できる。

社会福祉

27

フリーズドライを活用した農業・福祉連携モデル構築事業

社会福祉法人浦河べてるの家

理事長 向谷地 生良

浦河べてるの家は、北海道浦河町にある精神障害者等の生活・働く・ケアの3つの性格を有した地域活動拠点です。100名以上のメンバーが地域で暮らしています。

べてるで生み出された自分助けのプログラム「当事者研究」は、今では精神障害の分野を超えて世界的な広がりを見せています。

本事業は、浦河特産の夏イチゴの規格外品を農家と共にフリーズドライ製法で加工して常温長期保存を可能にし、鮮度保持や保管輸送コストなどの課題を解決。新たな仕事を生み出し工賃アップを図るとともに、農家の経営安定の一助にも資する計画です。

当事者が地域貢献する農福連携の一例となれるよう地域の関係者との新たな連携を目指します。

社会福祉

28

COVID-19感染拡大下における思春期の援助希求行動の長期変化と促進/抑制因子の検証

川村学園女子大学文学部

専任講師 森島 遼

COVID-19感染拡大下における思春期の精神的健康の問題や自殺率の増加に関するエビデンスが集積されている。他方、思春期の困難に陥った時に助けを求める行動（援助希求行動）の長期変化に関する研究は存在しない。本研究は、一般の中学校・高等学校と連携した毎年継続の大規模疫学調査と厚生労働省が実施している出生コホート調査のデータを相補的に用いて、COVID-19感染拡大下における①思春期の援助希求行動の長期変化に関する実態把握、②援助希求行動の促進及び抑制に関連する因子を明らかにすることが目的である。これらにより、思春期の精神的健康への支援に関する学術的議論の発展と支援体制作りに関する提言につなげる。

社会福祉

29

### 精神障害のある者の個別避難計画 作成を補完する支援ツールの開発

一般社団法人精神障害当事者会ポルケ

代表理事 山田 悠平

令和4年の内閣府の報道資料によると、個別避難計画の作成に福祉専門職が参画している市町村の割合は20%に過ぎず、精神障害のある人が安心して受けられる防災支援に課題がある。本事業は、これまでに国立精神・神経医療研究センターと協働実施をした被災地でのインタビュー調査などを踏まえて、精神障害のある人と支援者との協働に基づく個別避難計画作成の支援ツールとなるブックレットの制作を行う研究プロジェクトである。

開発途中では都市部と地方部でのテストも実施予定。当事者視点を活かした防災・減災に対する動機づけを高め、精神障害があるがゆえに起きる被災時の課題や心理的安全などを考慮した実効性ある取り組みを目指す。

社会福祉

30

### 生涯遮光が必須な色素性乾皮症患者 の自立と共生を支えるウェアラブル 高精度紫外線分光光度計の開発

神戸大学大学院医学研究科

助教 山野 希

色素性乾皮症（XP）は紫外線曝露によるDNA損傷の修復機能が欠損した遺伝性疾患であり、不適切な遮光環境下では10代までに露光部に皮膚癌が多発するため、厳密な遮光が生涯必須である。そのため紫外線曝露量計測に高いニーズがあるが、XP患者の使用可能な精度で評価可能な計測機器は市販品・研究機器を問わず存在しない。確かな指標のない中、遮光に対し周囲の理解を得、社会参加を目指すことは難しく、通学や就労を断念せざるを得ない例も多い。本研究は、生涯遮光が必須なXP患者が使用可能な高精度紫外線計測機器の開発を目指し、これまで困難であった、遮光に留意した生活を送る人々の紫外線曝露状況を把握できるようにしたい。

社会福祉

31

### ポストコロナ時代における高齢者施設 の都市型農園を介した多主体交流 創出に関する研究

千葉大学大学院工学研究院

助教 湯浅 かさね

本研究は、コロナ禍による高齢者施設と家族・地域の分断という背景により生じた、新たな交流の場と方法の検討の必要性を踏まえたものである。感染症リスク低減と交流を両立する場として高齢者施設に都市型農園を設け、ポストコロナ時代の新たな社会との接点として有効な活動空間・内容・体制のアクションリサーチによる検討、検証及び実装を目的としている。

研究対象地は申請者らが2022年に都内の高齢者施設に設置した都市型農園である。主に入所者の屋外活動や家族面会の場として既に活用が始まっており、現在進行形の社会的課題に対し実際のアクションを伴う形で研究を行うことでより時宜に即した知見を得るという意義を持つと考える。

社会福祉

32

### JPA(日本難病・疾病団体協議会) 新規サイトの構築 ①JPAみんなの まち(仮称)②希少疾患交流情報 サイト

一般社団法人日本難病・疾病団体協議会

代表理事 吉川 祐一

難病等の患者さんへの情報提供や発信の支援。希少性の高い患者会や患者さんの発信支援。これらの課題に対処するため、JPAでは新たに2つのサイトを構築します。

① JPAみんなのまち<ふらっと> <https://jpaflat.jp/>  
難病等の患者・家族に正しく適切な情報を提供し、声を集め、発信し、エンパワーメントするWeb空間を構築します。そこではスタジオや仮想の学校等を作り、「まち」になぞらえ「JPAみんなのまち<ふらっと>」と名付けます。

② 希少疾患交流情報サイト <https://nancommu.net/>  
希少性ゆえに発信力が弱い難病等の患者会や患者さんの発信を支援し、相互連携を促進する場として、それらの活動を紹介するサイト<難コミュ>を構築します。



社会福祉

33

障害児者をケアする家族のエンパワメントを促進するリモートケアシステムの構築と検証

筑波大学医学医療系

准教授 涌水 理恵

本研究の目的は、家族エンパワメントに焦点を当てた研究代表者らの一連の研究で効果が高いと導き出された1) 家族エンパワメントプログラムの催行、2) オンライン個別相談、3) SHGおしゃべりサロンのリモート運用を柱としたケアシステムを構築し、Implementation Research (IR) 研究として社会における実装効果を数年間prospectiveに検証することであり、昨今のコロナ禍で病弱児・障害児者を取り巻くあらゆるサービスシステムの利用やケアラー達のピアコミュニティの機会が中止・漸減される状況下においても当該家族のエンパワメントを高め、維持するためのIR研究である。

本研究でケアラー支援のためのリモートケアシステムの効果検証と社会実装の可能性が確認できれば、今後、このシステムを国内外に発信・展開していくことができる。

## 第5回（2023年度）三菱財団文化財保存修復事業助成先一覧

番号	所在地	名称	使 途	金 額
1	宮崎県	宮崎県総合博物館 館長 松野 義直	蒙古襲来絵詞（案翁本）保存修理事業	4,880,000円
2	兵庫県	茂松寺 代表役員 宇野 元庸	絹本著色虎関師鍊画像保存修理事業	2,180,000円
3	奈良県	大福寺 代表役員 加藤 祥真	奈良県指定文化財瑞夢記美術工芸品保存修理事業	1,130,000円
4	京都府	宗教法人瑞光寺 代表役員 川口 智康	紙本墨書 艸山集 保存修理事業	2,250,000円
5	神奈川県	正福寺 代表役員 木村 企秀	平塚市指定重要文化財「正福寺木造保業師如来立像」保存修復事業	1,500,000円
6	京都府	観音寺 代表役員 小藪 実英	絹本著色薬師十二神将像 保存修理事業	1,500,000円
7	京都府	千手寺 代表役員 柴田 明恭	木造千手観音立像保存修理事業	2,000,000円
8	佐賀県	東妙寺 代表役員 早田 明弘	木造十一面観音立像保存修理事業	4,880,000円
9	和歌山県	宗教法人大泰寺 代表役員 西山 十海	大泰寺「十二神将立像」修復事業	1,300,000円
10	奈良県	光明宗法華寺 代表役員 門主 樋口 教香	法華寺所蔵 木造十一面観音立像修復事業	3,500,000円
11	大阪府	理智院 代表役員 藤永 隆弘	理智院所蔵 豊臣秀吉像桔梗桐菊文花唐草蒔絵螺細厨子の保存修復	4,880,000円
合 計			11件	30,000,000円

(所屬先・職名については2023年9月11日現在)



文化財

1

### 蒙古襲来絵詞(楽翁本)保存修理事業

宮崎県総合博物館

館長 松野 義直

『蒙古襲来絵詞』は、文永・弘安の役に参加した肥後国の御家人竹崎季長が描かせた絵巻物で、原本(宮内庁三の丸尚蔵館所蔵・旧御物本)は近年、国宝に指定されている。当館所蔵の『蒙古襲来絵詞(楽翁本)』は、楽翁松平定信が所蔵していた模本で、さらにイギリス人蒐集家フランク・ホーレーの旧蔵品であることが判明しており、伝来過程が明白な作品である。また、本作品は、多くの模本のなかでも早い時期に成立しており、原型に近い模本といえることから、絵画史的・歴史的価値が高い。

現状は傷みが甚だしく、展示や調査の実施が難しい状況にあるが、早急に修理を施すことで、一般市民への公開が可能になるとともに学術研究の進展が期待される。

文化財

2

### 絹本著色虎関師錬画像保存修理事業

茂松寺

代表役員 宇野 元庸

本図は法衣を着し、手に警策をとって曲桌に端然と椅坐する虎関師錬を描いた頂相である。図の画面上部には五山文学の巨匠である寂室元光(1290～1367)の賛にて「丙午」正平21年(貞治5年、1366)との年紀がある。これは、虎関師錬寂後20年目、寂室元光没年の前年77歳の年にあたる。

鋭い描線と重厚な色調による正確な描写と凛然とした眼の表現は、堂々とした虎関の風貌をよく伝えている。像主、著賛者ともに歴史的重要人物であり美術のみならず学術的にも価値は高い。

現状、全体の威容こそ保存されているものの、褪色、剥落等により状態は良くない。速やかに適切な修理が施され、その価値を広く長く保存されるべき絵画遺品であり、修復を通して歴史的価値が高まることが期待される。

文化財

3

### 奈良県指定文化財瑞夢記美術工芸品保存修理事業

大福寺

代表役員 加藤 祥真

奈良県広陵町に所在する大福寺は、聖徳太子の建立と伝える古刹である。今回保存修理を実施する「瑞夢記」は、櫛玉比女命神社がまつる弁才天の靈験を集成した説話集であり、令和4年3月に奈良県指定文化財に指定された。室町時代に書写されたものであるが、鎌倉時代の大和各地の人々の信仰・生活が活写されており、中世大和の社会・風俗を知ることができる好個の地域史料と評価できる。中世大和を主題とした説話集として類品を見出し難く、本品が「瑞夢記」の唯一の伝本となっていることも典籍としての価値を一層高めている。

現状、虫損や糊剥がれが著しく、公開が難しい状態にあるが、修理の実施をとおして広く本品の内容と価値を周知し、今後の活用を期したい。

文化財

4

### 紙本墨書 艸山集 保存修理事業

宗教法人瑞光寺

代表役員 川口 智康

本作は、江戸時代初期に、元政上人(1623～1668)によって作られた漢詩文の最高水準の作品であり、延宝二年(1674)に京都で出版された版本のもととなった、残されていることが稀な稿本である。作品のもとの姿と推敲の跡を留めており、極めて重要である。

現状では、本紙の欠失や汚れ、折れ皺や波打ち、綴じの紙繕りの欠失が生じているため、冊子装を解体した上で、欠失箇所を補修や汚れ除去、加圧整形を行い、新調した紙繕りで綴じ直す。これら修理により健全な状態を回復することで、美術館、博物館等での一般の人々への展示公開、また、調査研究が可能となり、近世前期の出版文化史研究や漢詩研究への貢献が期待できる。

文化財

5

## 平塚市指定重要文化財「正福寺木造 保薬師如来立像」保存修理事業

正福寺

代表役員 **木村 企秀**

本像は、正福寺薬師堂に眷属の十二神将像（室町時代）とともに安置されている。平安後期の造像とみられ、平塚市指定重要文化財になっている。左手に薬壺を持つ施無畏・与願印を結ぶ像で、小粒の螺旋髪、丸い顔、緩やかな表情、浅めの衣文の刻み方などは平安後期の定朝様の特徴を示し、神奈川県のご代彫刻史においても重要な存在といえる。

像は江戸時代、寛文十年（1670）に台座が補造されたことが墨書により知られる。それ以降は修理の手が入っていないようで表面の剥離、袖部、両足の欠損など、損傷が進み台座に自立出来ず、本体台座ともに修復が必要な状態である。

修復後は、特別公開を実施することで市民の文化財に対する誇りと愛護心が醸成される機会にしたい。

文化財

6

## 絹本著色薬師十二神将像 保存修理事業

観音寺

代表役員 **小藪 実英**

本図は、鎌倉時代後期、十四世紀前半に遡る薬師十二神将像の優品である。

当該時期の釈迦十六善神像や阿弥陀如来像等に比べて薬師如来像の遺品は少ない。

重要文化財に指定されている高野山桜池院本（鎌倉時代前期）、同じく藤田美術館本（鎌倉時代後期）に次ぐ鎌倉時代の極めて貴重な薬師十二神将像である。

本像の薬師如来像の尊容はよく保たれており、また十二神将像の着彩技法も素晴らしい。しかし、本紙全体に絹の亀裂や彩色顔料の浮きなど、展示はおろか開披するも危険な状態である。早急な補修が必要である。

本図は鎌倉時代に遡る絵画遺品として、国民の宝として認識されるべき貴重な尊像である。

文化財

7

## 木造千手観音立像保存修理事業

千手寺

代表役員 **柴田 明恭**

本像は古くから京の都と丹後・山陰地方を結ぶ交通の要衝である京都府京丹波町に所在し、蓮華王院本堂（三十三間堂）の千体千手観音立像に通じる像容を示している。同堂に現存する像の大半は建長元年（1249）焼失後の再興像で、本像は長寛二年（1164）同堂創建時の像とほぼ同時期の特徴が見られるが、本像の記録などは存在せず不明である。

本躰各所の表面で漆箔が浮き上がり剥落が進んでおり、持物と脇手の欠損、宝鉢手や天衣の取り付けが緩んで脱落した部分がある。光背の矧目が緩み不安定な状態で、台座の内部構造が弱く、早急に修理を要する状態である。

修理を契機とし、丹波地域の観音信仰が広く周知されることを期待する。

文化財

8

## 木造十一面観音立像保存修理事業

東妙寺

代表役員 **早田 明弘**

東妙寺は蒙古襲来を契機として建立された真言律宗の古刹で、本尊の木造釈迦如来坐像や木造聖観音立像などの重要文化財をはじめ、数多くの文化財を伝えている。

この十一面観音像は体内に墨書があり、正和4年（1315）に湛誉と湛真が制作したことが記されている。湛誉と湛真は運慶4代と目される湛康の門流で、長期にわたって九州での活動が知られている。

本像は鎌倉時代の基準作例として貴重であるが、後世の修理により容貌が損なわれているほか、漆箔彩色の剥落や随所に及ぶ朽損、矧目の緩みなど、早急な保存処置の必要があり、今回の修理によって十全な姿で鑑賞・研究に供されることで、彫刻史を始めとする学術的振興に寄与することが期待される。



文化財

9

### 大泰寺「十二神将立像」修復事業

宗教法人大泰寺

代表役員 西山 十海

大泰寺は熊野古道に所在する臨済宗妙心寺派の古刹である。伝教大師 最澄によって創建されたと伝えられ、江戸時代に改宗をしている。本尊の薬師如来像（平安時代）が重要文化財に指定されており、今回の事業で修復する十二神将は、その眷属として脇段に祀られている。従来、江戸時代の作と考えられていたが、近年の調査で鎌倉時代の作であることが明らかにされた。像容が、奈良・室生寺に伝来する十二神将像と共通する点や、十二体一具で伝来している点も貴重である。現在、表面の剥落が著しく、矧ぎ目が緩むなど、保存状態が劣悪である。早急な修理が望まれるとともに、今回の修復事業を通して学術的な研究が進むことを期待している。

文化財

10

### 法華寺所蔵 木造十一面観音立像 修復事業

光明宗法華寺

代表役員 門主 樋口 教香

法華寺本堂に安置される等身大の像で、左手に水瓶、右手に錫杖を執り、磐石上に立つ姿から長谷寺本尊を範とした長谷寺式の十一面観音像とわかる。頭部は室町時代頃の作、体部は鎌倉時代の作とみられ、できばえの優秀さのみならず像の表面に刀目を残して素地仕上げとする点から、病気の平癒や故人の追善などを願って真言を唱えながら1日で造り上げる「一日造立仏」の可能性がある。一日造立仏には、その旨を記した納入品を奉籠する事例があり、本像も解体修理によって納入品が見出される可能性を秘めているなど、中世の奈良の多様な信仰について考えるうえでも見逃せない作品である。現状では矧ぎ目の緩みや虫食いによる損傷が各所に認められ、光背が自立しないなど危険な状態にあるため保存修理を実施する。

文化財

11

### 理智院所蔵 豊臣秀吉像桔梗桐菊文 花唐草蒔絵螺鈿厨子の保存修復

理智院

代表役員 藤永 隆弘

理智院は大阪府の最南部、和歌山県境の岬町に所在する。当院には、豊臣秀吉に長年仕えた戦国大名桑山重晴が1600年頃当地に建立した豊国社に納めた「豊臣秀吉像桔梗桐菊文花唐草蒔絵螺鈿厨子」が伝わる。この厨子には桃山から江戸時代初期に国内で大流行した高台寺蒔絵と、螺鈿を採用し輸出漆器として造られた南蛮漆芸の二様式が混淆するが、これまで両者は別個の様式とされ、一つの器物に共存する作例は知られていなかった。

こうした意味で本作品は極めて重要かつ貴重な事例であり、二カ年に亘り実施する修復作業により、作品の保全は無論、これまで明らかでなかった新たな漆芸史の理解やこの時代の漆工実態解明への寄与が期待される。

三菱財団社会福祉特別助成<三菱財団 × 中央共同募金会 共同助成>  
 ~赤い羽根 ポスト・コロナ（新型コロナウイルス）社会に向けた  
 福祉活動応援キャンペーン~  
 「外国にルーツがある人々への支援活動応援助成（第4回）」  
 助成先一覧

① 生活等支援プログラム

番号	所在地	名称	使 途	金 額
1	東京都	特定非営利活動法人 MAIKEN 理事長 三浦 左千夫	在日ラテンアメリカ系住民のための無料の医療相談会を通じて、身体とこころの健康管理の必要性と公衆衛生知識の普及を図ると共に、支援の手が届きにくい方を地域で孤立化させないようにコミュニティとの連携を強化する活動	1,700,000円
2	愛知県	特定非営利活動法人 アイキャン 代表理事 鈴木 真帆	岐阜県美濃加茂市における外国にルーツを持つ生活困窮者の支援を通じた重層的な支援ネットワーク構築と受援力強化事業	3,000,000円
3	大阪府	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪 代表理事 三木 秀夫	介護施設で働く外国人介護スタッフを支援するための社会発信事業	2,190,000円
4	東京都	特定非営利活動法人HATI JAPAN 多文化多言語の子ども発達支援 代表理事 東谷 知佐子	中野区鷺宮地域に外国ルーツの人や子ども、保護者のための「居場所」を作る事業	3,000,000円
5	兵庫県	一般社団法人ひょうごラテンコミュニティ 代表 大城 ロクサナ	相談窓口と連携した、在日スペイン語圏出身者のためのコミュニティ防災促進	2,670,000円
6	福島県	公益財団法人 福島県国際交流協会 理事長 小沢 喜仁	外国にルーツがある児童・生徒の学校への早期適応のための支援事業	2,720,000円
7	福島県	特定非営利活動法人福島就労支援センター 理事長 小野 康平	福島県の働く外国人のためのキャリア・コミュニケーション能力アップ事業	1,960,000円
8	愛媛県	特定非営利活動法人 Community Life 理事長 松本 光司	外国人のためのソーシャルワークサービス事業	1,600,000円
9	東京都	特定非営利活動法人東京英語いのちの電話 理事長 アレクサンダー ドミトレンコ	自殺相談最適化事業ーメンタルヘルスに悩む外国人が英語で相談できる国際基準の自殺相談対応を取り入れた緊急ライフラインサポート底上げ	1,980,000円
10	東京都	特定非営利活動法人 豊島子どもWAKUWAKUネットワーク 理事長 栗林 知絵子	WAKUWAKU×ルーツ；外国にルーツを持つ子ども・若者のための居場所事業	680,000円
11	東京都	VILLA EDUCATION CENTER 代表理事 松尾 慎	困難な状況を生きる在日ミャンマー人の人生をサポートするための日本語学習支援・教科学習支援・生活サポート相談事業	2,240,000円
12	兵庫県	特定非営利活動法人 場とつながりの研究センター 理事長 長谷川 計二	周縁地域に暮らす在留外国人が抱える生活不安をなくすための、重層的なアウトリーチ型相談体制づくり事業	3,000,000円
13	東京都	特定非営利活動法人 メタノイア 代表理事 山田 拓路	難民の背景をもつクルド人住民の学びとつながりを支えるための日本語教室事業	2,990,000円



番号	所在地	名称	使 途	金 額
14	神奈川県	特定非営利活動法人 ABCジャパン 理事長 安富祖 美智江	心理カウンセリングと外国につながる児童・生徒のための学習支援と居場所づくり事業	2,900,000円
15	兵庫県	公益財団法人 神戸YWCA 理事長 平山 芳子	外国にルーツを持つ子どもたちのための日本語学習支援事業「勉強に役立つ日本語クラス」とその関連プログラム	3,000,000円
16	兵庫県	特定非営利活動法人 神戸定住外国人支援センター 理事長 金 宣吉	ポスト・コロナ時代における新たな孤立・困窮を予防するためのアウトリーチ体制構築事業	3,000,000円
17	神奈川県	ArtLabOva 代表 鈴木 敬之	海外につながるこどもと家族のための居場所と相談支援事業	2,430,000円
18	茨城県	認定特定非営利活動法人 茨城NPOセンター commons 代表理事 横田 能洋	オーバーエイジで来日した外国籍生徒等が学べる状況を高校内外につくる事業	2,890,000円
19	滋賀県	ワールドアミーゴクラブ 代表理事 吉積 尚子	外国にルーツがある子どもたちのための日本語指導や教科学習の支援及び多様な文化交流活動を通しての居場所づくりと、子どもたちの家庭への多様な支援活動	790,000円
20	兵庫県	社会福祉法人 イエス団賀川記念館 館長 馬場 一郎	外国にルーツをもつ子どもの学習支援はいず	2,410,000円
21	兵庫県	特定非営利活動法人 アジア女性自立プロジェクト 代表理事 奈良 雅美	地域に暮らす外国にルーツがある女性のための相談・情報発信事業	2,040,000円
22	東京都	公益財団法人 東京YWCA 代表理事 坂口 和子	日本語を母語としない親を持つ子どもたちとその保護者を対象とした日本語・学習支援『いちごの部屋』	2,760,000円
23	千葉県	千葉市JSL児童・生徒支援の会 代表 小林 稔子	日本語支援員による千葉市立小中学校に在籍する日本語を母語としない外国につながる児童生徒のための日本語学習支援事業	570,000円
24	島根県	大田日本語サークルこだま 代表 平田 節子	大田市在住の外国人のための日本語学習支援及び地域を含む交流事業	220,000円
25	香川県	香川まるがめ子どもにほんごひろば 会長 安藤 州一	外国人住民との共生をはぐくみ、確かな未来を応援するプログラム	2,210,000円
26	兵庫県	特定非営利活動法人 NGO神戸外国人救援ネット 理事長 飛田 雄一	窮迫する外国人への総合的な生活支援事業	3,000,000円
27	大阪府	Projeto Construir ARTEL 会長 田中ルジア みや	外国にルーツを持っている子どもと家族の未来のための光事業	1,800,000円
28	京都府	外国人女性の会パルヨン 代表理事 ハッカライネン・ニーナ	ポスト・コロナ社会で変化する外国人女性のニーズに柔軟に対応する居場所や支援体制づくり事業	2,980,000円
29	福島県	一般社団法人 SJW 代表理事 フェルナンド ダナンジ	「双葉郡・いわき市で暮らす外国にルーツを持つ子どもたちのための継続した支援事業：フリースクール、居場所・食事提供」	3,000,000円
プログラム① 小計 29件				65,730,000円

## ② 共生促進プログラム

番号	所在地	名称	使 途	金 額
30	東京都	特定非営利活動法人 アジア人文文化交流促進協会 理事長 石川 憲彦	地域住民の力を活かし共生を実践する 「おとなりさん」モデルの充実	1,000,000円
31	愛知県	特定非営利活動法人 Nagoya Ryugakusei Net 理事長 松浦 好治	Covid-19感染下およびその後の日本において、 名古屋地区の大学院留学生が効果的・組織的に 日本社会の実像を理解し、専門家・地域の人々 と交流する一方、研究活動を通じて日本での 広がりのある留学体験をするための支援事業	1,000,000円
32	福岡県	北九州多言語図書館 代表 新田 隆充	地域を超えた言語的ネットワークの構築 によって、地域の多文化共生を促進 する分散型多言語図書館の設置と運営	1,000,000円
33	秋田県	Pour Bébé 代表 作左部 紀子	妊娠中や乳幼児を子育て中の家族の ための、やさしい日本語と外国語による 子育て支援事業	130,000円
34	京都府	特定非営利活動法人 京都丹波・丹後ネットワーク 理事長 牧 紀男	外国ルーツの親子と地域住民が互いを 知り理解することから始める共生事業	700,000円
35	茨城県	しもつま外国人支援ネットワーク TOMODACHI 代表 小笠原紀子	地域の人たちと外国ルーツの人を つなげるための交流支援事業	1,000,000円
プログラム② 小計 6件				4,830,000円

## ③ 中間支援・ネットワーク支援

番号	所在地	名称	使 途	金 額
36	山口県	青年海外協力隊山口県OB会 会長 山尾 和宏	外国にルーツをもつ子どものための 支援ネットワーク構築事業	330,000円
37	東京都	特定非営利活動法人東京英語いのちの電話 理事長 アレクサンダー ドミトレンコ	外国にルーツを持つ学生（中・高・ 大）コミュニティ及びその子を持つ 親への自殺防止を含むメンタルヘルス ワークショップ事業	1,190,000円
38	東京都	在日韓国人福祉会 会長 金 榮子	外国にルーツがある人を支援する ボランティア、支援員の人材育成 ～新宿地域を中心とする外国人高齢者支援者 ネットワークづくり～	2,000,000円
39	愛媛県	特定非営利活動法人 Community Life 理事長 松本 光司	外国人支援ネットワーク構築と支援 団体の育成事業	2,000,000円
プログラム③ 小計 4件				5,520,000円

(所属先・職名については2023年10月24日現在)



#### ④ 調査研究プログラム

番号	所在地	名称	使 途	金 額
40	東京都	特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン 理事長 高橋 潤	杉並区内の多文化共生社会づくりのための調査研究事業	450,000円
41	大阪府	特定非営利活動法人 若者国際支援協会 代表理事 小柴 享子	大阪府で生活する外国人のための地域資源マップ（ガイドブック）作成事業	1,810,000円
42	東京都	特定非営利活動法人 JFCネットワーク 理事長 鈴木 雅子	人身取引被害を受けるJFC（Japanese-Filipino children）の実態調査事業	2,000,000円
プログラム④ 小計 3件				4,260,000円
総 合 計 42件				80,340,000円

（所属先・職名については2023年10月24日現在）

注）上記特別助成については、一件ごとの概要説明を省略致します。

助成総額の内訳は、当財団拠出分40百万円、中央共同募金会拠出分40,340千円です。

# 三菱財団のあらまし





# 設立趣意書

三菱事業の発生は、1870年(明治3年)10月に遡る。この時、創立者岩崎弥太郎が、彼の郷里土佐において海運業の経営に着手した。三菱企業は、近代日本の曙と共に生まれ、爾来日本経済と運命を共にして、幾多の苦難を経ながらも今日に至った。

即ち、今やわが国は、全世界を瞠目させる高度成長を遂げ、本格的国際化時代を迎えて、さらに大きく雄飛せんとしているが、三菱グループもまた、今日の姿を土台として、さらに国民経済の発展のために前進しようとしている。

しかしながら、周知のごとく、このような急速な経済発展の陰において、避け難いひずみとも見られる社会資本の不足があり、また国民生活の向上が、必ずしも国民福祉の向上と共存、均衡していないという問題がある。

更には、精神文化の退潮、自然科学特に基礎科学部門における頭脳流出現象、次代を託すべき青少年教育、発展にとり残された社会階層の存在等々今後克服さるべき問題は少なくない。

これらの不均衡の是正こそ国の政策と相まって、社会的責任ある代表的企業にとっての重大なる責務であり、関心事であるといわねばならない。

三菱グループは、創業以来公益に奉ずることを以て経営の基本理念として来た。たまたま明年秋、創業百周年の記念日を迎えるにあたり、伝統の精神を生かした最も有意義な事業を以ていささか社会に報い、一層の国民経済発展に資するため、関係各社相集い、財団法人三菱財団を設立せんとするものである。

当財団は、わが国社会の学術、教育、文化ならびに福祉の向上に資することを目的として、さしあたっては学術研究の助成、社会福祉に関する事業の助成を主たる事業とし、当初250百万円を以て発足するが、将来はさらに時代に適合した事業をも加え、今後10年間にわたり相当額の寄附を重ねて事業規模ならびに財団基礎を拡大強化せんとするものである。

(設立 昭和44年9月11日)

# The Mitsubishi Foundation

## Purpose of the Establishment of the Foundation

The formation of the Mitsubishi Group of Enterprises goes back to October, 1870 (the 3rd year of Meiji), when their founder Yatarō Iwasaki started marine transportation business at his native province, Tosa. In other words, the Mitsubishi Group was born at the daybreak of the modern age in Japan. Since then it has shared its fate with Japanese economy overcoming various kinds of trials.

Our country, Japan, has recently made such an astonishingly rapid growth, as has been looked upon by other nations in open-eyed astonishment, and going to take another flying jump in a coming age of more highly internationalized society. The Mitsubishi Group wishes to participate in such future development of national economy, marching forward from the bases so far attained.

As is commonly known, however, only insufficient amount of money has been spent for the welfare of the society—a fact which may appear to be a dark spot hidden behind such a rapid development in economy. We should therefore raise the question of whether the enhancement of standard of living has been followed by the corresponding development in the welfare of the people.

We wish to point out further that there are quite a few problems to be solved, such as decline in moral civilization, so-called “brain effluence” in the field of natural sciences, especially of basic sciences, unsatisfactory conditions in the education of the youth to whom the coming age is to be entrusted, and existence of a large portion of the society left behind the progress of the society.

We believe that to help to correct this imbalance, hand in hand with the measures to be taken by our government, should be a pressing duty and a matter of grave concern of leading enterprises on which rests high social responsibility.

It has been the basic policy for the Mitsubishi Group to serve the public benefit since its foundation. In line with this tradition, the companies forming the Mitsubishi Group jointly decided to establish a foundation to commemorate the 100th anniversary of the birth of the Mitsubishi business in the fall of next year (i.e., 1970), in the hope of making greater contribution to society and to the further development of our national economy.

The said Foundation is aimed at giving assistance to the enhancement of scholarship, education, culture and welfare in our society. The Foundation will start with the initial fund of 250 million yen to be used mainly for giving assistance to academic research, and activities concerned with social welfare. It is expected that the companies belonging to the Mitsubishi Group will make further contribution toward the Foundation in a substantial amount in the ten years to come, and that the Foundation will thereby be able to expand its scope of activities.

(The Mitsubishi Foundation was established on September 11, 1969.)



# 助成実績推移

(単位：円)

事業年度	自然科学研究助成		人文科学研究助成		社会福祉事業研究助成		文化財保存修復事業助成		その他の諸事業助成		合計		
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	
昭和45年度	1970	14	99,156,000			8	45,300,000			7	8,547,000	29	153,003,000
46	1971	16	99,103,400			7	48,036,000			21	12,811,028	44	159,950,428
47	1972	14	100,140,000	4	23,100,000	6	50,165,600			24	11,493,100	48	184,898,700
48	1973	14	109,700,000	5	19,950,000	7	50,000,000			26	12,772,675	52	192,422,675
49	1974	21	200,000,000	5	30,000,000	13	100,000,000			26	15,000,000	65	345,000,000
50	1975	14	110,000,000	4	25,000,000	9	50,000,000			28	15,000,000	55	200,000,000
51	1976	12	110,000,000	6	25,000,000	7	50,000,000			26	15,000,000	51	200,000,000
52	1977	15	110,000,000	8	25,000,000	10	50,000,000			22	13,460,000	55	198,460,000
53	1978	14	110,000,000	6	25,000,000	6	50,000,000			12	10,327,900	38	195,327,900
54	1979	21	200,000,000	7	35,000,000	14	100,000,000			10	8,300,000	52	343,300,000
55	1980	13	110,000,000	7	25,000,000	7	50,000,000			13	14,475,000	40	199,475,000
56	1981	16	150,000,000	11	35,000,000	11	70,000,000			6	5,500,000	44	260,500,000
57	1982	17	150,000,000	11	35,000,000	9	70,000,000			7	6,620,000	44	261,620,000
58	1983	17	150,000,000	12	35,000,000	10	70,000,000			9	9,330,000	48	264,330,000
59	1984	19	150,000,000	14	35,000,000	10	70,000,000			16	14,770,000	59	269,770,000
60	1985	16	150,000,000	13	35,000,000	11	70,000,000			11	12,785,000	51	267,785,000
61	1986	20	150,000,000	15	34,604,000	10	70,000,000			7	7,700,000	52	262,304,000
62	1987	23	170,000,000	15	34,990,000	10	70,000,000			5	2,500,000	53	277,490,000
63	1988	23	170,000,000	16	40,000,000	8	70,000,000			5	4,300,000	52	284,300,000
平成元年度	1989	30	220,000,000	23	45,000,000	12	80,000,000			4	3,000,000	69	348,000,000
2	1990	29	250,000,000	30	50,000,000	11	80,000,000			2	3,000,000	72	383,000,000
3	1991	31	271,000,000	25	55,000,000	11	85,000,000			4	5,000,000	71	416,000,000
4	1992	34	300,000,000	28	55,000,000	12	85,000,000			5	5,200,000	79	445,200,000
5	1993	35	300,000,000	16	55,000,000	11	85,000,000			5	3,500,000	67	443,500,000
6	1994	37	300,000,000	12	55,000,000	12	85,000,000			0	0	61	440,000,000
7	1995	37	300,000,000	11	55,000,000	11	85,000,000			4	3,400,000	63	443,400,000
8	1996	35	300,000,000	12	55,000,000	12	85,000,000			1	1,000,000	60	441,000,000
9	1997	35	300,000,000	9	55,000,000	13	85,000,000			0	0	57	440,000,000
10	1998	36	300,000,000	13	60,000,000	12	80,000,000			3	2,700,000	64	442,700,000
11	1999	40	300,000,000	17	60,000,000	21	90,000,000			1	1,000,000	79	451,000,000
12	2000	44	320,000,000	17	75,000,000	31	110,000,000			13	13,500,000	105	518,500,000
13	2001	40	300,000,000	20	60,000,000	27	90,000,000			7	9,600,000	94	459,600,000
14	2002	43	320,000,000	24	60,000,000	32	90,000,000			5	7,000,000	104	477,000,000
15	2003	43	300,000,000	26	60,000,000	42	90,000,000			3	4,700,000	114	454,700,000
16	2004	44	300,000,000	35	60,000,000	41	90,000,000			7	8,900,000	127	458,900,000
17	2005	47	300,000,000	36	60,000,000	42	90,000,000			5	5,000,000	130	455,000,000
18	2006	49	300,000,000	39	60,000,000	46	90,000,000			8	12,000,000	142	462,000,000
19	2007	49	300,000,000	40	60,000,000	47	90,000,000			7	10,900,000	143	460,900,000
20	2008	51	300,000,000	32	60,000,000	47	90,000,000			3	3,000,000	133	453,000,000
21	2009	51	300,000,000	36	58,500,000	41	90,000,000			3	5,000,000	131	453,500,000
22	2010	52	300,000,000	34	57,900,000	42	90,000,000			3	2,500,000	131	450,400,000
23	2011	46	250,000,000	30	50,000,000	35	70,000,000			0	0	111	370,000,000
24	2012	43	250,000,000	33	47,500,000	35	70,000,000			0	0	111	367,500,000
25	2013	45	250,000,000	34	50,000,000	35	70,000,000			2	1,500,000	116	371,500,000
26	2014	47	250,000,000	34	50,000,000	35	70,000,000			0	0	116	370,000,000
27	2015	50	259,000,000	36	52,000,000	38	74,000,000			2	1,500,000	126	386,500,000
28	2016	50	280,000,000	34	58,000,000	39	82,000,000			3	3,000,000	126	423,000,000
29	2017	50	300,000,000	32	60,000,000	38	90,000,000			2	1,300,000	122	451,300,000
30	2018	50	300,000,000	32	60,000,000	37	90,000,000			1	3,000,000	120	453,000,000
令和元年度	2019	67	352,000,000	47	100,000,000	41	100,000,000			4	8,000,000	159	560,000,000
2	2020	91	810,000,000	44	100,000,000	94	200,000,000			1	3,000,000	230	1,113,000,000
3	2021	61	340,000,000	28	58,700,000	80	130,000,000	11	25,000,000	0	0	180	553,700,000
4	2022	67	365,000,000	31	70,000,000	75	140,000,000	12	30,000,000	3	3,000,000	188	608,000,000
5	2023	66	365,000,000	29	68,900,000	75	140,000,000	11	30,000,000	2	2,000,000	183	605,900,000
合計		1,944	13,450,099,400	1,138	2,614,144,000	1,406	4,464,501,600	34	85,000,000	394	336,891,703	4,916	20,950,636,703

注) 人文科学研究助成の実績には、50周年記念特別助成として実施した文化財修復事業助成(令和元年度：9件・20万円、2年度：8件・20万円)が含まれています。

# 役員及び評議員名簿

(2024年7月1日現在、50音順)

役 職	氏 名	常勤・非常勤の別	現 職
理事長	三毛 兼承	非常勤	(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ取締役執行役会長
常務理事	七條 博明	常勤	
理事	上野谷 加代子	非常勤	日本医療大学教授 同志社大学名誉教授
理事	大宮 英明	非常勤	三菱重工業(株)名誉顧問
理事	岡田 清孝	非常勤	京都大学名誉教授 基礎生物学研究所名誉教授
理事	垣内 威彦	非常勤	三菱商事(株)取締役会長
理事	岸本 美緒	非常勤	お茶の水女子大学名誉教授
理事	黒田 玲子	非常勤	中部大学卓越教授 東京大学名誉教授
理事	佐藤 勝彦	非常勤	日本学術振興会学術システム研究センター顧問 東京大学名誉教授
理事	白井 克彦	非常勤	早稲田大学名誉顧問
理事	永井 良三	非常勤	自治医科大学学長
理事	早瀬 昇	非常勤	(福)大阪ボランティア協会理事長
理事	坂東 眞理子	非常勤	昭和女子大学総長
理事	細野 秀雄	非常勤	東京工業大学 元素戦略MDX研究センター 特命教授、栄誉教授
理事	室伏 きみ子	非常勤	お茶の水女子大学名誉教授・前学長
監事	上原 治也	非常勤	三菱UFJ信託銀行(株)特別顧問
監事	高岡 英則	非常勤	三菱金曜会事務局長
監事	西川 洋一	非常勤	東京大学名誉教授
監事	松尾 憲治	非常勤	明治安田生命保険(相)名誉顧問
評議員	安西 祐一郎	非常勤	慶應義塾学事顧問・同大学名誉教授 独立行政法人日本学術振興会顧問
評議員	飯野 正子	非常勤	津田塾大学名誉教授
評議員	磯崎 功典	非常勤	キリンホールディングス(株)代表取締役会長CEO
評議員	越智 仁	非常勤	三菱ケミカルグループ(株)シニアエグゼクティブコンサルタント
評議員	樺山 紘一	非常勤	東京大学名誉教授
評議員	岸 輝雄	非常勤	東京大学名誉教授 東京大学先端科学技術研究センターフェロー
評議員	北沢 利文	非常勤	東京海上日動火災保険(株)相談役
評議員	工藤 泰三	非常勤	日本郵船(株)特別顧問
評議員	小林 健	非常勤	三菱商事(株)相談役
評議員	佐々木 丞平	非常勤	京都大学名誉教授 京都国立博物館名誉館長
評議員	杉山 博孝	非常勤	三菱地所(株)特別顧問
評議員	竹内 章	非常勤	三菱マテリアル(株)取締役会長
評議員	佃 和夫	非常勤	三菱重工業(株)元取締役会長
評議員	遠山 敦子	非常勤	(公財)トヨタ財団顧問
評議員	野依 良治	非常勤	名古屋大学特別教授 日本学士院会員
評議員	平野 信行	非常勤	(株)三菱UFJ銀行特別顧問
評議員	堀田 凱樹	非常勤	東京大学名誉教授
評議員	水田 邦雄	非常勤	(福)恩賜財団母子愛育会理事長

(50音順)



# 選考委員

(2024年4月1日現在)

自然科学関係 11名		
委員長	十倉好紀	理化学研究所理事長特別補佐 東京大学卓越教授、特別荣誉教授
委員	川上則雄	立命館大学客員教授 大阪大学招聘教授
委員	矢富裕	国際医療福祉大学大学院長
委員	幾原雄一	東京大学大学院工学系研究科特別研究教授
委員	小川誠司	京都大学大学院医学研究科教授
委員	村田茂穂	東京大学大学院薬学系研究科教授
委員	澤本和延	名古屋市立大学大学院医学研究科教授 脳神経科学研究所長
委員	須藤靖	高知工科大学総合研究所特任教授
委員	杉本亜砂子	東北大学大学院生命科学研究科教授
委員	野崎京子	東京大学大学院工学系研究科 化学生命工学専攻教授
委員	東山哲也	東京大学大学院理学系研究科教授

人文科学関係 5名		
委員長	岩波敦子	慶應義塾大学理工学部教授
委員	福永伸哉	大阪大学大学院人文学研究科教授
委員	粕谷誠	東京大学大学院経済学研究科教授
委員	高嶋航	早稲田大学スポーツ科学学術院教授
委員	納富信留	東京大学大学院人文社会系研究科教

社会福祉関係 6名		
委員長	鈴木俊彦	日本赤十字社副社長
委員	妻鹿ふみ子	東海大学健康学部健康マネジメント学科教授
委員	曾根直樹	日本社会事業大学大学院福祉マネジメント研究科教授
委員	泉陽子	東北大学東北メディカル・メガバンク機構教授
委員	空閑浩人	同志社大学大学院社会学研究科教授
委員	緒方徹	東京大学大学院医学系研究科外科学専攻 感覚・運動機能医学講座リハビリテーション医学分野教授

文化財保存修復関係 3名		
委員長	小松大秀	公益財団法人永青文庫館長 秋田市立千秋美術館館長
委員	岩佐光晴	成城大学文芸学部教授
委員	林温	慶應義塾大学文学部名誉教授

(敬称略、就任順)

# 2023年度 決算報告書

## 貸借対照表

2024年3月31日現在

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産	406,511,620	490,443,048	△ 83,931,428
2. 固定資産	35,552,524,786	32,495,697,561	3,056,827,225
(1) 基本財産	30,028,345,233	28,929,854,313	1,098,490,920
(2) 特定資産	5,514,903,759	3,554,184,292	1,960,719,467
(3) その他固定資産	9,275,794	11,658,956	△ 2,383,162
資産合計	35,959,036,406	32,986,140,609	2,972,895,797
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債	222,417,444	249,151,669	△ 26,734,225
2. 固定負債	14,292,000	22,862,000	△ 8,570,000
負債合計	236,709,444	272,013,669	△ 35,304,225
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産	9,832,725,000	10,020,891,000	△ 188,166,000
2. 一般正味財産	25,889,601,962	22,693,235,940	3,196,366,022
正味財産合計	35,722,326,962	32,714,126,940	3,008,200,022
負債及び正味財産合計	35,959,036,406	32,986,140,609	2,972,895,797

## 正味財産増減計算書

2023年4月1日から2024年 3月31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増 減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益	637,756,879	606,856,125	30,900,754
②特定資産運用益	125,043,961	128,626,644	△ 3,582,683
③運用財産運用益	4,176	5,087	△ 911
④雑収益	11,290,530	8,160,707	3,129,823
経常収益計	774,095,546	743,648,563	30,446,983
(2) 経常費用			
①事業費	706,879,289	695,174,875	11,704,414
②管理費	41,515,621	37,103,517	4,412,104
経常費用計	748,394,910	732,278,392	16,116,518
評価損益等調整前 当期経常増減額	25,700,636	11,370,171	14,330,465
評価損益等計	3,170,665,387	△ 428,418,370	3,599,083,757
当期経常増減額	3,196,366,023	△ 417,048,199	3,613,414,222
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	1	1	0
当期経常外増減額	△ 1	△ 1	0
当期一般正味財産増減額	3,196,366,022	△ 417,048,200	3,613,414,222
一般正味財産期首残高	22,693,235,940	23,110,284,140	△ 417,048,200
一般正味財産期末残高	25,889,601,962	22,693,235,940	3,196,366,022
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
当期指定正味財産増減額	△ 188,166,000	△ 421,497,000	233,331,000
指定正味財産期首残高	10,020,891,000	10,442,388,000	△ 421,497,000
指定正味財産期末残高	9,832,725,000	10,020,891,000	△ 188,166,000
<b>III 正味財産期末残高</b>	35,722,326,962	32,714,126,940	3,008,200,022



# キャッシュ・フロー計算書

2023年4月1日から2024年3月31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 事業活動によるキャッシュ・フロー			
1. 事業活動収入			
基本財産利息収入	527,125,429	516,544,025	10,581,404
基本財産配当金収入	110,631,450	90,312,100	20,319,350
② 特定資産運用収入	125,043,961	128,626,644	△ 3,582,683
③ 運用財産運用収入	4,176	5,087	△ 911
④ その他の事業活動収入	6,169,491	5,580,278	589,213
事業活動収入計	768,974,507	741,068,134	27,906,373
2. 事業活動支出			
① 事業費支出	731,574,010	774,821,363	△ 43,247,353
② 管理費支出	42,603,789	35,667,365	6,936,424
事業活動支出計	774,177,799	810,488,728	△ 36,310,929
事業活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,203,292	△ 69,420,594	64,217,302
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
1. 投資活動収入	5,380,959,249	159,340,019	5,221,619,230
2. 投資活動支出	5,459,687,385	169,079,019	5,290,608,366
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 78,728,136	△ 9,739,000	△ 68,989,136
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	0	0	0
IV 現金及び現金同等物の増減額	△ 83,931,428	△ 79,159,594	△ 4,771,834
V 現金及び現金同等物の期首残高	488,917,348	568,076,942	△ 79,159,594
VI 現金及び現金同等物の期末残高	404,985,920	488,917,348	△ 83,931,428

# 主要年度日誌

年月日	摘要
2023年 9.11	2023年度自然科学研究、人文科学研究、社会福祉事業・研究、文化財保存修復事業助成金贈呈式開催
10.24	第64回臨時理事会(決議の省略) 「社会福祉特別助成」助成先決定の件ほか
10.27	2024年度社会福祉第1回選考委員会 審査方針、応募要領等の決定
10.31	2024年度人文科学第1回選考委員会 審査方針、応募要領等の決定
11. 6	2024年度文化財保存修復第1回選考委員会 審査方針、応募要領等の決定
11. 7	2024年度自然科学第1回選考委員会 審査方針、応募要領等の決定
12.13	2024年度人文科学研究助成、文化財保存修復事業助成公募受付開始
12.21	2024年度社会福祉事業・研究助成公募受付開始
2024年 1. 5	2024年度自然科学研究助成公募受付開始
1.10	2024年度人文科学研究助成公募を締め切る 応募件数 290件、金額 881百万円
1.10	2024年度文化財保存修復事業助成公募を締め切る 応募件数 24件、金額 64百万円
1.18	2024年度社会福祉事業・研究助成公募を締め切る 応募件数 156件、金額 579百万円
2. 2	2024年度自然科学研究助成公募を締め切る 応募件数 1,092件、金額 8,494百万円
2. 6	第65回理事会(決議の省略) 第31回評議員会開催の件
2.28	第66回理事会 2024年度(2025年3月期)事業計画・収支予算及び資金調達と設備投資の見込みの件ほか
2.28	第31回評議員会 2024年度(2025年3月期)事業計画・収支予算及び資金調達と設備投資の見込みの件ほか
3.22	2024年度文化財保存修復第2回選考委員会 助成金贈呈先14件推薦を決定
3.26	2024年度社会福祉第2回選考委員会 助成有力候補選出、候補先面接等の分担・日程を決定
3.28	2024年度人文科学第2回選考委員会 助成有力候補選出、一部につき面接を決定
3.29	2024年度自然科学第2回選考委員会 具体的選考手順、審査分担の決定
3.31	2023年度(2024年3月期)期末決算
4. 8	2024年度人文科学第3回選考委員会 一部有力候補者の面接選考、助成金贈呈先33件推薦を決定
4.16 ~ 23	社会福祉助成有力候補者の面接選考
5.10 ~ 12	2024年度自然科学第3回選考委員会 助成候補の審議検討、助成有力候補を選出
5.28 ~ 29	2024年度自然科学第4回選考委員会 助成有力候補者の面接選考、助成金贈呈先74件推薦を決定
5.31	2024年度社会福祉第3回選考委員会 面接等に基づき、助成金贈呈先42件推薦を決定
6. 4	第67回理事会(決議の省略) 2023年度(2024年3月期)事業報告・決算報告承認ほか
6.25	第68回理事会 ○2024年度助成先決定 ・第55回(2024年度)自然科学研究助成金贈呈先74件の承認 ・第53回(2024年度)人文科学研究助成金贈呈先33件の承認 ・第55回(2024年度)社会福祉事業・研究助成金贈呈先42件の承認 ・第6回(2024年度)文化財保存修復事業助成金贈呈先14件の承認 ○2025年度選考委員選出(自然科学11名、人文科学5名、社会福祉6名、文化財保存修復3名)
6.25	第32回評議員会 ○2023年度(2024年3月期)事業報告・決算報告承認 ○監事選任(新任1名) ○評議員選任(新任1名)

# 三菱財団基金拠出会社

三菱重工業株式会社

株式会社三菱UFJ銀行

三菱商事株式会社

三菱UFJ信託銀行株式会社

明治安田生命保険相互会社

東京海上日動火災保険株式会社

三菱電機株式会社

ENEOSホールディングス株式会社

キリンホールディングス株式会社

三菱地所株式会社

三菱自動車工業株式会社

AGC株式会社

三菱マテリアル株式会社

三菱UFJ証券ホールディングス株式会社

三菱ふそうトラック・バス株式会社

日本郵船株式会社

三菱ガス化学株式会社

株式会社ニコン

三菱倉庫株式会社

三菱ケミカルグループ株式会社

三菱製鋼株式会社

三菱製紙株式会社

三菱化工機株式会社

株式会社三菱総合研究所

MAアルミニウム株式会社

郵船ロジスティクス株式会社

三菱電線工業株式会社

株式会社島津製作所

株式会社GSユアサ

旭ファイバーグラス株式会社

大日本塗料株式会社

三菱UFJニコス株式会社

三菱HCキャピタル株式会社

アストモスエネルギー株式会社

三菱ロジスネクスト株式会社

日本タタ・コンサルタンシー・サービシズ株式会社

三菱鉱石輸送株式会社

三菱総研DCS株式会社

三菱ケミカル株式会社

ピーエス・コンストラクション株式会社

以上40社  
(2024年7月現在)





公益財団法人 **三菱財団**

〒100-0005

東京都千代田区丸の内2丁目3番1号

三菱商事ビルディング21階

電 話 (03) 3214-5754

F A X (03) 3215-7168

E-mail [info@mitsubishi-zaidan.jp](mailto:info@mitsubishi-zaidan.jp)

三菱財団 ホームページ

<https://www.mitsubishi-zaidan.jp>

三菱グループ ホームページ 助成活動紹介サイト

<https://www.mitsubishi.com/ja/philanthropy/>

公益財団法人 三菱財団  
THE MITSUBISHI FOUNDATION

